RICOH

Caplio RX

使用説明書（使いこなしガイド）

メモ

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

使用説明書の構成について

Caplio RX には、次の３種類の使用説明書が付属しています。

1.最初にお読みください

『はじめにお読みください』（1 枚の紙の使用説明書）

同梱品の紹介から、簡単な撮影までを説明しています。

ご使用の前に、まず最初にこの『はじめにお読みください』をお読みください。

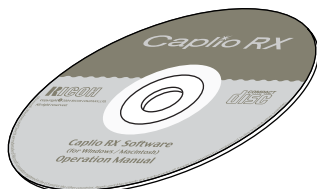
2.使いかたをひととおり知るには

『使用説明書（かんたんガイド）』（冊子の使用説明書）

カメラをひととおり楽しむための説明書です。このかんたんガイドだけでもカメラの使いかたがひととおり理解できます。

3.必要に応じて、お読みください

『使用説明書（使いこなしガイド）』
※このファイルです。

カメラのすべての機能と使いかたを説明しています。カメラを十分にご活用いただくために、一度最後までお読みください。また、必要なときに随時ご利用ください。

使いこなしガイドの読みかた

画面について

本書で使用している液晶モニターの画面写真例は、撮影等に関する機能が本カメラと同様の仕様をもつ Caplio G4 wide のものを使用しています。

用語について

本書では、静止画/動画/音声をまとめて「画像」または「ファイル」と呼んでいます。

マークについて

使いこなしガイドは次のマークを使って表記しています。

注意

注意事項

操作上、守っていただきたい注意事項や制限事項です。

メモ

メモ

そのページに関する補足説明や、操作について知っておくと役に立つ事柄です。

参照

参照

関連する機能のページを示しています。なお、本文中に参照ページを「→P.xx」という表記で示している場合もあります。

用語説明

用語説明

そのページで説明されている内容から、知っておいていただきたい用語をピックアップして解説しています。

目次

Section5 ダイレクトプリントで印刷する

Section6 その他の機能について

Section7 カメラの設定を変更する

Chapter 2 パソコンで画像（静止画 / 動画）を楽しむ（Windows 編）

Section 1 ソフトをインストールする

Section 2 画像をパソコンに取り込む

Section3 画像をサムネイル表示する（DU-10x の使いかた）

Chapter 3　パソコンで画像（静止画 / 動画）を楽しむ（Macintosh 編）

Section 1 ソフトをインストールする

Section 2 画像をパソコンに取り込む

付録

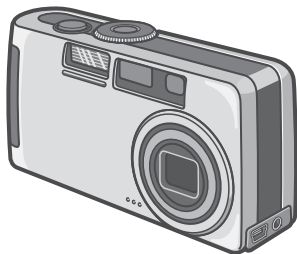
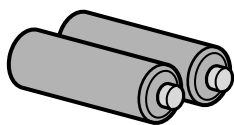
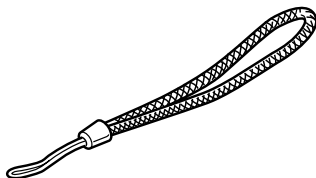
Chapter 1
カメラの使いかた

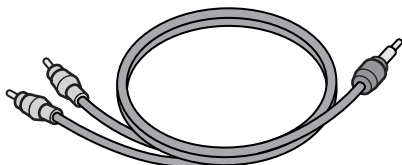
Section 1
準備する

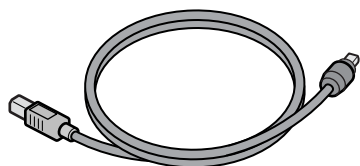
ここでは、パッケージからカメラを取り出して撮影できる状態に準備するまでを説明します。

梱包品を確認する

カメラのパッケージには次のものが入っています。すべて揃っているか確認しましょう。

Caplio RX

単三アルカリ乾電池（2）

ハンドストラップ

AVケーブル

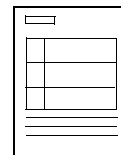
テレビで画像を見るときに使用します。

USBケーブル

カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンタと接続するときに使用します。

はじめにお読みください

使用説明書（かんたんガイド）

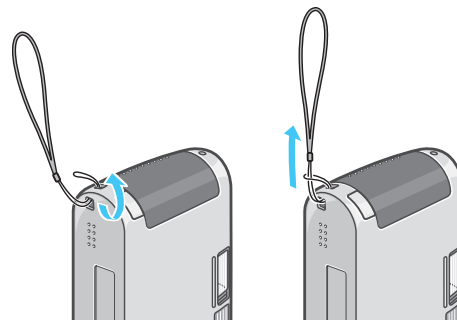
Caplio CD-ROM

ソフトウェアと『使用説明書（使いこなしガイド）』が含まれています。

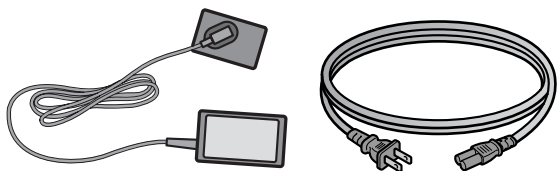
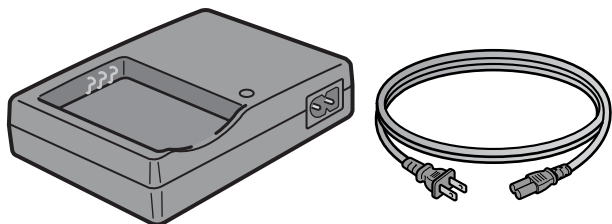
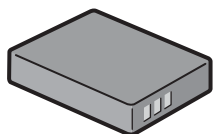
保証書 / ご愛用者登録カード

安全上のご注意

メモ

ハンドストラップの取り付けかた

ストラップの先端を、カメラのストラップ取り付け部に通し、図のように取り付けます。

別売り品について

ACアダプター（AC-4a）

家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。長時間の再生、パソコンへの画像の転送時などにご利用ください。

バッテリーチャージャー（BJ-2）

リチャージャブルバッテリー（DB-43）

その他の別売り品

- バッテリーチャージャー（BJ-2）
- PC カードアダプター（FM-SD53）
- リチャージャブルバッテリーセット（BS-3 ）リチャージャブルバッテリー（DB-43）と、バッテリーチャージャー（BJ-2）のセットです。
- SD メモリーカード（市販）

注意

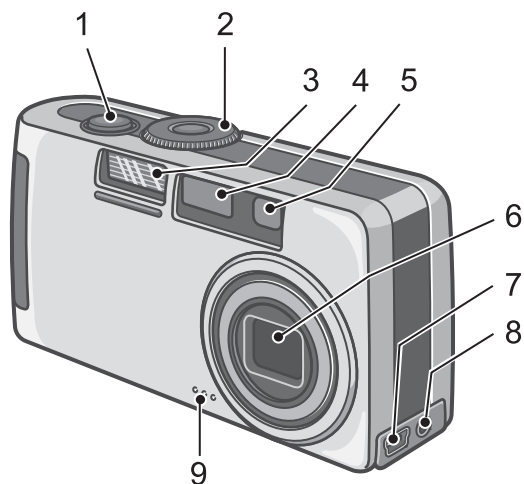
万一不足していたり、破損していた場合には、お買い上げの販売店へご連絡ください。

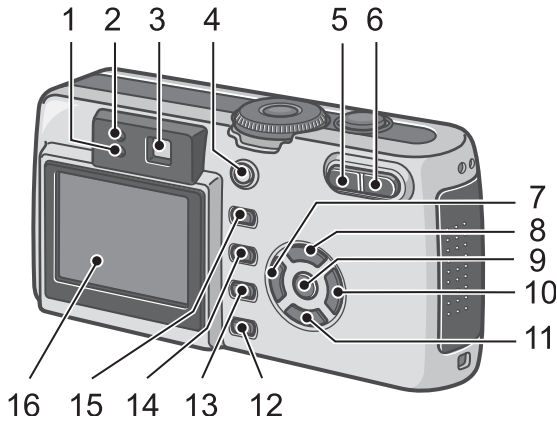
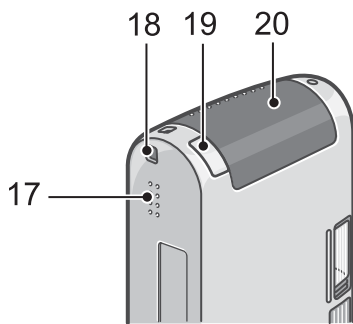
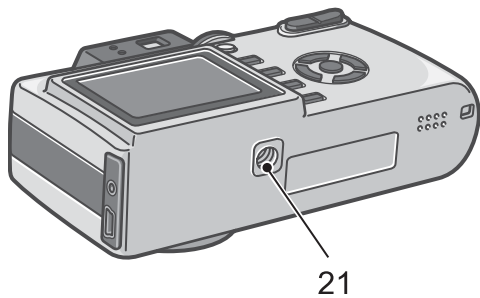
保証書は、内容をお確かめの上、大切に保管してください。

各部の名称

カメラの各部の名称です。本書での説明を読む上で必要になります。ひととおり確認しておきましょう。

カメラ本体

前面

1. シャッターボタン →P.35
2. モードダイヤル →P.11
3. フラッシュ発光部
4. AF 窓
5. ファインダー
6. レンズ
7. USB 端子 →P.128、P.156
8. AV 出力端子 →P.86
9. マイク →P.47

背面

側面（前面から見て左）

底面

1. フラッシュランプ
2. オートフォーカスランプ
3. ファインダー
4. 電源ボタン →P.16
5. [広角アイコン]（広角）/[サムネイルアイコン]（サムネイル表示）ボタン →P.43
6. [望遠アイコン]（望遠）/[拡大アイコン]（拡大表示）ボタン →P.43
7. ◀/[クイックレビューアイコン]（クィックレビュー）ボタン →P.78
8. ▶/[フラッシュアイコン]（フラッシュ）ボタン →P.50
9. OK ボタン
10. ▲ボタン
11. ▼/[マクロアイコン]（マクロ）ボタン →P.45
12. DISP. ボタン
13. MENU ボタン
14. [削除アイコン]（削除）/[セルフタイマーアイコン]（セルフタイマー）ボタン →P.87/→P.51
15. ADJ.ボタン
16. 液晶モニター
17. スピーカー
18. 電源（DC 入力）ケーブルカバー
19. ストラップ取り付け部 →P.8
20. バッテリー / カードカバー
21. 三脚ネジ穴（底面）

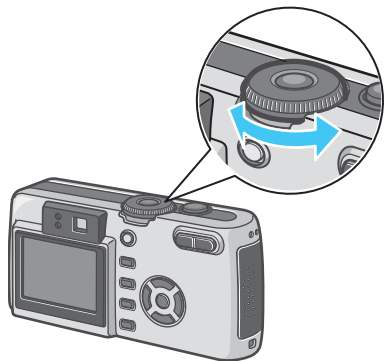
注意

故障の原因になりますので、マイクやスピーカーの穴に針等を通さないでください。

モードダイヤルの使いかた

カメラの上部にはモードダイヤルがあります。

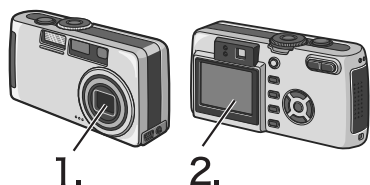
撮影、再生（静止画を見る）、設定の変更などのカメラの操作は、このモードダイヤルを切り替えてから行います。

1. モードダイヤルを回して、使用するモードのマークに合わせる

モードダイヤルのマークと働き

マーク	モード名	働き
SETUP	SETUP モード（セットアップ）	カメラの設定や設定確認ができます。
🎙	音声モード	音声を記録できます。
🎥	動画モード	動画を記録できます。
SCENE	SCENE モード（シーン）	6 種類の撮影ができます。
📷	撮影モード	静止画を撮影できます。
▶	再生モード	静止画・動画を再生・削除することができます。

電池をセットする

すでにお使いのお客様は、電池を着脱する前に、以下の方法で電源がオフになっていることを確認してください。

1. 液晶モニターが消灯していることを確認する
2. 1.を確認した上で、レンズのバリア（保護板）が閉じていることを確認する

カメラには、次の電池が使用できます。用途に合わせて使い分けてください。

- 単三アルカリ乾電池（LR6）（付属）

  どこでも入手しやすいので、旅行のときなどに便利です。
  ただし、寒冷地などの低温環境では、撮影可能枚数が少なくなります。電池を手で温めるなどして使用してください。より長い時間カメラをご使用いただくには、リチャージャブルバッテリーの利用をお勧めします。

- リチャージャブルバッテリーDB-43（別売り）

  リチウムイオン電池です。バッテリーチャージャー BJ-2（別売り）で充電して繰り返し使用できるので、経済的です。持続時間が長いので、旅行のときなどに便利です。

- 単三ニッケル乾電池（市販）

  充電式ではありませんが、デジタルカメラで使用した場合、単三アルカリ乾電池に比べて持続時間が長く、便利です。

- ニッケル水素電池（市販）

  充電して繰り返し使用できるので、経済的です。充電には市販の充電器をご使用ください。
  ただし、ご購入直後や1ヶ月以上使用しないで放置すると“不活性状態”となっている場合があり、電池本来の性能が発揮されないため、その場合には2～3回充電を繰り返してから再度ご使用ください。また、カメラを使用しないでいるときも、自己放電により容量が徐々に低下するため、ご使用の前には再度充電を行ってください。

メモ

撮影可能枚数の目安

電池の種類	枚数	枚数 *1
単三アルカリ乾電池（LR6）	約 150 枚	約 170 枚
リチャージャブルバッテリー（DB-43）	約 400 枚	約 450 枚

*1：シンクロモニターモードのときの枚数です。（→P.23）

- ※枚数は、22 ℃、約 30秒間隔、2回に 1 回フラッシュを発光して撮影した場合の数です。節電モードにすると、撮影可能枚数を増やすことができます。なお、電池の

他にも、AC アダプター（別売り）がご使用いただけます。

・枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分撮影可能時間（枚数）が短くなります。

注意

・マンガン乾電池（R6）およびニッカド電池は、ご使用になれません。

・長い期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。

・単三アルカリ乾電池（LR6）の場合、電池の銘柄、製造日からの保存期間により電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ電池はその特性上、低温時には使用時間が極端に短くなります。

・なお、市販のニッケル水素電池はご購入時には充電されていません。ご使用の前に充電してお使いください。
購入直後や長期の保存後の充電時は、満充電にならないことがあります。充電・放電を繰り返してからご使用ください。詳細は電池、充電器の説明書をご覧ください。

・使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。

メモ

電池の残量表示

液晶モニターの左下には、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に、新しい電池をご用意ください。

電池マーク	説明
	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の残量が少なくなっています。新しい電池をご用意ください。
	電池の残量がなくなりました。電池を交換してください。

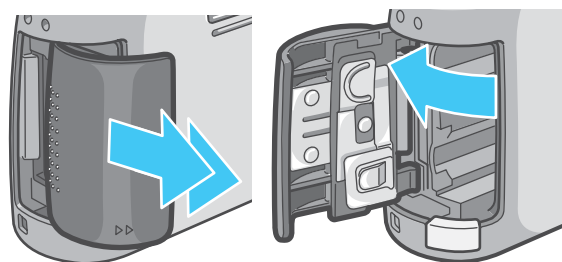
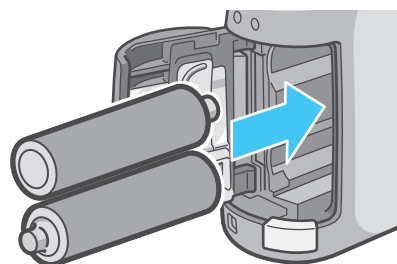
注意

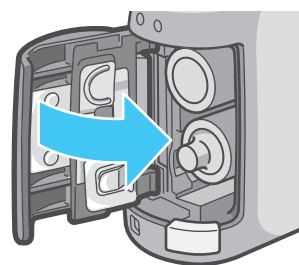
ニッケル水素電池をご使用の場合、電池の種類や条件によっては、表示が出なかったり、表示または表示がすぐに出ることがあります。あらかじめ、お手持ちの電池をご確認の上、ご使用ください。

乾電池をセットする

すでにお使いのお客様は、電池をセットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1. バッテリー/カードカバーをスライドさせて開ける

スライドは 2段になっています。
2　段目までスライドさせると、バッテリー/カードカバーが開きます。

2. 電池の向きに気を付けて、電池を2本入れる

3. バッテリー/　カードカバーを閉じて、スライドさせる

注意

・マンガン乾電池（R6）およびニッカド電池は、ご使用になれません。

・単三アルカリ電池（LR6）の場合、ご購入の電池によって撮影可能枚数が異なることがあります。

・長い期間カメラをご使用ならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。

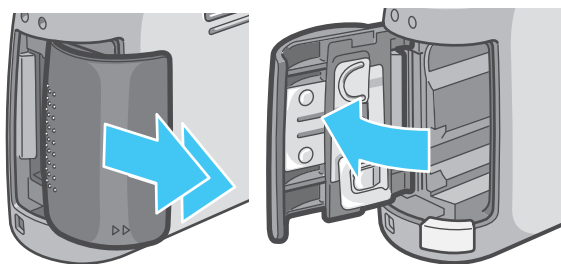
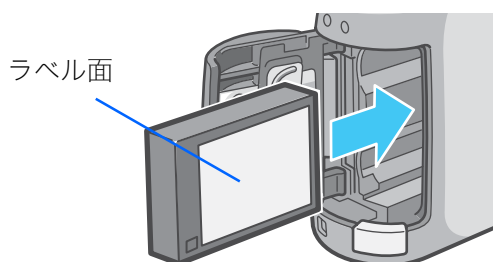
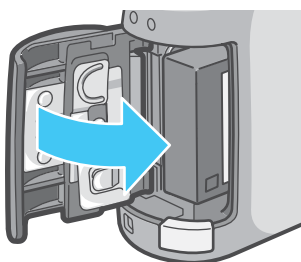
リチャージャブルバッテリーを使うときには

リチャージャブルバッテリー (DB-43) は、本カメラで使用できる充電池です。持続時間が長く、充電により繰り返し使用でき便利です。

リチャージャブルバッテリーをセットするには

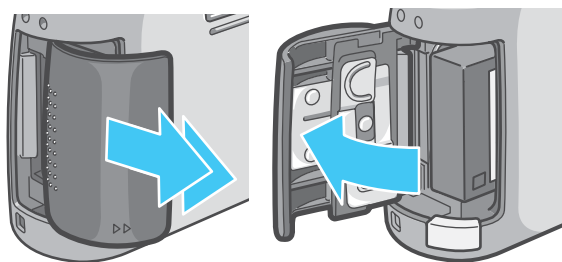
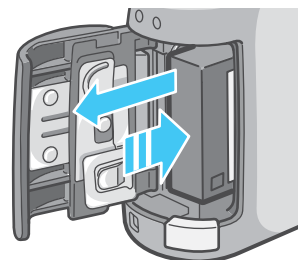
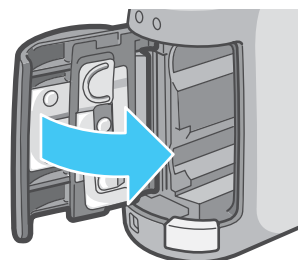
すでにお使いのお客様は、電池をセットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1. バッテリー/カードカバーをスライドさせて開ける

スライドは2段になっています。
2 段目までスライドさせると、バッテリー/カードカバーが開きます。

2. リチャージャブルバッテリーを挿入する

3. バッテリー/ カードカバーを閉じて、スライドさせる

リチャージャブルバッテリーを取り出すには

すでにお使いのお客様は、電池を取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1. バッテリー/カードカバーをスライドさせて開ける

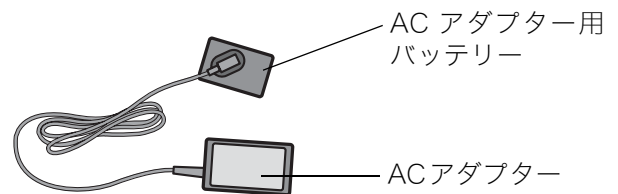
スライドは2段になっています。
2 段目までスライドさせると、バッテリー/カードカバーが開きます。

2. リチャージャブルバッテリーを取り出す

3. バッテリー/ カードカバーを閉じて、スライドさせる

メモ

- 長時間カメラをご使用にならない場合には、リチャージャブルバッテリーを抜いてカメラを保管してください。
- 充電には別売りのバッテリーチャージャー（BJ-2)をご使用ください。
- 抜いたバッテリーは涼しい場所に保管してください。

リチャージブルバッテリーの充電時間（BJ-2使用時間）

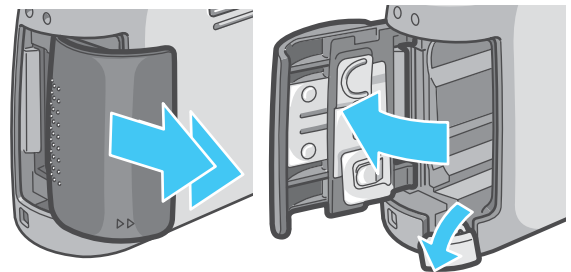
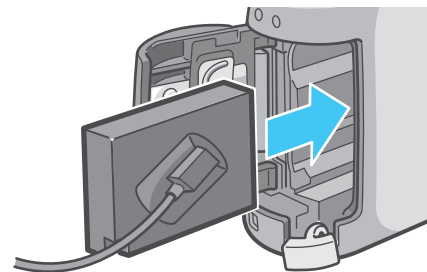
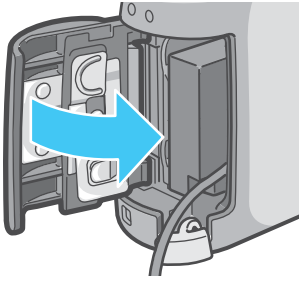
DB-43	約 220 分（常温）

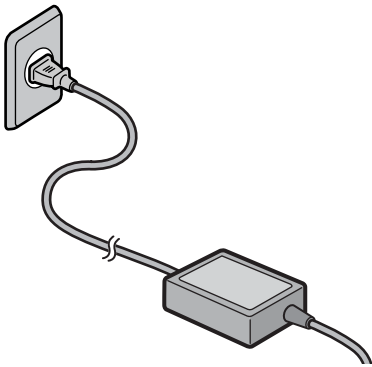
ACアダプターを使うときには

撮影や静止画を見る際に長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、AC アダプター（別売り）を接続して、家庭用コンセントから電源をとることをお勧めします。

ACアダプターをセットするには

すでにお使いのお客様は、AC アダプターをセットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1. バッテリー/カードカバーをスライドさせて開ける

スライドは2段になっています。
2 段目までスライドさせると、バッテリー/カードカバーが開きます。

2. AC アダプター用バッテリーを挿入する

3. 電源（DC入力）ケーブルカバーを開け、ケーブルを外に出す

4. バッテリー／ カードカバーを閉じて、スライドさせる

5. 電源プラグをコンセントに差し込む

メモ

- 電源プラグや接続ケーブルは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、ACアダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- カメラの使用中に AC アダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。

注意

AC アダプターをご使用の際は、電池残量マークがフルにならないことがあります。

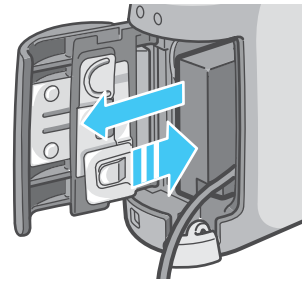
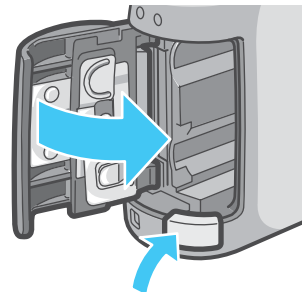
ACアダプターを取り外すには

すでにお使いのお客様は、AC アダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜く

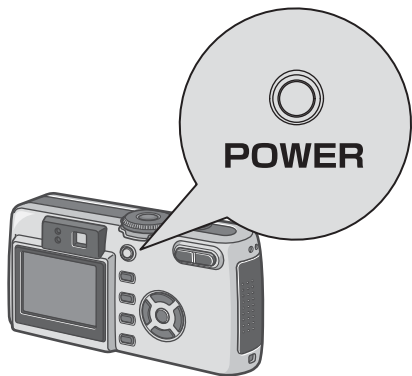
2. バッテリー/カードカバーをスライドさせて開ける

スライドは2段になっています。
2 段目までスライドさせると、バッテリー/カードカバーが開きます。

3. AC アダプター用バッテリーを取り出す

4. バッテリー／ カードカバーを閉じて、スライドさせる

電源をオン/オフする

カメラの電源のオン、オフは、次のように操作します。

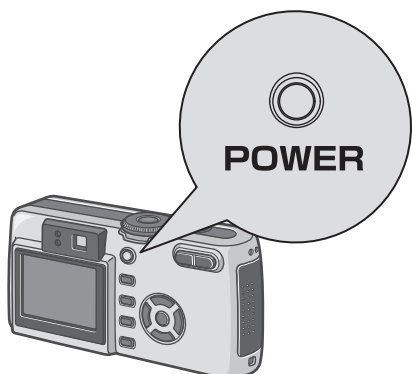
電源をオンにする

1. 電源ボタンを押す

起動音が鳴り、フラッシュランプとオートフォーカスランプが、約数秒間交互に点滅します。

購入後、はじめて電源をオンにすると、日付時刻の設定画面が表示されます。『スタートガイド』または『使用説明書（かんたんガイド）』を参照して、設定しましょう。

なお、日付時刻の設定は、SETUP画面から行うこともできます。

電源をオフにする

1. 電源ボタンを押す

メモ

オートパワーオフについて

- 設定した時間内にカメラのボタンを押す操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。引き続きカメラを使用したいときには、もう一度電源ボタンを押してオンにします。
- 購入時のオートパワーオフは1分に設定されています。
- オートパワーオフは、パソコンと接続しているときには、働きません。

節電モードについて

- 節電モードをONにすると、液晶モニターの消費電力を少なくして、電池の寿命を延ばすことができます。
- 節電モードがONに設定されていると、撮影モード時に液晶モニターが点灯しません。液晶モニターが点灯しないときには、SETUPダイヤルをまわして節電モードの設定を確認してください。

参照

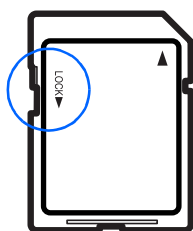
- オートパワーオフ時間を変更するには→P.108
- 節電モードを設定するには→P.110
- 起動音の設定について→P.107
- 日付時刻の設定について→P.111

SDメモリーカード（市販）をセットする

撮影した静止画や動画は、カメラ本体に内蔵されているメモリーか、SD メモリーカード（市販）に記録されます。

メモ

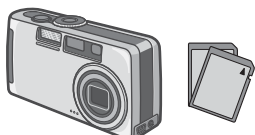
誤って静止画を消さないようにするには

SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、静止画の削除やフォーマットができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除もフォーマットもできるようになります。

大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。

なお、「LOCK」の状態にするとカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。

メモ

内蔵メモリーの容量は、8MBです。

参照

・SD メモリーカードに記録できる画像の枚数について→P.164

・SD メモリーカードをフォーマットする→P.104

メモ

記録先について

SD メモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときには SD メモリーカードに記録されます。

本体のみのとき	SD メモリーカードがセットされているとき
内臓メモリーに記録	SD メモリーカードに記録

メモ

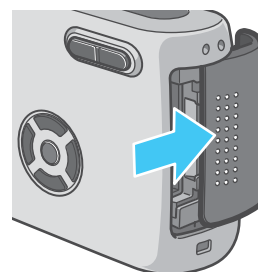
・SD メモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。

・SD メモリーカードの金属端子部を汚さないように注意しましょう。

SDメモリーカードをセットするには

すでにお使いのお客様は、SD メモリーカードをセットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1. バッテリー/カードカバーをスライドさせて開ける

スライドは2段になっています。
1 段目でカードのセット、取り出しができます。

2. カードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでカードを奥へ挿入する

3. バッテリー / カードカバーを閉じて、スライドさせる

メモ

SD メモリーカードをセットする際、カードの金属端子部を汚さないように注意してください。

SDメモリーカードを取り出すには

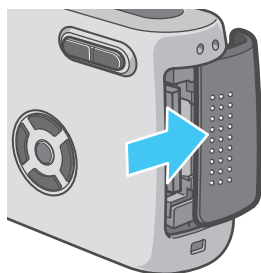
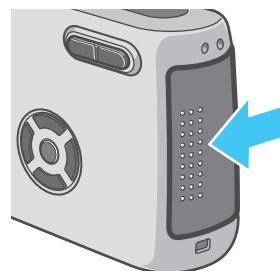
すでにお使いのお客様は、SD メモリーカードを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1. バッテリー/カードカバーをスライドさせて開ける

スライドは2段になっています。1段目でカードのセット、取り出しができます。

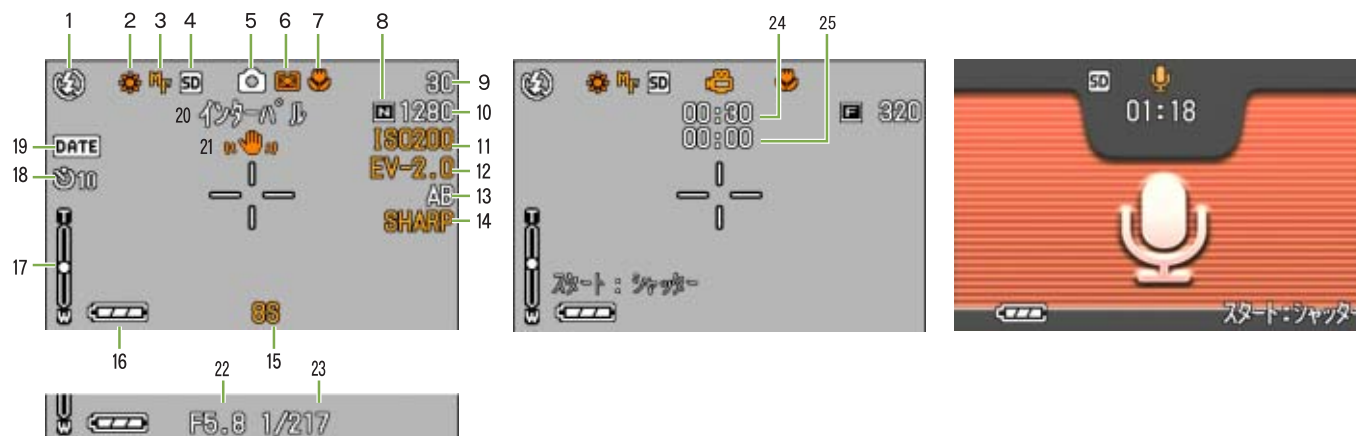
2. カードを軽く押し、手を離す

カードが少しだけとび出します。

3. カードを静かに取り出す

4. バッテリー / カードカバーを閉じて、スライドさせる

液晶モニターの見かた

液晶モニターは、撮影時に被写体を表示したり、撮影した静止画や動画を再生することができます。

液晶モニターの画面には、カメラの状態や設定を示すマーク / 数字が表示されます。

撮影するときの画面

（シャッターボタン半押し時の表示）

静止画モード　　動画モード　　音声モード

	マーク	表示内容	参照ページ
1. フラッシュ	（発光禁止）	フラッシュの発光 / 発光禁止等のモードを示します。	P.50
	AUTO（オート）		
	（赤目軽減）		
	（強制発光）		
	SLOW（スローシンクロ）		
2. ホワイトバランス	表示なし（AUTO）	ホワイトバランスの設定値を示します。	P.56
	（屋外）		
	（曇天）		
	（白熱灯）		
	（蛍光灯）		
	M（ワンプッシュ）		
3. フォーカス	表示なし（AF: オートフォーカス）	フォーカスの設定値を示します。	P.67
	MF（マニュアルフォーカス）		
	（スナップ）		
	（無限遠）		

	マーク	表示内容	参照ページ
4. 記録先	IN	内蔵メモリーに記録されることを示します。	P.17
	SD	SD メモリーカードに記録されることを示します。	P.17
5. モードの種類		静止画の撮影モードを示します。	P.35
		動画モードを示します。	P.42
		連写モードを示します。	P.40
※音声付きのときには音符が表示されます。		S 連写モードを示します。	P.40
		M 連写モードを示します。	P.40
		ポートレートモードを示します。	P.38
		スポーツモードを示します。	P.38
		遠景モードを示します。	P.38
		夜景モードを示します。	P.38
		文字モードを示します。	P.38
		高感度モードを示します。	P.38
		音声モードを示します。	P.47
6. 測光方式	表示なし（マルチ）	測光方式を示します。	P.69
	(中央)		
	(スポット)		
7. マクロ撮影		マクロ撮影を示します。	P.45
8. 画質	F (ファイン)	画質の設定を示します。	P.64
	N (ノーマル)		
9. 残り記録枚数	(数値)	現在の設定で撮影できる枚数を示します。	—
10. 画像サイズ	(設定値)	画像のサイズを示します。	P.64
11.ISO 感度	(設定値)	ISO 感度の設定値を示します。	P.59
12. 露出補正	(設定値)	露出補正値を示します。	P.54
13. オートブラケット	AB	オートブラケット撮影を示します。	P.71
	WB-BKT	ホワイトバランスブラケットを示します。	P.63
14. シャープネス	SOFT	シャープネス（質感）の設定値を示します。	P.70
	表示なし（標準）		
	SHARP		
15. 長時間露光	(設定値)	露光時間を示します。	P.72
16. 電池		電池の残量の有無を示します。	P.11
			P.11
			P.11
17. ズームバー	—	ズームの状態を示します。	P.43

	マーク	表示内容	参照ページ
18. セルフタイマー	10（10 秒後）	セルフタイマー撮影を示します。	P.51
	2（2 秒後）		
19. 日付 / 時刻	DATE	日付入れ撮影を示します。	P.75
20. インターバル撮影	インターバル	インターバル撮影を示します。	P.73
21. 手ブレ注意		手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラをしっかりと固定して撮影してください。	P.34
22. 絞り値	—	撮影時の絞り値を示します。	—
23. シャッタースピード	—	撮影時のシャッタースピードを示します。	—
24. 残り記録時間	（数値）	現在の設定で撮影できる時間数を示します。	—
25. 記録時間	（数値）	記録した時間数を示します。	—

メモ

・次のマークや数字は、初期設定を変更した場合、オレンジ色で表示されます。

ホワイトバランス

フォーカス

ISO 感度

露出補正

シャープネス

長時間露光

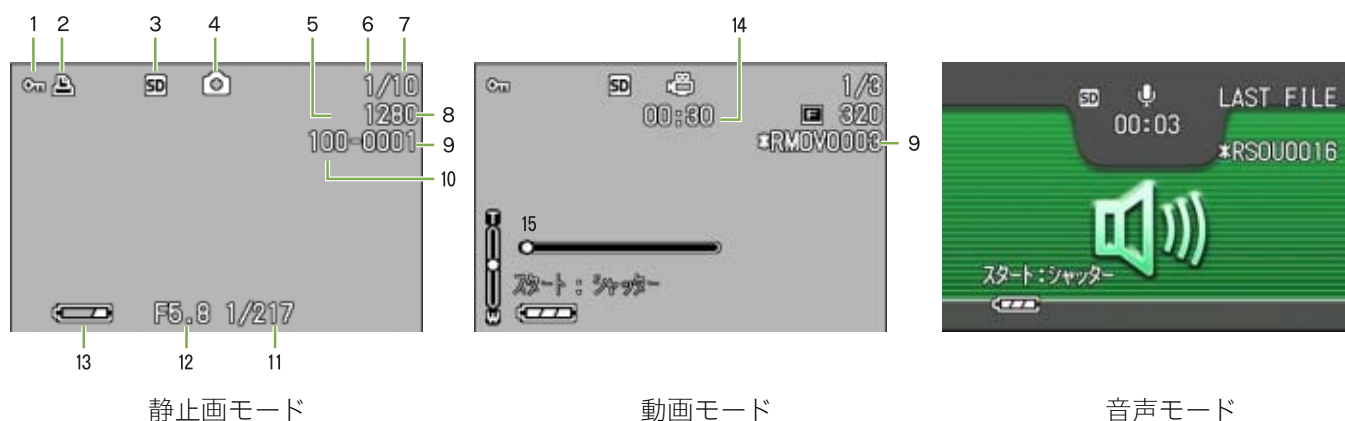
測光方式

・明るすぎる環境での撮影時などでは、露出オーバーとなり露出補正もできないことがあります。その場合には、「!AE」のマークが表示されます。

・使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

・残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。

再生するときの画面

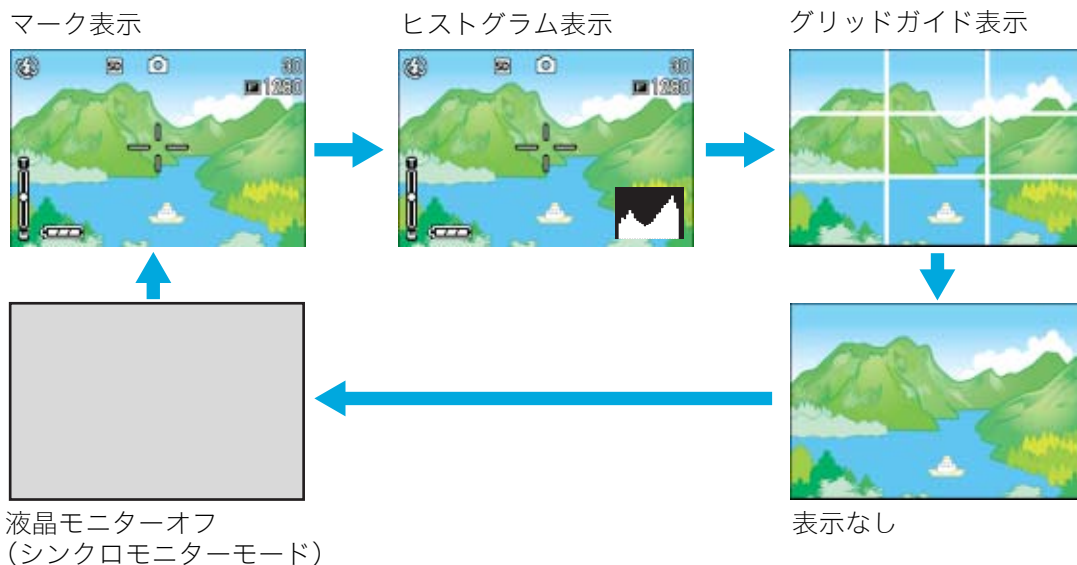
静止画モード　　動画モード　　音声モード

	マーク	表示内容	参照ページ
1. プロテクト	(プロテクトマーク)	プロテクトされていることを示します。	P.96
2.DPOF	(DPOFマーク)	DPOF 設定されていることを示します。	P.99
3. 再生元	IN	内蔵メモリーから再生されることを示します。	P.79
	SD	SD メモリーカードから再生されることを示します。	P.79
4. モードの種類	(静止画マーク)	静止画の再生モードであることを示します。	P.79
※音声付きのときには音符が表示されます。	(動画マーク)	動画の再生モードであることを示します。	P.80
	(音声マーク)	音声の再生モードであることを示します。	P.81
5. 画質	F（ファイン）	画質の設定を示します。	P.64
	N（ノーマル）		
6. 再生ファイル数		再生しているファイルの番号を示します。	—
7. 総ファイル数		記録されているファイルの総数を示します。	—
8. 画像サイズ	（設定値）	画像のサイズを示します。	P.64
9. ファイル番号	—	再生しているファイル番号を示します。 DCF 基本ファイル以外の場合は、先頭に＊がつきます。	—
10. フォルダ番号	—	ファイルが保存されているフォルダ番号を示します。	—
11. シャッタースピード	—	撮影時のシャッタースピードを示します。	—
12. 絞り値	—	撮影時の絞り値を示します。	—
13. 電池	(電池マーク)	電池の残量の有無を示します。	P.11
	(電池マーク)		P.11
	(電池マーク)		P.11
14. 再生時間	（時間）	動画、音声の再生時間を示します。	—
15. インジケーター	(インジケーター)	動画、音声の再生経過を示します。	—

メモ

使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示/非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

■撮影時

（セルフタイマー）ボタン、（フラッシュ）ボタン、（マクロ）ボタンを押しても、液晶モニターの表示のオン/オフは切り替わりません。

液晶モニターの表示をオフにすると、節電になります。その場合、ファインダーのみで撮影します。

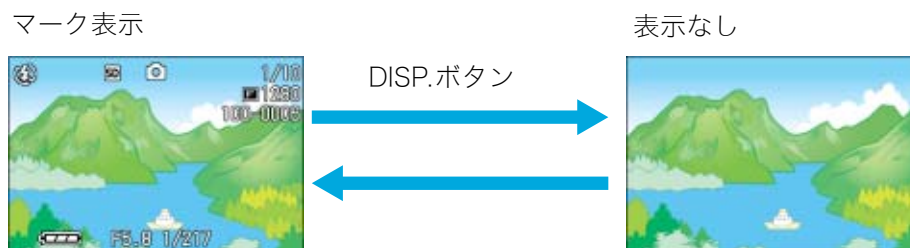
音声モードの場合には、DISP.ボタンを押すと、液晶モニターの表示を消すことができます。

メモ

表示なし、グリッドガイド表示時は、フラッシュ、セルフタイマー、マクロボタンのいずれかを押すと、その直後の数秒間だけは、押したボタンのみ表示されます。

参照

シンクロモニターモードについて→P.24
ヒストグラム表示について→P.24

■再生時

シンクロモニターモードについて

シンクロモニターモードにすると、以下のカメラ操作時以外、液晶モニターの表示がオフ（非表示）になります。節電に効果のあるモードです。

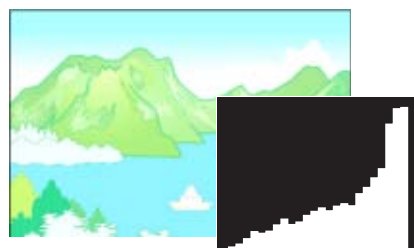
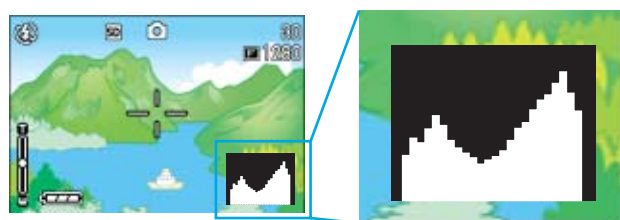
シャッターボタンを半押しする	液晶モニターの表示がオンになり、構図を確認することができます。全押しで撮影を終了すると、液晶モニターの表示がオフになります。
（クイックレビュー）ボタンを押す	直前に撮った 1 枚を見ることができます（→ P.78）。もう一度、（クイックレビュー）ボタンを押すと、液晶モニターをオフにすることができます。
MENU ボタンを押す	液晶モニターの表示がオンになり、いろいろな撮影方法の設定ができます（→ P.26）。もう一度、MENU ボタンを押すと、液晶モニターをオフにすることができます。
ADJ. ボタン	液晶モニターの表示がオンになり、露出補正、ホワイトバランス、ISO 感度の設定ができます（→ P.54、P.56、P.59）。OK ボタンを押すと、液晶モニターをオフにすることができます。

ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、液晶モニター画面の左上にヒストグラムが表示されます。

ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。

ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる液晶モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白とびや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムで、右側だけにグラフの山が盛り上がり、ほかには何もないとすると、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。

また、左側だけにグラフの山があると、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。

露出補正時の参考にお使いください。

メモ

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
  例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど

参照

露出補正について→P.54

ボタンの働き一覧

カメラのボタンの働きをまとめています。

 参照

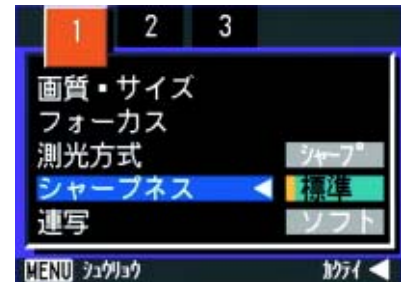
・電源ボタンについて→P.16
・モードダイヤルについて→P.11
・シャッターボタンについて→P.35

ボタン	撮影モードのとき	再生モードのとき	メニュー表示のとき
（削除）/（セルフタイマー）ボタン	セルフタイマーモードになり、セルフタイマー撮影ができます。（→ P.51）	液晶モニターに表示されている静止画や動画を削除できます。（→ P.87）	――――
▲ボタン	――――	音声の再生中に音量を調整することができます。（→ P.81、P.82）	――――
▼/(マクロ）ボタン	接写（マクロ）撮影ができます。（→ P.45）	音声の再生中に音量を調整することができます。（→ P.81、P.82）	――――
◀/(クイックレビュー）ボタン	直前に撮った静止画を表示します。（→ P.78）	1つ前の静止画や動画を表示します。（→ P.79）	――――
▶/(フラッシュ）ボタン	フラッシュの発光/発光禁止等のモードを切り替えます。（→ P.50）	次の静止画や動画を表示します。（→ P.79）	――――
▲▼◀▶ボタン	――――	サムネイル表示のときに、上下左右の静止画や動画、音声を再生します。（→ P.83）	上下左右の項目へ移動します。
（広角）/（サムネイル表示）ボタン	広角ズーム撮影ができます。（→ P.43）	液晶モニター表示がサムネイル表示になり、静止画を一覧（6 枚ごと）にして見ることができます。（→ P.83）	――――
OK ボタン	液晶モニターに表示されたメニュー操作（→ P.28）などに使用します。		
（望遠）/（拡大表示）ボタン	望遠ズーム撮影ができます。（→ P.43）	液晶モニターが約 3.4 倍まで拡大表示になります。（→ P.84）	――――
DISP. ボタン	液晶モニターのマークの表示を切り替えます。（→ P.23）		
MENU ボタン	いろいろな撮影方法の設定や画像をパソコンに取り込む操作などに使用します。		
ADJ. ボタン	露出補正、ホワイトバランス、ISO 感度の設定をすばやく行うことができます。（→ P.53）また、マクロ撮影時にカメラを動かすことなくオートフォーカスを行うことができます（AF ターゲット移動機能）。		

撮影メニュー／再生メニューの基本的な使いかた

	操　作
メニューを表示する	**1.** モードダイヤルを［撮影モードアイコン］（撮影モード）または［再生モードアイコン］（再生モード）に合わせる **2.** MENUボタンを押す メニューが表示されます。 メニュー画面では、◀▶ボタンで画面間、▲▼ボタンで項目間を移動することができます。 撮影モードのメニュー画面表示中にシャッターボタンを押すと、撮影画面に戻り、撮影することができます。
メニュー画面を切り替える	**1.** ◀▶ボタンを押す ［1］～［3］までのメニュー画面を切り替えることができます。
項目を選択する	**1.** ▲▼ボタンを押して、選択したい項目を選ぶ **2.** OKまたは▶ボタンを押す
設定値を選ぶ（撮影メニュー）	**1.** ▲▼ボタンを押して、選択したい項目を選ぶ **2.** OKまたは◀ボタンを押す
確認画面で実行を選ぶ（撮影メニュー）	**1.** ▶ボタンを押して、［YES］を選ぶ **2.** OKボタンを押す
実行したい項目を選ぶ（再生メニュー）	**1.** ▲▼ボタンを押して、選択したい項目を選ぶ **2.** OKボタンを押す
撮影画面／再生画面に戻る	**1.** MENUボタンを押す

メモ

- 設定値を選択する画面では、先頭にオレンジ色の■が表示されているのが、現在の設定値です。設定値を変更しても（青色表示を移動しても）、設定を確定するまで、前回の設定値を示すためにオレンジ色の表示は残ります。
- 設定変更を行う項目によってメニュー画面の流れが多少異なります。詳しくは各項目の説明を参照してください。

SETUP画面の基本的な使いかた

	操　作
SETUP 画面を表示する	**1.** モードダイヤルを **SETUP**（SETUPモード）に合わせる SETUP画面が表示されます。
項目を選択する	**1.** ▲▼ボタンを押して、選択したい項目を選ぶ
設定値を選ぶ	**1.** ◀▶ボタンを押して、選択したい項目を選ぶ
［実行］を選んだとき	**1.** OKボタン押す **2.** 次の画面が表示されるので、必要な設定を行う
SETUP 画面を消す	**1.** モードダイヤルを他のモードに切り替える

メモ

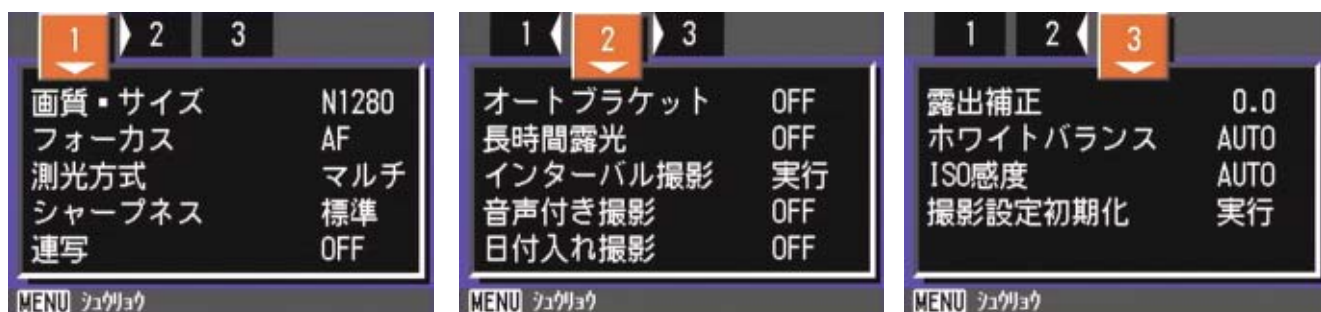
設定変更を行う項目によって操作の流れが多少異なります。詳しくは各項目の説明を参照してください。

画面一覧

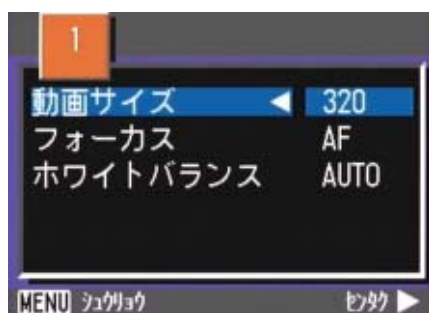
※購入時の初期設定値は、選択肢に［ ］囲みを付けています。

撮影メニュー（撮影モード時）

撮影モードのときにMENUボタンを押して表示します。

撮影メニューは、3画面あります。◀▶ボタンで画面を切り替えることができます。

設定項目	選択肢	参照ページ
画質・サイズ	F2048/N2048/F1280/[N1280]/N640	P.64
フォーカス	[AF]/MF/ スナップ / ∞	P.67
測光方式	[マルチ]/ 中央 / スポット	P.69
シャープネス	シャープ /[標準]/ ソフト	P.70
連写	[OFF]/ 連写 /S 連写 /M 連写	P.40
オートブラケット	ON/[OFF]/WB-BKT	P.71、P.63
長時間露光	[OFF]/1 秒 /2 秒 /4 秒 /8 秒	P.72
インターバル撮影	―――――	P.73
音声付き撮影	ON/[OFF]	P.52
日付入れ撮影	[OFF]/ 日付 / 日時	P.75
露出補正	-2.0 ～ +2.0	P.54
ホワイトバランス	[AUTO]/ ☀（屋外）/ ☁（曇天）/ ☼（白熱灯）/ ☴（蛍光灯）/ Ⓜ（ワンプッシュ）	P.56
ISO 感度	［AUTO］/50/100/200/400/800	P.59
撮影設定初期化	―――――	P.76

撮影メニュー（動画モード時）

動画モードのときにMENUボタンを押して表示します。

設定項目	選択肢	参照ページ
動画サイズ	[320]/160	P.66
フォーカス	[AF]/MF/ スナップ / ∞	P.67
ホワイトバランス	[AUTO]/ ☀（屋外）/ ☁（曇天）/ ☼（白熱灯）/ ≖（蛍光灯）/ Ⓜ（ワンプッシュ）	P.56

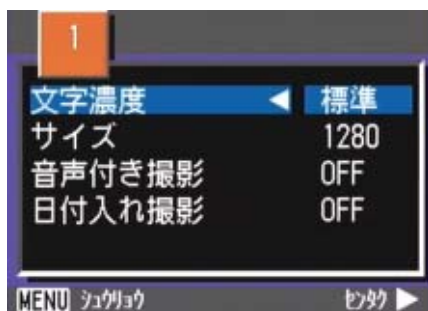
撮影メニュー（SCENEモード時、ただし文字モードを除く）

SCENEモードのときにMENUボタンを押して表示します。

撮影メニューは、2画面あります。◀▶ボタンで画面を切り替えることができます。

設定項目	選択肢	参照ページ
画質・サイズ	F2048/N2048/F1280/[N1280]/N640	P.64
フォーカス	[AF]/MF/ スナップ / ∞（遠景モードは除く）	P.67
音声付き撮影	ON/[OFF]	P.52
日付入れ撮影	[OFF]/ 日付 / 日時	P.75
露出補正	-2.0 ～ +2.0	P.54
ホワイトバランス	[AUTO]/ ☀（屋外）/ ☁（曇天）/ ☼（白熱灯）/ ≖（蛍光灯）/ Ⓜ（ワンプッシュ）	P.56

撮影メニュー（文字モード時）

文字モードのときにMENUボタンを押して表示します。

設定項目	選択肢	参照ページ
文字濃度	濃い /[標準]/ 淡い	P.61
サイズ	2048/[1280]	P.64
音声付き撮影	ON/[OFF]	P.52
日付入れ撮影	[OFF]/ 日付 / 日時	P.75

再生メニュー

再生モードのときにMENUボタンを押して表示します。

設定項目	選択肢	参照ページ
スライドショー	ON/[OFF]	P.85
プロテクト	1 ファイル選択・解除 / 全ファイル選択・解除	P.96
DPOF	――――――	P.99
画像サイズ変更	1280 / 640	P.102
CARD へコピー	――――――	P.98

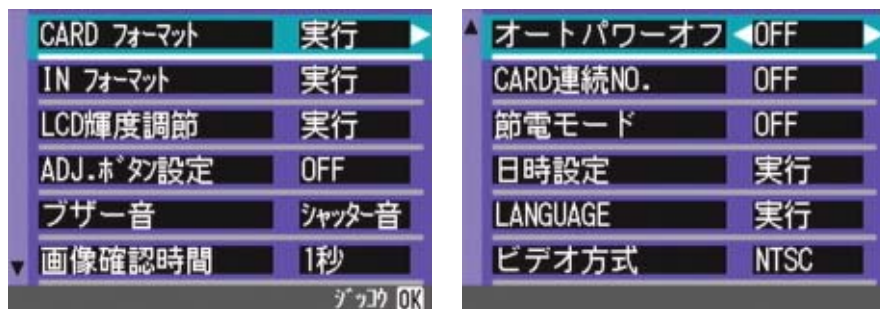
SCENE選択画面（SCENEモード時）

SCENEモードでシーンに適した撮影モードを選択するときに表示されます。

マーク	選択肢	参照ページ
	ポートレート	P.38
	スポーツ	P.38
	遠景	P.38
	夜景	P.38
	文字	P.38
	高感度	P.38

SETUP画面（SETUPモード時）

SETUPモードのときに表示されます。

撮影メニューは、2画面あります。▲▼ボタンで画面を切り替えることができます。

設定項目	選択肢	参照ページ
CARD フォーマット	――――――	P.104
IN フォーマット	――――――	P.105
LCD 輝度調節	――――――	P.105
ADJ. ボタン設定	[OFF]/ /AF/MF/SHARP/	P.107
ブザー音	[ON]/OFF/ シャッター音	P.107
画像確認時間	OFF/[1 秒]/2 秒 /3 秒	P.107
オートパワーオフ	OFF/[1 分]/5 分 /30 分	P.108
CARD 連続 No.	ON/[OFF]	P.109
節電モード	ON/[OFF]	P.110
日時設定	――――――	P.111
LANGUAGE	[JPN]/ENG/FRA/GER/ITA/ESP/ 簡体 / 繁体 / 韓国	P.112
ビデオ方式	[NTSC]/PAL	P.112

Section2
撮影する

ここでは、カメラの構えかたから、静止画の動画などの撮影のしかたまで、撮影に関する基本操作について説明します。

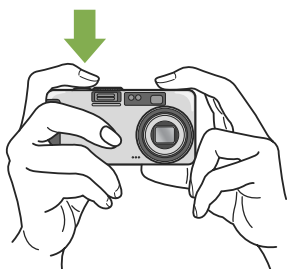
カメラの構えかた

シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画が鮮明に写りません(手ブレ)。

液晶モニターに のマークが表示されたときには、手ブレしやすい状態を示しています。

カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

1. カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける

2. シャッターボタンに指を当てる

メモ

- 指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないようにしましょう。
- 手ブレを防ぐには、カメラを両手でしっかりと持って撮ったり、三脚を使用したりします。
- 次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。
  - フラッシュを使わずに、またはスローシンクロモードを使って、暗い場所で撮影する場合
  - ズームを使って撮影する場合

ピントの合わせかた

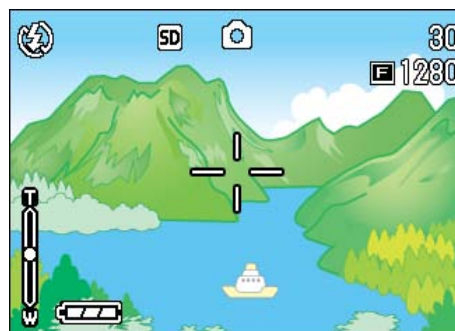
液晶モニターに表示されている範囲が、静止画や動画として写ります。

ピントはシャッターボタンを半分まで押して（半押し）合わせます。

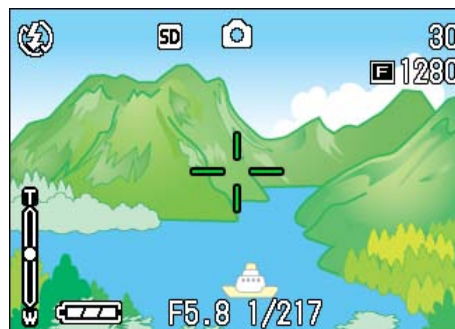
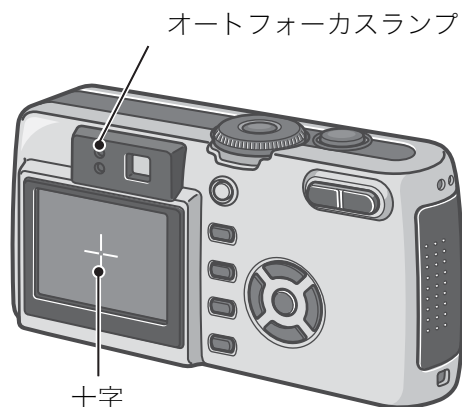
ピントを合わせるには、次のように操作します。

1. 写したい被写体にレンズを向ける

2. 液晶モニターで構図を決める

3. 画面中央部でピント合わせが行われるので、写したい被写体が画面中央部にくるようにカメラ位置を合わせる

4. シャッターボタンを半押しする

画面下部にＦ値（絞り値）とシャッタースピードが表示され、ピント合わせが行われます。

ピントが合うと、露出、ホワイトバランスが固定され、液晶モニター中央部の十字と、ファインダー左下のオートフォーカスランプが緑色に点灯します。いずれかでピントが合ったことを確認してください。

ピントが合わない場合には、液晶モニター中央部の十字は、赤く点灯し、ファインダー左下のオートフォーカスランプは緑色に点滅します。

	十字の色	オートフォーカスランプ	
ピント合わせ前	白	○	消灯
ピントが合ったとき	緑	●	緑点灯
ピントが合わなかったとき	赤点滅	●	緑点滅

メモ

- グリッドガイド表示時は、液晶モニター中央部の十字は表示されません。オートフォーカスランプでピントがあったことを確認してください。
- 半押しを使わずに、最初から全押しで撮る方法もあります。全押しは、一瞬を逃さないための撮影に効果的です。ただし、撮影中にピントを確認することはできません。(→P.36)
- 節電モードにして(→P.110)ファインダーを使って撮影すると、電池が長持ちします。ただし、その場合には、液晶モニターでピントを確認することができないので、ファインダー左下のオートフォーカスランプでピントが合ったこと（緑色に点灯）を確認してください。

参照

被写体が構図の中央にないときには→P.37

静止画を撮る

静止画を撮るときには、撮影モードを使います。

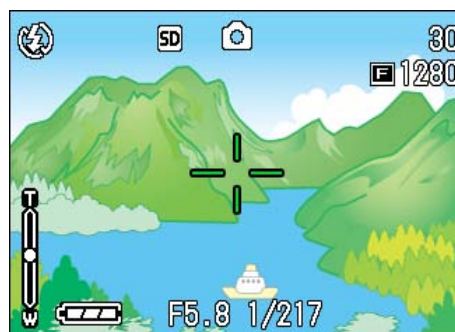
シャッターボタンを２段階に分けて押す撮影方法（半押し）と、一気に押し切る撮影方法（全押し）があります。

半押しの場合には液晶モニターでピントを確認することができます。また、一瞬のシャッターチャンスを逃したくないという場合には全押しが便利です。

参照

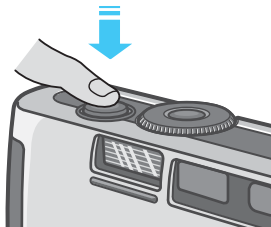
・ズームを使って撮るには→P.43
・接写で撮るには→P.45

ピント合わせを確認して撮る（半押し）

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる
2. 液晶モニターまたはファインダーを見ながら構図を決める
3. 被写体が中央にくるようにして、シャッターボタンを半押しする

画面下部にＦ値（絞り値）とシャッタースピードが表示され、ピント合わせが行われます。

ピントが合うと、露出、ホワイトバランスが固定され、液晶モニター中央部の十字と、ファインダー左下のオートフォーカスランプが緑色に点灯します。いずれかでピントが合ったことを確認してください。

4. 半押ししたシャッターボタンをそのまま静かに押しきる

撮影された静止画は、一瞬液晶モニターに静止状態で表示され、記録が行われます。

メモ

・手ブレを防ぐために、シャッターボタンを押すときは、静かに押しましょう。

・ マークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。

・暗い場所での撮影では、ピント合わせの性能を上げるために、AF補助光が発光する場合があります。なお、フラッシュモードが発光禁止の場合には、AF補助光は発光しません。

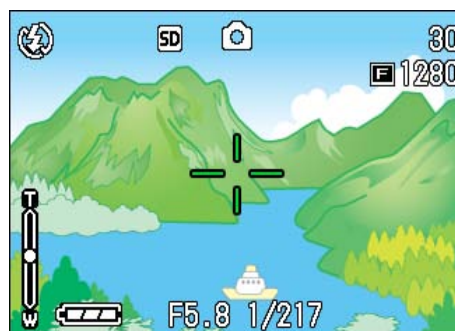
・撮影された静止画は、画像確認時間がOFFの時には液晶モニターに表示されません。→P.125

一瞬を逃がさない撮りかた（全押し）

1. モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる

2. 液晶モニターまたはファインダーを見ながら構図を決める

3. 被写体が中央にくるようにして、シャッターボタンを全押しする

自動的にピント合わせが行われた後、静止画が撮影、記録されます。

メモ

ピントが合いにくい被写体

次のような被写体は、ピントが合わせられないことがあります。

・コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
・横線だけで、凹凸のないもの
・動きの速いもの
・暗いところのもの
・強い逆光および反射光があるもの
・蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは、写したい被写体と同じ距離にある違う被写体にピントを固定してから撮影してください。（→P.37）

ピントが合いにくい場合には、半押しで撮影することをお勧めします。また、状況に応じて、フラッシュの使用やフォーカスロックでの撮影などもお試しください。

参照

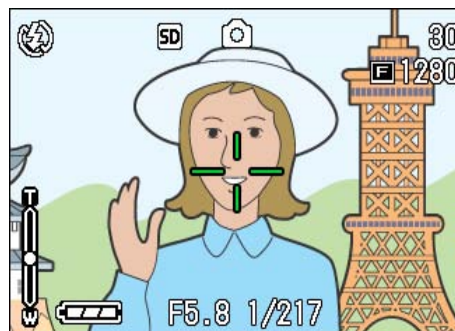
ピントが合いにくいとき→P.34

被写体が構図の中央にないときには（フォーカスロック）

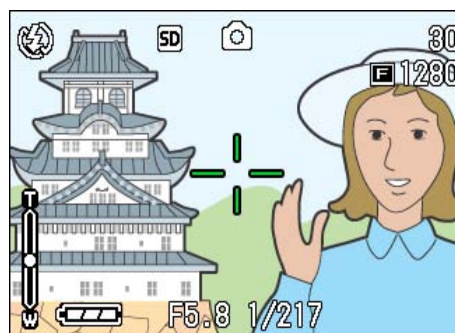
被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めて撮ることができます。この方法を“フォーカスロック”と呼びます。

例：ピントを人物に合わせたまま、背景の城を撮影したいとき

最終的な静止画

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる
2. 被写体が液晶モニターまたはファインダーの中央にくるようにして、シャッターボタンを半押しする

画面下部にF値（絞り値）とシャッタースピードが表示され、ピント合わせが行われます。

ピントが合うと、露出、ホワイトバランスが固定され、液晶モニター中央部の十字と、ファインダー左下のオートフォーカスランプが緑色に点灯します。いずれかでピントが合ったことを確認してください。

3. 半押しのまま構図を決める

4. シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

メモ

- マクロ撮影時には、AFターゲット移動機能を使うと、カメラを動かすことなく、フォーカスロックを行うことができます。
- 三脚を使用している場合に便利です。

参照

- マクロ撮影について→P.45
- AFターゲット移動機能について→P.45

シーンに合わせて撮る

SCENEモードを使うと、6種類の撮影モードが選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影することができます。

SCENEモードでは、次の6種類からモードが選択できます。

ポートレート

人物を撮影するときに適しています。

スポーツ

動きのあるものを撮影するときに適しています。

遠景

緑や青空の多い風景を撮影するときに適しています。

夜景

夜景を撮るときに適しています。人物を入れた撮影も可能です。

文字

会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。

高感度

薄暗い場所で撮影するときに適しています。

メモ

- シーンモードにおいてもホワイトバランス（→P.56）の設定ができますが、シーンに合った効果が得られない場合があります。
- シーンモードではマニュアルフォーカスは使用できません。
- シーンモード選択時に、各シーンの説明文の背景に表示される画像は、イメージです。

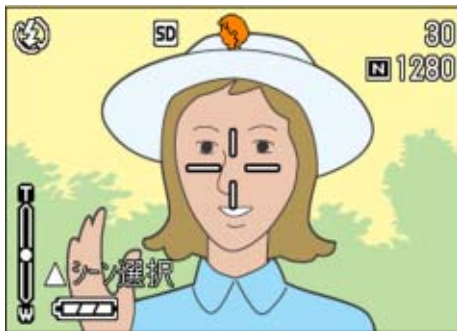
SCENE モードを使うには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを SCENE（SCENE モード）に合わせる**

SCENE 選択画面が表示されます。

2. **▲▼ボタンを押して、使いたいモードを選ぶ**

3. **OKボタンを押す**

SCENE モードの撮影画面に変わり、画面上側に選択したモードのマークが表示されます。

▲ボタンを押すと、SCENE 選択画面が表示され、モードを変更することができます。

MENU ボタンを押すと、撮影メニューが表示されます。

4. **シャッターボタンを押す**

メモ

再び SCENE モードに戻ったときには、前回使ったシーンが選択された状態の SCENE 選択画面が表示されます。

参照

・画質や画像サイズを変更するには→P.64
・文字のモードで、文字の濃淡を変更するには→P.61
・フォーカス設定を変更するには→P.67
・ホワイトバランスの設定を変更するには→P.56

用語説明

TIFF ファイル

文字モードは TIFF ファイル形式で保存され、JPEG ファイルよりもファイルサイズが小さくなります。

各シーンモードと機能の組み合わせ

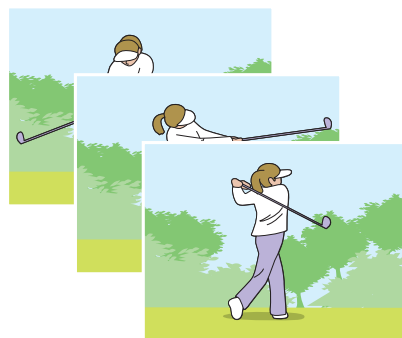
シーンモードの種類によっては、通常の撮影モードと機能の働きが異なる場合があります。下表を参照してください。

モード名	フラッシュ	マクロ撮影
ポートレート	初期値：発光禁止	不可
スポーツ	初期値：発光禁止	不可
遠景	発光禁止に固定	不可
夜景	強制発光は選択不可	不可
	初期値：オート	
文字	初期値：発光禁止	使用可
高感度	初期値：発光禁止	使用可

連写で撮る

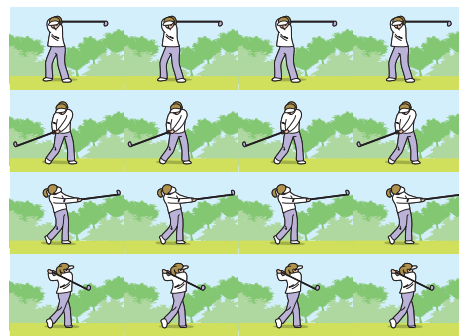
連写に設定すると、連続撮影ができます。
シャッターチャンスを逃したくないときに便利です。
連写には、「連写」、「S連写」、「M連写」の３種類があります。

連写

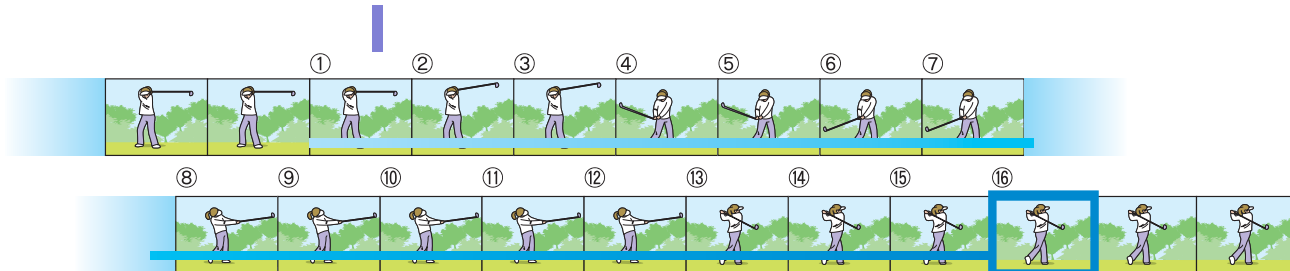
シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。
静止画は通常の撮影時と同じように、１枚ずつ記録します。

S連写

連続した流れ（ストリーム）のシーンを撮影します。

１回全押しするだけで、撮影間隔1/7.5秒で16枚（約２秒間）の連続撮影ができます。

16枚の静止画を１組にして、１つの画像ファイルとして記録します。

M連写

シャッターボタンを押している間、カメラがシーンを記憶（メモリー）し、シャッターボタンを離すと、直前の約２秒間が記録されます。16枚の静止画を１組にして、１つの画像ファイルとして記録します。

シャッターボタンを押しはじめてから、２秒以内にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが撮影記録されます（連続撮影枚数は、16枚より少なくなります）。

メモ

・連写のときは、画質モード / 画像サイズにより連続撮影できる枚数が異なります。

F2048	N2048	F1280	N1280	N640
3 枚	5 枚	6 枚	6 枚	9 枚

・連写撮影中は、液晶モニターの表示が消えます。三脚等を使用し、構図を決めて固定するか、ファインダーをご使用ください。

・S連写、M連写のときには、画質モード/画像サイズは、F2048、N2048 のいずれかのみ設定できます。連写撮影時（S 連写 / M連写を除く）には、音声付き撮影はできません。

参照

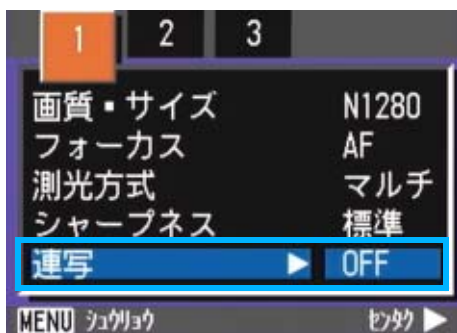
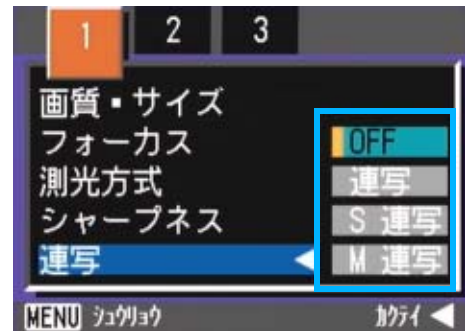
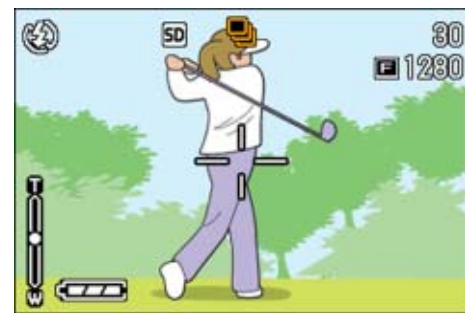
S連写、M連写で撮影した静止画を拡大して見るには→P.84

連写の設定をする（連写）

連写の設定にするには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる
2. MENUボタンを押す

   撮影メニューが表示されます。

3. ▲▼ボタンを押して、[連写] を選び、OKまたは▶ボタンを押す

4. ▲▼ボタンを押して、[連写]、[S連写]、[M連写] のいずれかを選ぶ

5. OKまたは◀ボタンを押す
6. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面上側にマークが表示されます。

マーク	種類
	連写
	S 連写
	M 連写

メモ

・通常の 1 枚ごとの撮影に戻したいときには、上記の操作1.～3.を行い、4.で［OFF］を選択してOKまたは◀ボタンを押します。

・フラッシュは発光禁止になります。

連写で撮影する

前ページの操作から続けて

7. 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

8. シャッターボタンから指を離して撮影を停止する

S連写で撮影する

前ページの操作から続けて

9. 構図を決めて、シャッターボタンを押す

自動的に16枚連続して撮影されます。

M連写で撮影する

前ページの操作から続けて

10. 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

記憶（メモリー）を開始します。

11. シャッターボタンから指を離す

シャッターボタンを離す前の約２秒間をカメラが記憶し、撮影します。

動画を撮る

音声付動画を撮影できます。

画像サイズは、320×240、160×120のいずれかが選択できます。

最大記録時間は１回の撮影（1ファイル）につき、最大で約30秒（320×240の場合）、約120秒（160×120の場合）です。

撮影した動画は、１つのAVIファイルとして記録されます。

動画を撮影するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを（動画モード）に合わせる

2. シャッターボタンを押す

動画の撮影が開始されます。

次にシャッターボタンを押すまで撮影されます。

3. シャッターボタンを押して撮影を停止する

注意

動画撮影中に操作音が記録されることがあります。

メモ

- フラッシュは発光禁止になります。
- 動画撮影中、ズーム機能は、デジタルズームのみ使用できます。
- 手順 2. でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われ、ホワイトバランスが固定されます。

参照

- 動画の画像サイズを変更するには→P.66
- デジタルズームについて→P.44

光学ズームを使って撮る

（望遠）:T/（広角）:Wボタンを使うと、被写体までの距離を変えずに、被写体の大きさを変えて写すことができます。（35mm カメラ換算で、28～100mm）

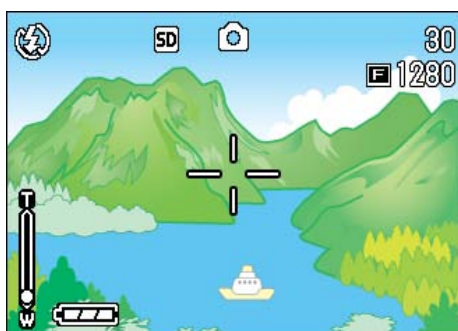
用語説明

光学ズーム

レンズを動かして焦点距離を変更し、拡大する機能のことです。

（望遠）ボタンを押すと、液晶モニターおよびファインダーに見える被写体が大きくなります。

（広角）ボタンを押すと、液晶モニターおよびファインダーに見える範囲が広くなります。

望遠ズーム

広角ズーム

ズームを使って撮影するには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる**

2. **液晶モニターまたはファインダーを見ながら、ボタンやボタンでズームを行い、構図を決める**

液晶モニターにズームの状況を示すバーが表示されます。

3. **シャッターボタンを押す**

デジタルズームを使って撮る

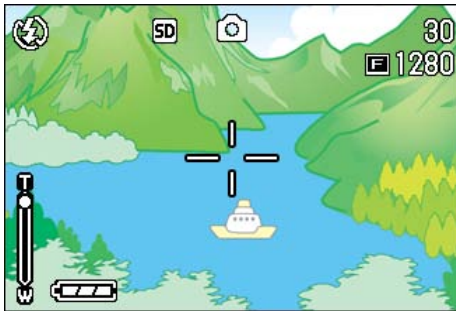
デジタルズームとは、画像処理によって画像を拡大する機能です。

デジタルズームを行うと、[♠]（望遠）ボタンを押して設定した拡大倍率（光学ズーム）より、さらに被写体を拡大できます（最大 3.4 倍まで）。

デジタルズームを使って撮影するには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる**

2. **液晶モニターを見ながら、[♠] ボタンで最大にズームを行う**

液晶モニターにズームの状況を示すバーが表示されます。

3. **ズームバーのT側（望遠）の端まで拡大されている状態で、いったんzボタンから指を離し、再び [♠] ボタンを押し続ける**

デジタルズームが行われ、被写体が拡大されます。

4. **シャッターボタンを押す**

メモ

- デジタルズームは拡大するほど画質が劣化します。
- デジタルズーム時は液晶モニターで構図を決めてください。
- モードダイヤルでモードを切り替えると、デジタルズームの設定は解除されます。
- デジタルズームを解除するには、[♣](広角)ボタンを押します。

接写する（マクロ撮影）

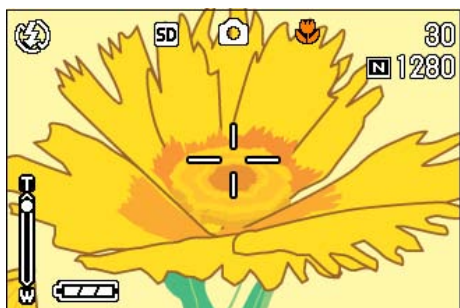
（マクロ）ボタンを使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます（マクロ撮影）。

最短1cmまで近づけることができるので、花や昆虫など小さな被写体の撮影に便利です。

接写するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる

2. （マクロ）ボタンを押す

液晶モニター中央に一瞬が大きく表示され消えた後、上部にが表示されます。

3. 被写体に近づけて、シャッターボタンを押す

マクロモードを解除するには、もう一度（マクロ）ボタンを押します。

メモ

- ズームを使用しているときには次の距離までのマクロ撮影ができます。
  広角（Wide）時：最短1cm
  望遠時（Tele）：最短13.5cm
- マクロモードを解除するには、もう一度（マクロ）ボタンを押します。
- マクロ撮影を行う場合には、液晶モニターで被写体を確認してください。

参照

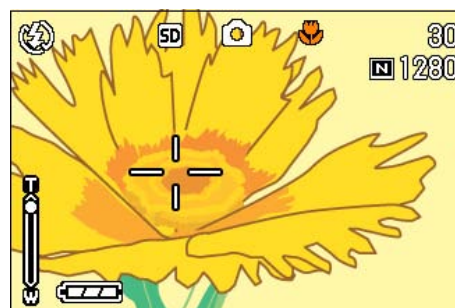
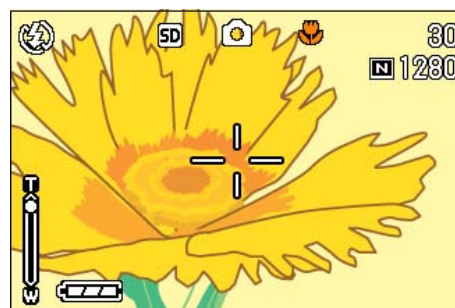
光学ズームにするには→P.43

AFターゲット移動機能を使う

マクロ撮影時には、AFターゲット移動機能を使うことにより、カメラを動かすことなく、カメラの▲▼◀▶キーでフォーカスロックを行い、撮影ができます。

三脚を使用していて、フォーカスロックでマクロ撮影したいという場合に、便利です。

AFターゲット移動機能では、液晶モニター中央部に表示される十字を、▲▼◀▶キーでピントを合わせたい被写体に移動することにより、撮影します。

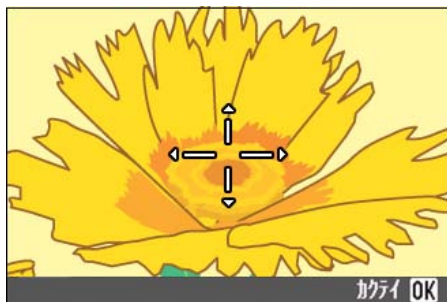
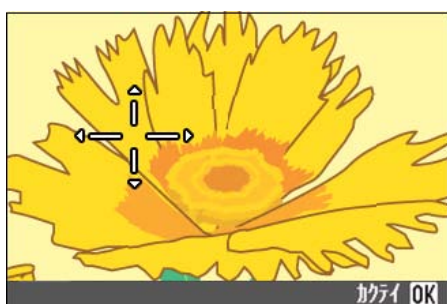
AFターゲット移動機能を使ってフォーカスロックで撮影するには、次のように操作します。

◀ボタンで十字を移動した場合

1. モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる

2. 構図を決める

3. （マクロ）ボタンを押す

画面左側にマクロモードのマークが表示されます。

4. ADJ.ボタンを４回押す（ADJ.ボタンに４番目の機能を設定しているときは、5回押す）

5. ▲▼◀▶　キーでピントを合わせたい被写体に十字を移動する

6. OKボタンを押す

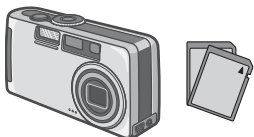
7. シャッターボタンを半押しする

十字の位置にピント合わせが行われます。

8. シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

以降、マクロモードを解除するまで、AFターゲット移動機能で設定した位置にピント合わせが行われます。

音声を記録する

音声を記録できる時間は SD メモリーカードの容量により異なります。

容量	記録時間
8MB	14分02秒
32MB	64分38秒
64MB	132分13秒
128MB	267分17秒

・内蔵メモリーに記録するときは、8MB のSDメモリーカードと同じです。

・記録した音声は、WAV ファイルとして記録されます。

メモ

記録先について

SD メモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときには SD メモリーカードに記録されます。

本体のみのとき	SD メモリーカードがセットされているとき
内臓メモリーに記録	SD メモリーカードに記録

1. **モードダイヤルを 🎙（音声モード）に合わせる**

2. **シャッターボタンを押す**

音声の記録が開始されます。

3. **シャッターボタンを半押しして記録を終了する**

参照

音声を再生する→P.81

用語説明

WAVファイル

音声データをファイルとして保存するときのファイル形式の1つです。

Section3
こんな撮影がしたいときには

ここでは、撮影に関するさまざまな設定の変更方法について説明します。

フラッシュを使うには

(フラッシュ)ボタンを使うと、フラッシュモード(発光、発光禁止などの設定)を切り替えることができます。撮影時の状況や、目的によって切り替えて撮影します。

フラッシュの光が届く距離(レンズ前端より)は、ISO設定がISO800の状態で、約0.2～3.0m(W)、約0.14～2.5m(T)です。

フラッシュモードの設定は、液晶モニターの左上に表示されるマークで確認できます。

[フラッシュモードの種類]

マーク	モード名	内容
	発光禁止	フラッシュを発光しません。フラッシュが禁止されているときや、室内の照明を利用して撮影するときに使用します。
AUTO	オート	逆光や被写体が暗いときには自動的にフラッシュが発光します。
	赤目軽減	赤目現象を軽減しながらフラッシュを発光します。人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
	強制発光	撮影時に必ずフラッシュを発光します。昼間屋外での撮影で、逆光のときなどに使用します。
SLOW	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。 夜景を背景にした人物を撮影するときなどに使用します。

メモ

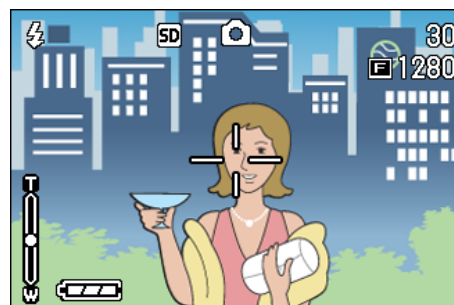
- 初期設定では、発光禁止に設定されています。
- (フラッシュ)ボタンを押して変更するまで、設定内容は保持されます。
- 動画、連写では、発光禁止になります。
- 発光禁止やスローシンクロモードのときには、シャッタースピードが遅くなり、手ブレを起こすことがあります。カメラを両手でしっかり固定させて撮影してください。
- SCENE モードの遠景モードでは、設定が発光禁止に固定されます。
- SCENE モードの夜景モードでは、強制発光は選択できません。また、初期値はオートに設定されています。
- フラッシュ充電中でもフラッシュボタンを押すことにより、発光禁止モードに戻ることができます。この際、フラッシュの充電は中断されます。
- フラッシュモードが発光禁止の場合、暗い場所でのピント合わせを向上させる AF 補助光は発光しません。

フラッシュモードを切り替えるには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを (撮影モード)に合わせる

または **SCENE**(SCENEモード)に合わせてシーンを選択し撮影できる状態にします。

2. (フラッシュ)ボタンを押して、フラッシュモードを切り替える

液晶モニター中央に、一瞬フラッシュモードのマークが大きく表示され消えた後、左上にフラッシュモードのマークが表示されます。

充電を開始します。フラッシュ充電中は液晶モニターが消え、フラッシュランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、撮影が可能になります。

用語説明

スローシンクロ

暗い場所での撮影時に、背景もキレイに撮影したいときに使う手法で、シャッタースピードを遅くしてフラッシュを発光します。

赤目現象

暗い場所で (フラッシュ)を使って撮影したときに、人物の目が赤く写ってしまうことがあります。これを赤目現象といいます。

セルフタイマーを使うには

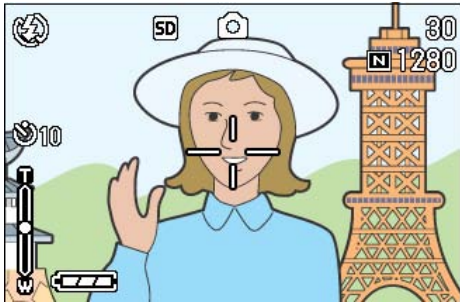
セルフタイマーは、10秒後、2秒後の2種類から選択できます。

撮影者自身も静止画に写りたいときには10秒の設定で、手ブレを防ぎたいときには2秒に設定すると便利です。

三脚を使う場合はカメラ下部の三脚ネジ穴へしっかり取り付けてください。

セルフタイマーを使って撮影するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる

2. （セルフタイマー）ボタンを押す

液晶モニター中央に、一瞬セルフタイマーのマークが大きく表示され消えた後、左側にセルフタイマーのマークが表示されます。

マークの右側にある「10」は秒数を示しています。この状態でシャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。

3. シャッターボタンを押す

フラッシュが発光し、セルフタイマーがスタートします。約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる約2秒前からセルフLEDの発光間隔が短くなり「ピピピピッ」というブザー音が鳴ります。

シャッターが切れると、セルフタイマーのモードが解除されます。

メモ

- （セルフタイマー）ボタンは、1回押すごとに、10秒→2秒→セルフタイマー解除→10秒→2秒→・・・と切り替わります。
- セルフタイマーの設定は、電源をオフにすると解除されます。
- （セルフタイマー）ボタンを押すと、フラッシュ充電のため、液晶モニターの表示が消えることがあります。
- 2秒のセルフタイマー使用時は、フラッシュは発光しません。

音声付き撮影をするには（音声付き撮影）

静止画に音声を付けて撮影することができます。撮影した静止画が記録された後、自動的に音声の記録が開始され、最大８秒まで記録できます。撮影状況や撮影内容のコメントなどを付けたいときに便利です。

シーンモードでの撮影時にも、撮影メニューを表示して設定を行い、音声付き撮影ができます。

音声付き撮影をするには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる

2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える

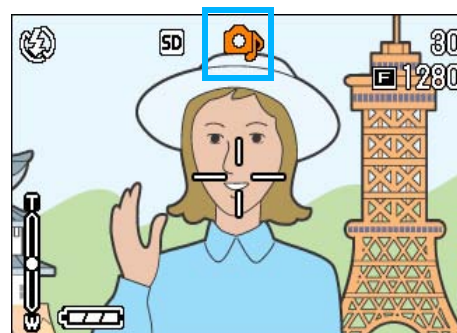
4. ［音声付き撮影］を選び、OK または▶ボタンを押す

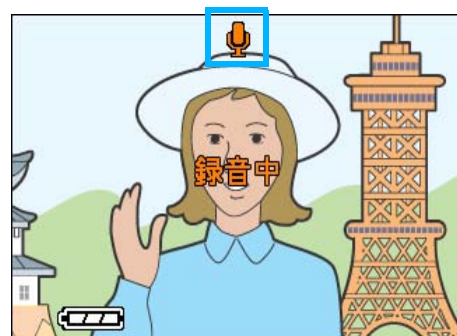
5. ▲▼ボタンを押して、［ON］を選ぶ

6. OKまたは◀ボタンを押す

音声付き撮影の設定が完了します。

7. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、マークが表示されます。

8. シャッターボタンを押して撮影する

撮影後に画面上部に音声マークが表示され、録音状態になります。

9. シャッターボタンを押して録音を止める

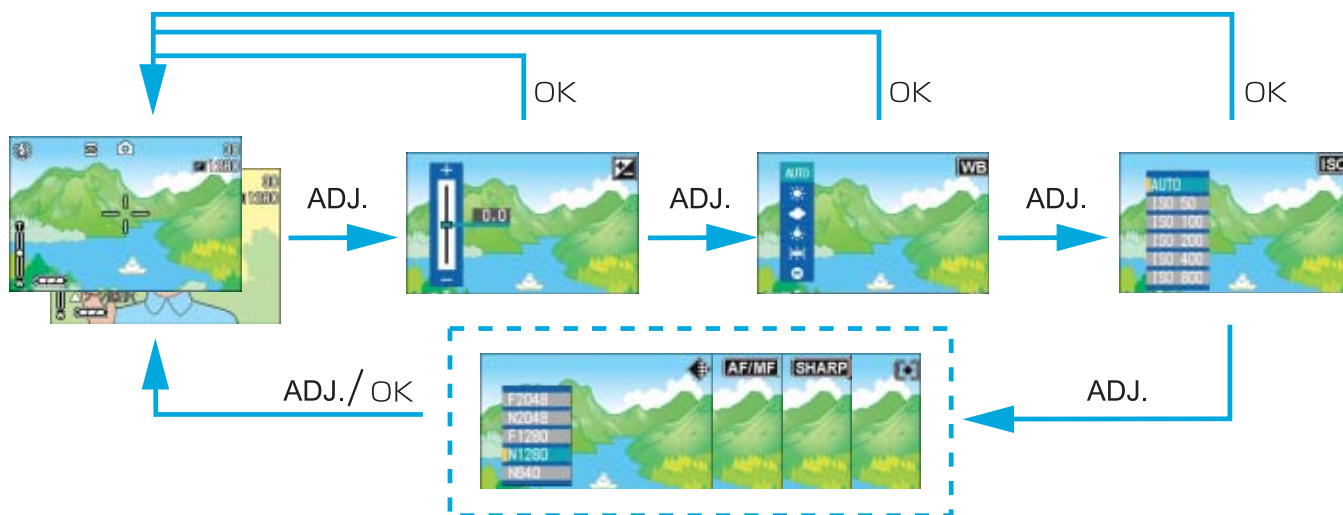
メモ

- 初期設定では、OFFに設定されています。
- 連写（S連写/M連写を除く）機能が設定されているときには、音声付き撮影はできません。
- 音声付き撮影時には、オートブラケット、ホワイトバランスブラケットは使用できません。

参照

音声付き静止画の音声を再生するには→P.79

ADJ.（アジャスト）ボタンの使いかた

ADJ.ボタンを使うと、少ないボタン操作で、露出補正、ホワイトバランス、ISO感度の設定ができます。また、ADJ.ボタンには、露出補正、ホワイトバランス、ISO感度以外の機能を登録することができます。使用頻度の高い機能を登録しておけば、少ないボタン操作で設定ができるようになり、便利です。

機能を登録する操作は、SETUP画面（P.106）で行います。

ADJ.ボタンで設定できる項目

SCENEモード、動画モード時には、ADJ.ボタンで設定できる項目が異なります。

各モードで設定できる項目

静止画モード	露出補正、ホワイトバランス、ISO感度
動画モード	ホワイトバランス
SCENEモード［文字］	文字濃度
SCENEモード［文字］以外	露出補正、ホワイトバランス

メモ

- 露出補正、ホワイトバランス、ISO感度の設定画面で設定を行い、ADJ.ボタンまたはOKボタンを押すと、設定が確定され、次の画面に移ります。
- 値を設定後、OKボタンまたはADJ.ボタンで撮影画面に戻らずに、そのままシャッターボタンを押して撮影することもできます。その場合、撮影後は設定画面に戻ります。
- 露出補正、ホワイトバランス、ISO感度、文字濃度の設定は、撮影メニューから行うこともできます。
- マクロモード時には、ADJ.ボタンでAFターゲット移動機能（カメラを動かすことなくフォーカスロックができる）が使用できます。

参照

- ADJ.ボタンに機能を設定するには→P.106
- AFターゲット機能について→P.45

露出を変えるには（露出補正）

静止画の写りを全体的に明るくしたり、暗くしたりするのが露出の設定です。

通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。しかし、次のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときには、露出を変更して撮影することができます。

露出は、+になるほど明るくなり、-になるほど暗くなります。

露出補正が必要な例

逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体は暗く（露出アンダーに）なってしまうことがあります。

白っぽい被写体を写す場合

全体に白っぽい被写体を写すときは、全体的に暗くなり（露出アンダー）、人物などは暗く、白いものはグレーのように写ることがあります。

黒っぽい被写体を写す場合

全体に黒っぽい被写体を写すときは、全体的に明るく（露出オーバーに）なり、人物などは白く、黒いものはグレーのように写ることがあります。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

露出を変更するには、ADJ.ボタンを使う操作と、撮影メニューを使う操作の２種類の操作方法があります。

メモ

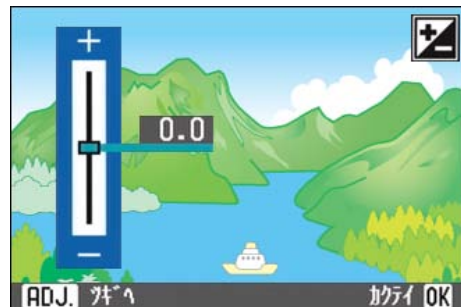
- 購入時には、0.0 に設定されています。この場合、設定値は表示されません。
- 逆光のとき、撮影範囲の中央に被写体がないときには、カメラは逆光状態と判断しません。露出補正をしてください。

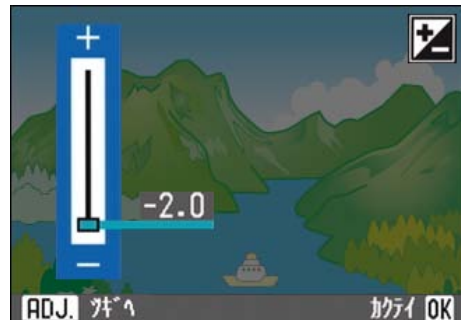
ADJ.ボタンで露出を変更する

ADJ.ボタンを使って露出を変更するには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる**

2. **ADJ.ボタンを押す**

露出補正バーが表示されます。

3. **▲▼ボタンを押して、値を設定する**

-（マイナス）側に変更すると、暗くなります。+（プラス）側に変更すると、明るくなります。この状態でシャッターボタンを押すこともできます。

4. **OKボタンを押す**

露出補正の設定が完了し、画面右側に設定値が表示されます。

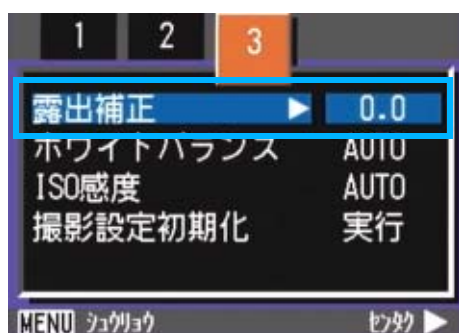
以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

撮影メニューで露出を変更する

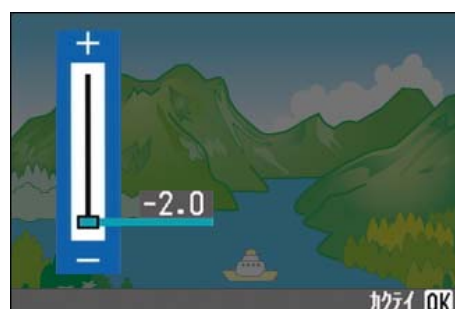
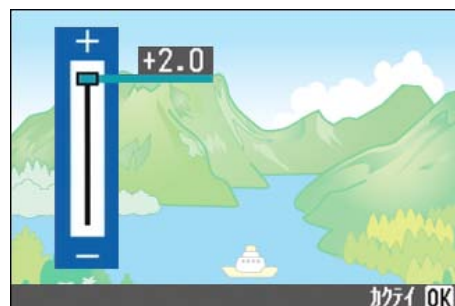
撮影メニューを使って露出を変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる
2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. ［露出補正］を選び、OK ボタンを押す

露出補正バーが表示されます。

4. ▲▼ボタンを押して、値を設定する

-（マイナス）側に変更すると、暗くなります。+（プラス）側に変更すると、明るくなります。この状態でシャッターボタンを押すこともできます。

5. OKボタンを押す

露出補正の設定が完了します。

6. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面右側に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

自然光や照明光を使うには(ホワイトバランス)

通常のカメラでは、被写体のまわりの照明によっては、白い被写体が白く写らない場合があります。

デジタルカメラでは、ホワイトバランスという機能があり、白い被写体は白く写るように、自動的に調整を行います。

購入時には、ホワイトバランスは「AUTO」(自動)に設定されているので、通常は変更の必要はありませんが、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

選択できるモードの種類

マーク	モード名	内　容
AUTO	オート	自動的に調整します。
(晴天マーク)	屋外	屋外(晴天)の撮影での撮影に適しています。
(曇天マーク)	曇天	曇天や日陰などの撮影での撮影に適しています。
(白熱灯マーク)	白熱灯	白熱灯の下での撮影に適しています。
(蛍光灯マーク)	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影に適しています。
M	ワンプッシュ	手動でホワイトバランスを設定することができます。

メモ

次の被写体は、ホワイトバランスの自動調整がうまく合いにくいことがあります。

- 単一色の被写体
- 複数の光源下にある被写体

ホワイトバランスを設定するには、ADJ.ボタンを使う操作と、撮影メニューを使う操作の2種類の操作方法があります。

ADJ. ボタンでホワイトバランスを設定する

ADJ. ボタンを使ってホワイトバランスを設定するには、次のように操作します。

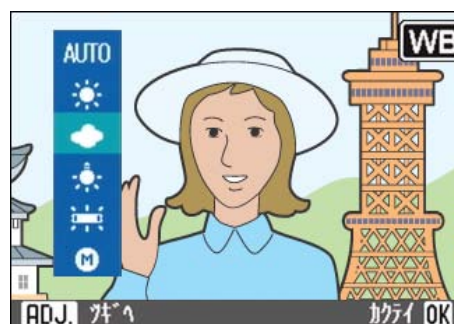
1. モードダイヤルを(撮影モード)に合わせる

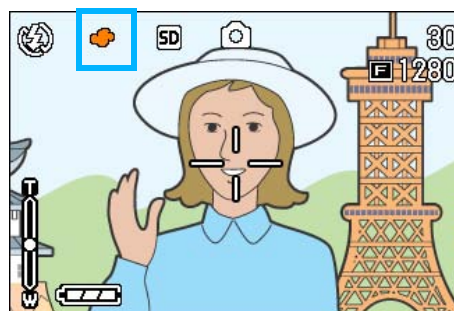
2. ADJ.ボタンを2回押す

ホワイトバランスのメニューが表示されます。

■ AUTO / 晴天 / 曇天 / 白熱灯 / 蛍光灯 を選択する場合

3. ▲▼ボタンを押して、モードを選ぶ

この状態でシャッターボタンを押すこともできます。

4. OKボタンを押す

ホワイトバランスの設定が完了し、画面左上にマークが表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

■ Ⓜ（ワンプッシュ）を選択する場合

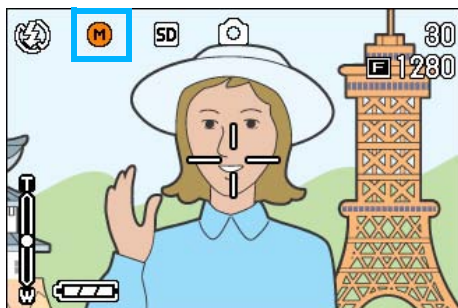
3. ▲▼ ボタンを押して、Ⓜ（ワンプッシュ）を選ぶ

4. 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける

5. ▶ボタンを押す

ホワイトバランスが設定されます。
思いどおりにならなかった場合には、操作4.、5.を繰り返して、何度でも設定変更ができます。

6. OKボタンを押す

ホワイトバランスの設定が完了し、画面左上にマークが表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

メモ

オートモードの場合、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときには、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。

注意

オートモード以外の設定でフラッシュを使って撮影した際、ホワイトバランスが合わない場合があります。

撮影メニューでホワイトバランスを設定する

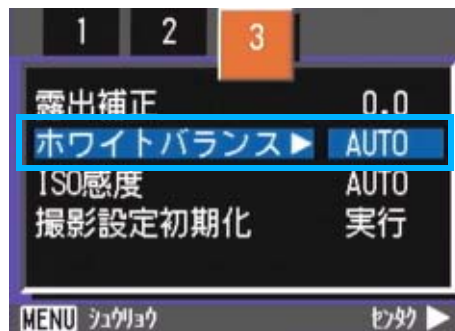
撮影メニューを使ってホワイトバランスを設定するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）または🎥（動画モード）に合わせる

または SCENE（SCENEモード）に合わせてシーンを選択し、撮影できる状態にします。

2. MENUボタンを押す

撮影メニュー（または動画メニュー）が表示されます。

3. ▼ボタンを押して、［ホワイトバランス］を選び、OKまたは▶ボタンを押す

■ AUTO / ☀ / ☁ / 💡 / ⵜ を選択する場合

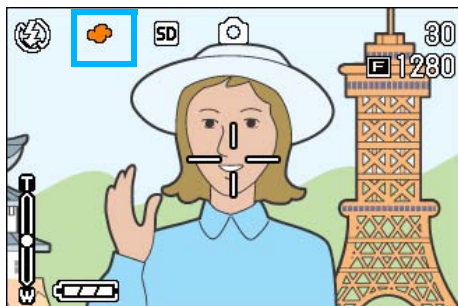
4. ▲▼ボタンを押して、モードを選ぶ

この状態でシャッターボタンを押すこともできます。

5. OKまたは◀ボタンを押す

ホワイトバランスの設定が完了します。

6. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面左上にマークが表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

■Ⓜ（ワンプッシュ）を選択する場合

4. ▲▼ ボタンを押して、Ⓜ（ワンプッシュ）を選ぶ

5. 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける

6. ▶ボタンを押す

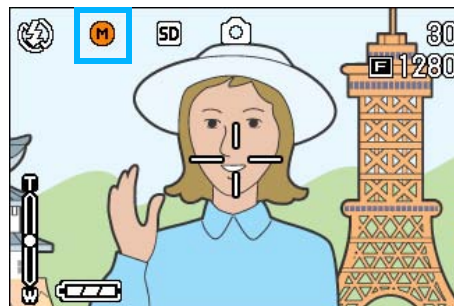
ホワイトバランスが設定されます。

7. OKまたは◀ボタンを押す

ホワイトバランスの設定が完了します。

思いどおりにならなかった場合には、操作 5.、6. を繰り返して、何度でも設定変更ができます。

8. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面左上にマークが表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

メモ

オートモードの場合、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときには、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。

注意

オートモード以外の設定でフラッシュを使って撮影した際、ホワイトバランスが合わない場合があります。

撮影感度を設定するには(ISO感度)

ISO感度は、フィルムの光に対する敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ぶれが起こりにくくなります。ただし、画像が荒くなりザラついた感じになります。

デジタルカメラの場合には、カメラが自動的に感度を変化させます（AUTO）。

通常は、AUTOのままで撮影します。

撮影感度は、AUTO、ISO64、ISO100、ISO200、ISO400、ISO800の6種類の設定から選択できます。

ワイドでAUTOの場合には、フラッシュを使用するとISO160相当、フラッシュを使用しないとISO125相当の感度になります。ISO感度を設定するには、ADJ.ボタンを使う操作と、撮影メニューを使う操作の2種類の操作方法があります。

メモ

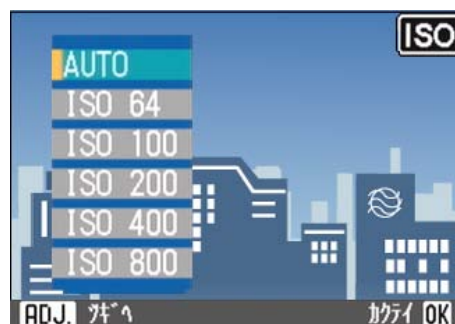
- 初期設定では、AUTOに設定されています。
- フラッシュを使わずに暗い場所で撮影する場合、感度を上げると被写体を明るく撮影できます。
- ISO感度を上げると、少ない光量でも撮影できるようになりますが、ノイズが現れることがあります。ISO感度が高くなればなるほどノイズが現れやすくなりますので、注意が必要です。

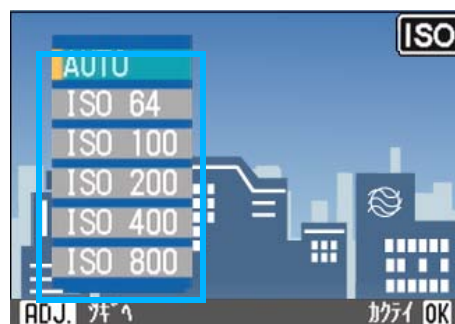
ADJ.ボタンでISO感度を設定する

ADJ.ボタンを使ってISO感度を設定するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる

2. ADJ.ボタンを3回押す

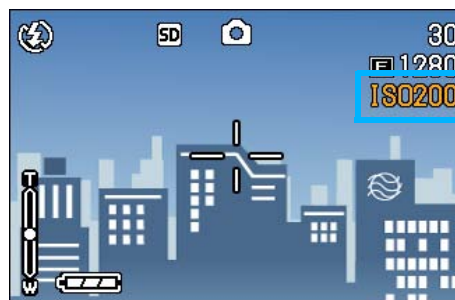
ISO感度のメニューが表示されます。

3. ▲▼ボタンを押して、ISO感度を選ぶ

この状態でシャッターボタンを押すこともできます。

4. OKボタンを押す

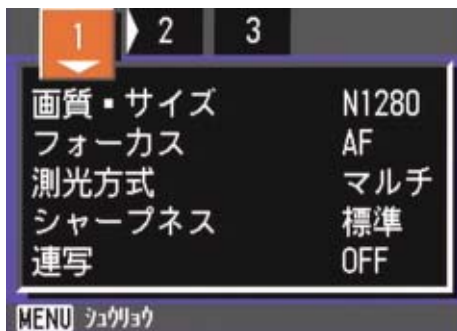
ISO感度の設定が完了し、画面右側に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

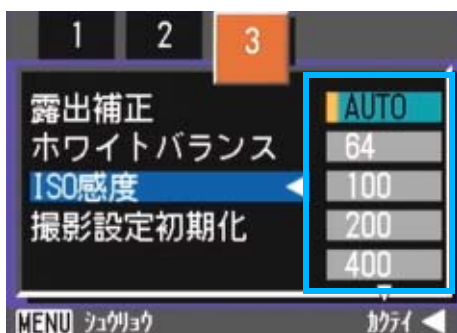
3

3

撮影メニューでISO感度を設定する

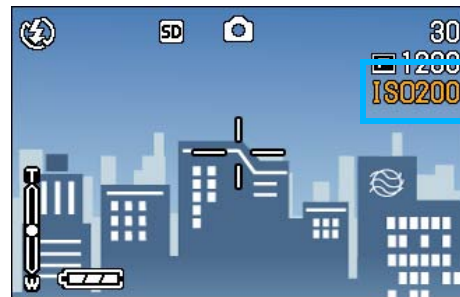
撮影メニューを使ってISO感度を設定するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる
2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える
4. [ISO感度] を選び、OKまたは▶ボタンを押す

5. ▲▼ボタンを押して、ISO感度を選ぶ

6. OKまたは◀ボタンを押す

ISO感度の設定が完了します。

7. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面右側に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

文字撮影のときの濃淡を変えるには（文字濃度）

文字を撮影する場合、文字の濃淡を変更することができます。

濃淡は、濃い、標準、淡いから選択できます。

メモ

初期設定では、標準に設定されています。

参照

文字を撮影するには→P.38

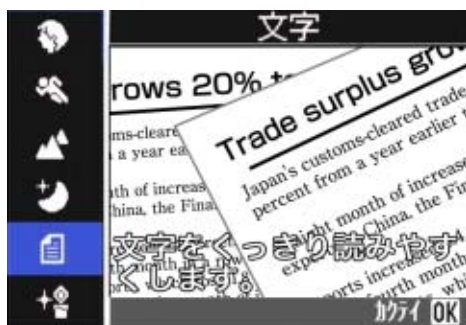
文字濃度を変更するには、ADJ.ボタンを使う操作と、撮影メニューを使う操作の２種類の操作方法があります。

ADJ.ボタンで文字濃度を変更する

ADJ. ボタンを使って文字濃度を変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SCENE**（SCENE モード）に合わせる

   SCENE 選択画面が表示されます。

2. ▲▼ボタンを押して、文字モードに合わせ、OK ボタンを押す

3. ADJ.ボタンを押す

   文字濃度のメニューが表示されます。

4. ▲▼ボタンを押して、濃度を選ぶ

   この状態でシャッターボタンを押すこともできます。

5. OK ボタンを押す

   文字濃度の設定が完了します。

   文字濃度の設定値は画面上には表示されません。以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

撮影メニューで文字濃度を変更する

撮影メニューを使って文字濃度を変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SCENE**（SCENE モード）に合わせる

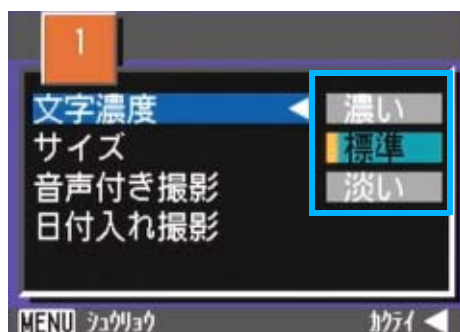
   SCENE 選択画面が表示されます。

2. ▲▼ボタンを押して、文字モードに合わせ、OK ボタンを押す

3. MENU ボタンを押す

   撮影メニューが表示されます。

4. [文字濃度] を選び、OK または▶ボタンを押す

5. ▲▼ボタンを押して、濃淡を選ぶ

6. OKまたは◀ボタンを押す

文字濃度の設定が完了します。

7. MENUボタンを押す

撮影画面に戻ります。

文字濃度の設定値は画面上には表示されません。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

ホワイトバランスを変化させて連続撮影するには（ホワイトバランスブラケット）

設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の3枚が自動的に記録されます。

1枚目が赤みがかった画像、2枚目が現在の設定、3枚目が青みがかった画像になります。

適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

メモ

- 初期設定では、OFFに設定されています。
- 連写撮影時（P.40）、オートブラケット撮影時（P.71）には使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- 長時間露光（P.72）の設定はOFFになります。

参照

ホワイトバランスを変更するには→P.60

ホワイトバランスブラケット撮影をするには、次のように操作します。

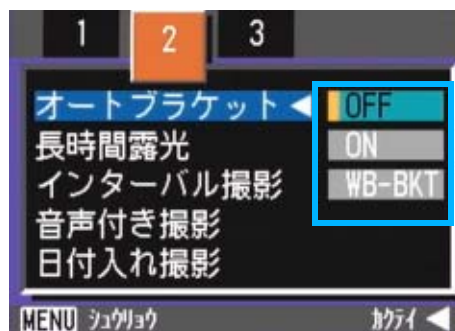
1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる

2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

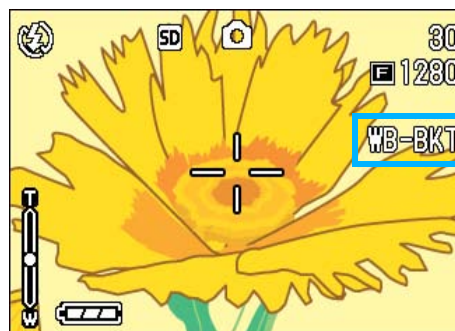
3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える

4. ［オートブラケット］を選び、OKまたは▶ボタンを押す

5. ▲▼ボタンを押して、［WB-BKT］を選ぶ

6. OKまたは◀ボタンを押す

ホワイトバランスブラケット撮影の設定が完了します。

7. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面に［WB-BKT］と表示されます。

8. シャッターボタンを押す

設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で3枚記録されます。

撮影直後に液晶モニターに表示される3枚の静止画は、左から赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像です。

以降、変更もしくは電源をオフにするまで、この設定で撮影されます。

画質モード / 画像サイズを選ぶには（画質・サイズ）

記録された静止画や動画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの設定によって変わります。

画質モードについて

静止画や動画を画像ファイルとして保存するときには、画像データを圧縮してファイルにします。

画質モードとは、そのときの圧縮率の設定のことです。

画質モードには、N（Normal）とF（Fine）の2種類があります。

Normalモード

圧縮率は高くなりファイルのサイズは小さくなります。通常は、このモードで撮影します。

Fineモード

圧縮率は低くなりファイルのサイズは大きくなりますが、Normalモードより高画質になります。

画像サイズについて

画像サイズは、画像の大きさのことで、ホームページで利用したり、電子メールで送信したりする場合には、小さいサイズが適しています。印刷して利用する場合には、大きいサイズを選択したほうが、美しく印刷できます。

メモ

- 動画では、画質モードの設定はできません。
- 静止画と動画では、設定できる画像サイズが異なります。

用語説明

画像ファイル

静止画や動画などのファイルを画像ファイルと呼びます。

静止画の画質モード / 画像サイズを変更する

		サイズ		
		2048 × 1536	1280 × 960	640 × 480
モード	F（Fine）	F2048	F1280	
	N（Normal）	N2048	N1280	N640

太枠内は画面に表示されるときの名称です。

メモ

640 × 480にFineモードはありません。

初期設定では、N1280に設定されています。

参照

SDメモリーカードに記録できる枚数一覧→P.164

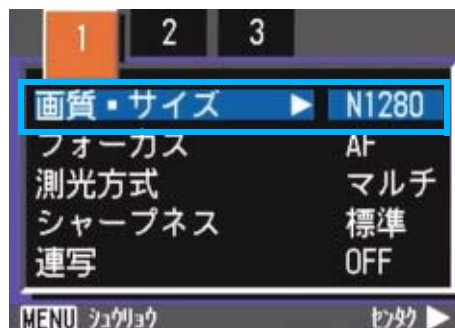
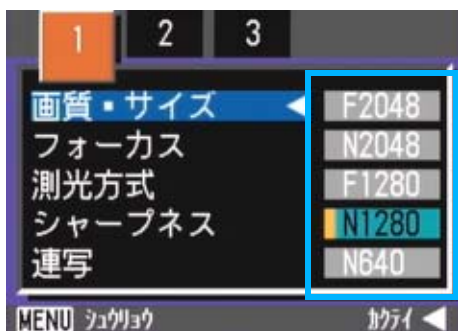
画質モード / 画像サイズを変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる

またはSCENE（SCENEモード）に合わせてシーンを選択し撮影できる状態にします。

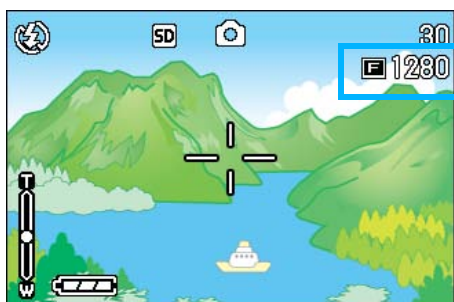
2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. [画質・サイズ] を選び、OKまたは▶ボタンを押す

4. ▲▼ボタンを押して、画質・サイズを選ぶ

5. OKまたは◀ボタンを押す

画質・サイズの設定が完了します。

6. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面右上に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

文字モード撮影時の画像サイズを変更する

文字モードでは、画質モードは設定できません。画像サイズには、1280 × 960、2048 × 1536の2種類があります。

メモ

購入時には、1280 × 960に設定されています。

画像サイズを変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを SCENE（SCENEモード）に合わせる

SCENE選択画面が表示されます。

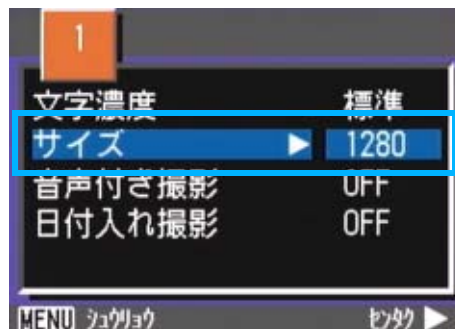
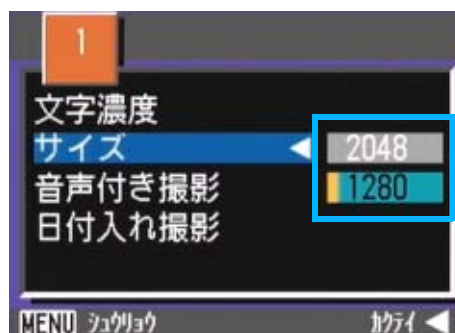
2. ▲▼ボタンを押して、文字モードを選ぶ

3. OKボタンを押す

SCENEモードの撮影画面に変わり、画面上側に文字モードのマークが表示されます。

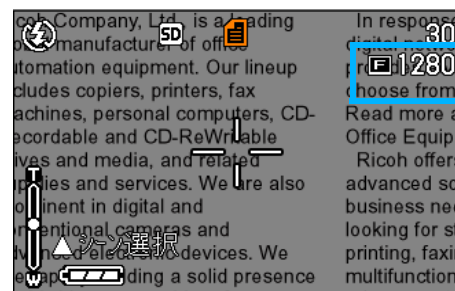
4. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

5. [サイズ] を選び、OKまたは▶ボタンを押す

6. ▲▼ボタンを押して、サイズを選ぶ

7. OKまたは◀ボタンを押す

文字モードでの画像サイズの設定が完了します。

8. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面右上に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

動画の画像サイズを変更する

動画では、画質モードは設定できません。

画像サイズには、320×240、160×120の2種類があります。

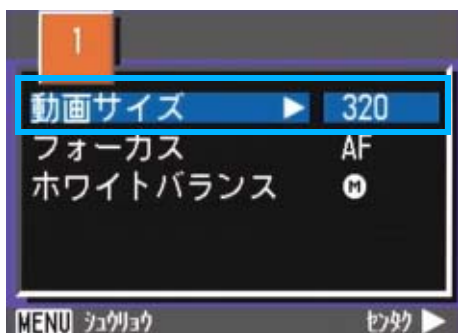
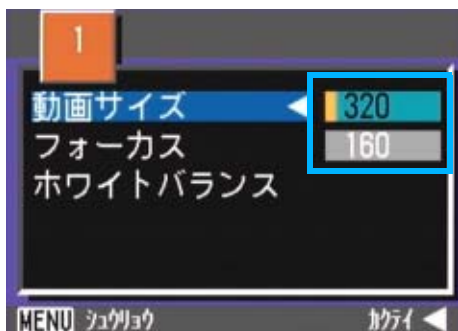
メモ

初期設定では、320×240に設定されています。

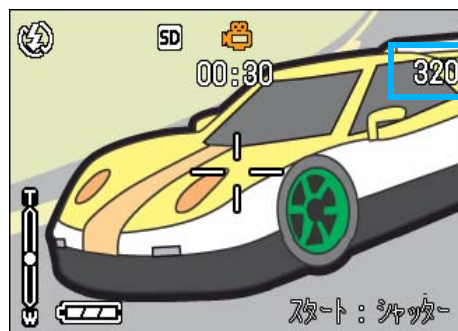
3

画像サイズを変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを🎥(動画モード)に合わせる
2. MENUボタンを押す

   撮影メニューが表示されます。
3. [動画サイズ]を選び、OKまたは▶ボタンを押す

4. ▲▼ボタンを押して、サイズを選ぶ

5. OKまたは◀ボタンを押す

   動画サイズの設定が完了します。
6. MENUボタンを押す

   撮影メニューが消え、画面右上に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

手動でピントを合わせて撮影する（フォーカス）

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせること（マニュアルフォーカス）ができます。なお、マニュアルフォーカスでは、マクロ撮影距離の被写体にもピントを合わせることができます。

また、撮影距離を固定して撮影することもできます。固定の場合には、スナップまたは（∞）無限遠のいずれかに固定できます。

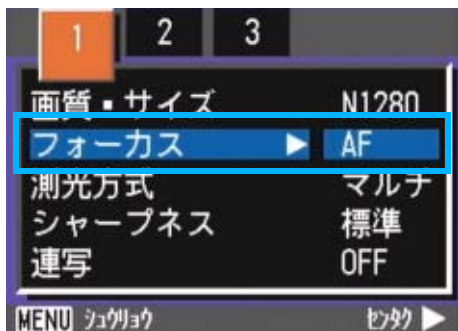
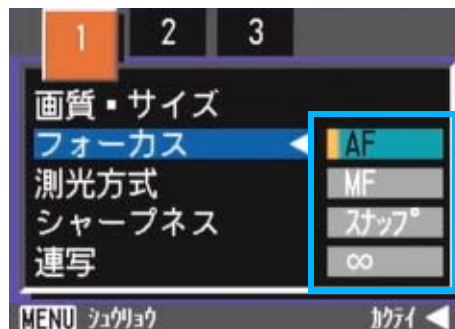
メモ

- 初期設定では、AF（オートフォーカス）に設定されています。
- SCENE モードではマニュアルフォーカスは使用できません。
- マニュアルフォーカスの時は、マクロ撮影（P.45）はできません。

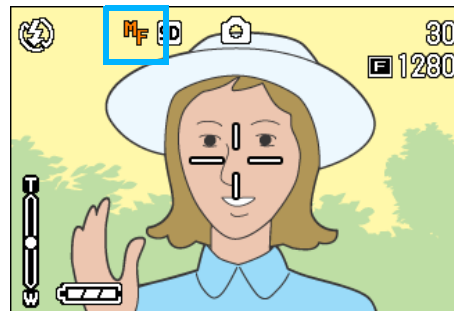
マニュアルフォーカスで撮影する

マニュアルフォーカスで撮影するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを（撮影モード）または（動画モード）に合わせる
2. MENUボタンを押す

   撮影メニューが表示されます。
3. ［フォーカス］を選び、OKまたは▶ボタンを押す

4. ▲▼ボタンを押して、［MF］を選ぶ

5. OKまたは◀ボタンを押す

   フォーカスの設定が完了します。
6. MENUボタンを押す

   メニューが消え、画面上側に MF と表示されます。

7. ▲▼ ボタンを押してピントを合わせる

   ▲ボタンを押すと近距離方向に移動します。

   ▼ボタンを押すと遠距離方向に移動します。

   以降、設定を変更するまで、このマニュアルフォーカスで撮影されます。

撮影距離を固定して撮影する

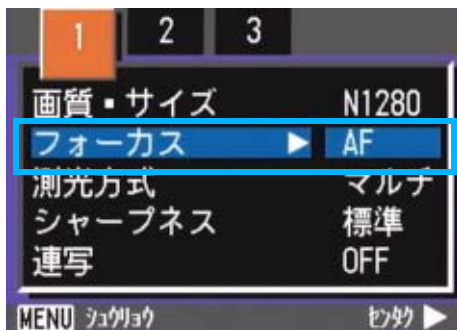
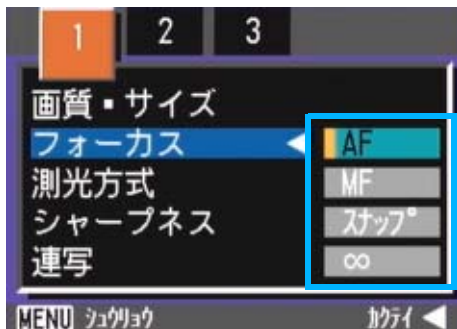
撮影距離を固定して撮影するには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを📷（撮影モード）または🎥（動画モード）に合わせる**

または SCENE（SCENE モード）に合わせてシーンを選択し撮影できる状態にします。

2. **MENU ボタンを押す**

撮影メニューが表示されます。

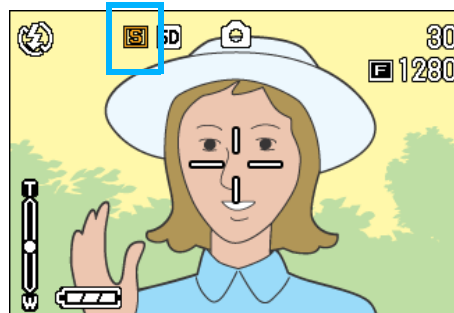
3. **[フォーカス] を選び、OK または▶ボタンを押す**

4. **▲▼ボタンを押して、[スナップ] または [∞]（無限遠）を選ぶ**

メモ

- [スナップ] を選択すると、撮影距離が2.5mに固定されます。
- [∞] を選択すると、撮影距離が無限遠に固定されます。遠くの風景などを撮影するときに使います。

5. **OK または◀ボタンを押す**

フォーカスの設定が完了します。

6. **MENU ボタンを押す**

撮影メニューが消え、画面上側に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

測光方式を変えるには（測光方式）

露出値を決めるときの測光方式（どの範囲で測光するか）を変更することができます。

測光方式には、マルチ、中央、スポットの３種類があります。

マルチ（マーク表示なし）

撮影範囲全体を256に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。

中央（[中央マーク]）

中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。

中央と周辺の明るさが異なるときに使います。

スポット（[スポットマーク]）

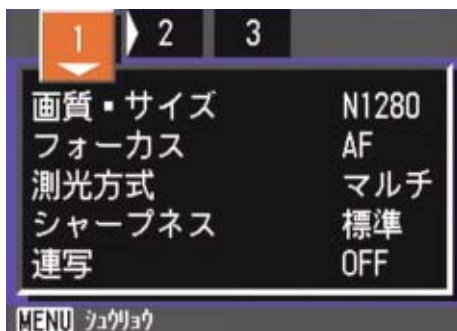
中央部分のみで測光して判断します。

中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

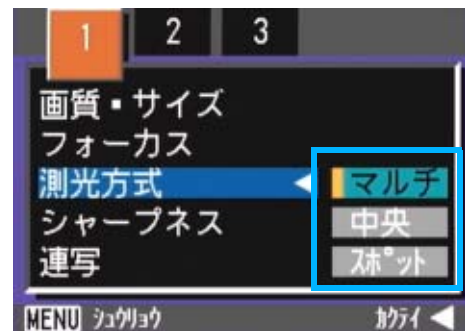
メモ

初期設定では、マルチに設定されています。

測光方式を変更するには、次のように操作します。

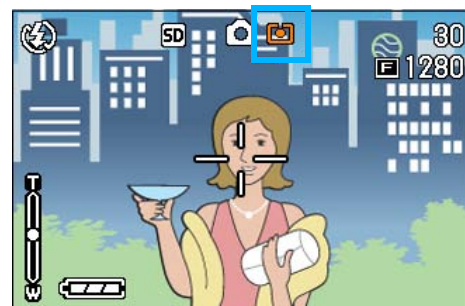
1. モードダイヤルを[カメラマーク]（撮影モード）に合わせる
2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える
4. ［測光方式］を選び、OKまたは▶ボタンを押す

5. ▲▼ボタンを押して、設定値を選ぶ

6. OKまたは◀ボタンを押す

測光方式の設定が完了します。

7. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面上部に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

静止画の質感を変えるには(シャープネス)

静止画の質感をシャープにしたりソフトにしたりすることができます。

メモ

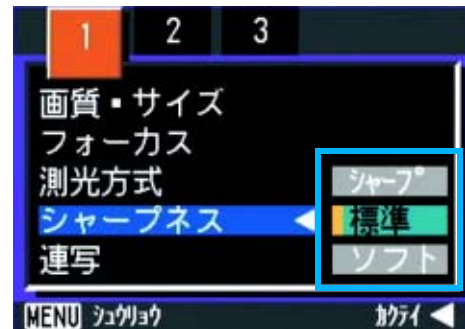
初期設定では、標準に設定されています。

静止画の質感を変更するには、次のように操作します。

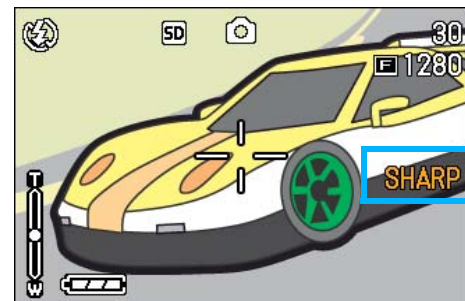
1. モードダイヤルを📷(撮影モード)に合わせる
2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える
4. [シャープネス] を選び、OK または▶ボタンを押す

5. ▲▼ボタンを押して、設定値を選ぶ

6. OKまたは◀ボタンを押す

シャープネスの設定が完了します。

7. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面右側に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

露出を変化させて連続撮影するには（オートブラケット）

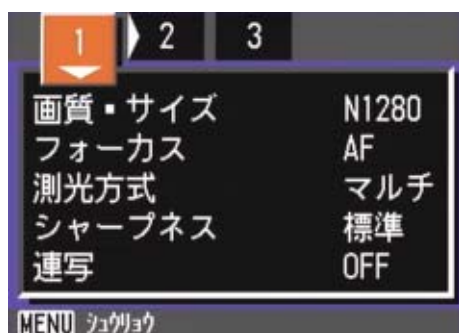
オートブラケットは、設定されている露出を基準に -0.5EV、± 0、+0.5EV と 3 段階の露出で、自動的に 3 枚連続して撮影する機能です。

メモ

・初期設定では、OFF に設定されています。
・音声付き撮影時には、使用できません。

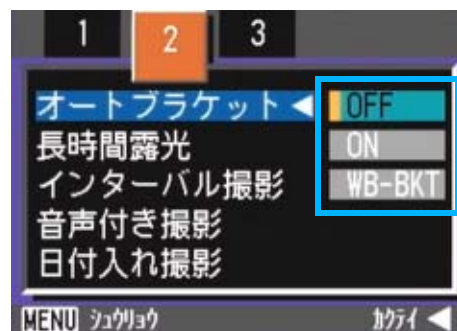
オートブラケット撮影を行うには、次のように操作します。

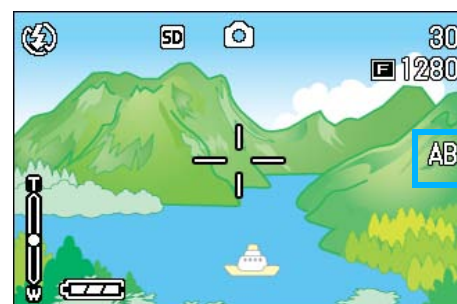
1. モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる

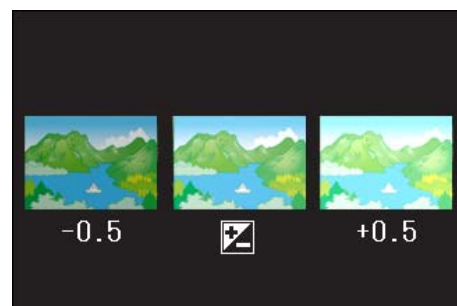
2. MENU ボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える

4. ［オートブラケット］を選び、OK または▶ボタンを押す

5. ［ON］を選び、OK または◀ボタンを押す

6. MENU ボタンを押す

撮影メニューが消え、画面左側に［AB］が表示されます。

7. シャッターボタンを押す

設定されている露出補正値を基準に、-0.5EV、± 0、+0.5EV で 3 枚連続撮影されます。
撮影直後に液晶モニターに表示される 3 枚の静止画は、左から -0.5EV（暗い）、基準の補正値、+0.5EV（明るい）です。

以降、変更もしくは電源をオフにするまで、この設定で撮影されます。

参照

・露出補正値を変更するには→P.54
・ホワイトバランスを変更するには→P.56

3

露光時間を設定するには（長時間露光）

露光時間を設定すると、設定した時間内シャッターを開いて撮影します。

露光時間を設定すると、夜景を写したときに、花火や車などの被写体の軌跡を撮影することができます。

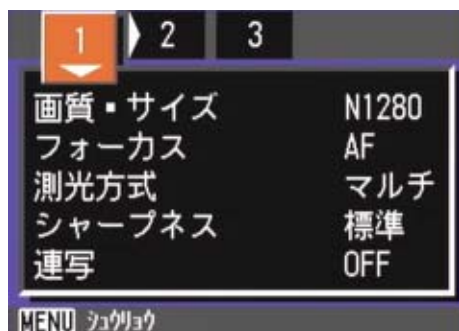
露光時間は、1秒、2秒、4秒、8秒から選択できます。

メモ

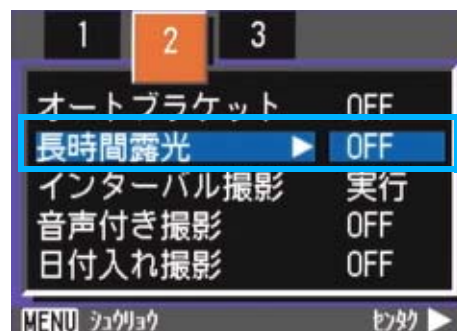
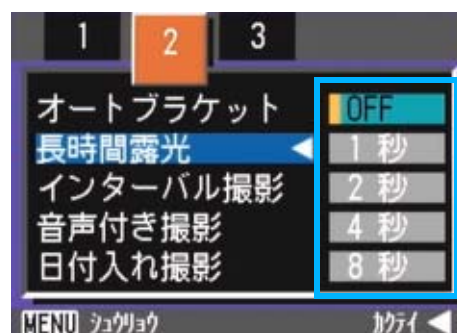
- 初期設定では、OFFに設定されています。
- 露光時間を設定したときには、シャッタースピードが遅くなり、手ブレを起こすことがあります。カメラを両手でしっかり固定させるか、三脚等を使用して撮影してください。
- 露光時間を設定して撮影した場合、撮影中は液晶モニターの表示が消えます。

設定するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを（撮影モード）に合わせる

2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える

4. [長時間露光] を選び、OKまたは▶ボタンを押す

5. ▲▼ボタンを押して、露光時間を選ぶ

6. OKまたは◀ボタンを押す

長時間露光の設定が完了します。

7. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面下側に設定値が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

一定間隔で自動撮影する（インターバル撮影）

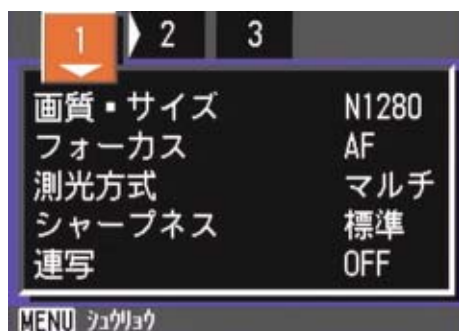
設定した時間間隔で、自動的に撮影することができます。

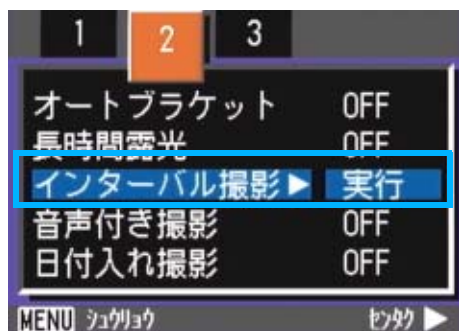
撮影間隔は、30秒〜3時間の間で30秒単位で設定できます。

メモ

初期設定では、OFFに設定されています。

インターバル撮影するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる
2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える
4. ［インターバル撮影］を選び、OKまたは▶ボタンを押す

5. ▲▼ ボタンを押して時間を設定する

6. ▶ ボタンを押して分の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、分を設定する
7. ▶ ボタンを押して秒の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、秒を設定する
8. OKまたは◀ボタンを押す

インターバル撮影の設定が完了します。

9. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面上部に「インターバル」と表示されます。

10. シャッターボタンを押す

設定した間隔で、次々に撮影されます。

11. 撮影を中止するときには、OKボタンを押す

インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。

3

3

メモ

- 手順5～7では、▲▼ボタンを押し続けると、高速で数値を増減させることができます。
- 電源に電池を使用している場合には、電池切れになることがあります。AC アダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。ただし、インターバル撮影モードはそのまま保持されます。最後の撮影の後、インターバル撮影で設定した時間が経過すると次の撮影が行われます。
- 画質モードやフラッシュモードの設定によっては、設定した時間より撮影間隔が長くなる場合があります。
- インターバル撮影に設定した場合は、連写の設定が［連写］、［M連写］に設定されていても、自動的に連写OFFに切り替わります。

静止画に日付を入れるには（日付入れ撮影）

静止画の右下に日付を入れることができます。

表示形式は、日付（年/月/日）と日時（年/月/日/時:分）の2種類の形式から選択することができます。

- 日付時刻が設定されていないと日付入れ撮影はできません。まず、日付時刻を設定してください。
- 動画に日付を入れることはできません。

参照

日付時刻を設定するには→P.111

日付または日時を入れるには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる

2. MENUボタンを押す

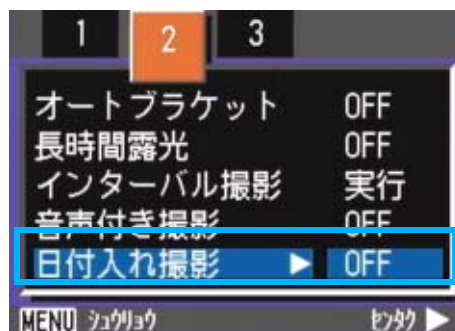
撮影メニューが表示されます。

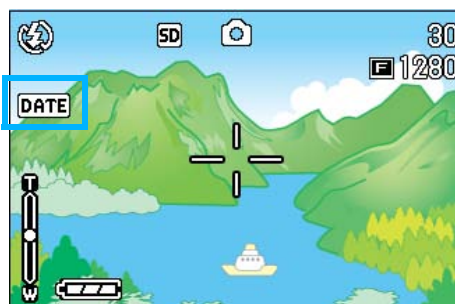
3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える

4. ▼ボタンを押して、[日付入れ撮影]を選び、OKまたは▶ボタンを押す

5. ▲▼ボタンを押して設定値を選ぶ

6. OKまたは◀ボタンを押す

日付入れ撮影の設定が完了します。

7. MENUボタンを押す

撮影メニューが消え、画面左に[DATE]が表示されます。

以降、設定を変更するまで、この設定で撮影されます。

撮影メニューの設定を元に戻す（撮影設定初期化）

撮影メニューの設定を購入時の設定に戻すことができます。

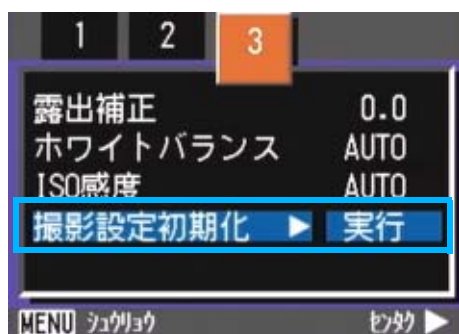
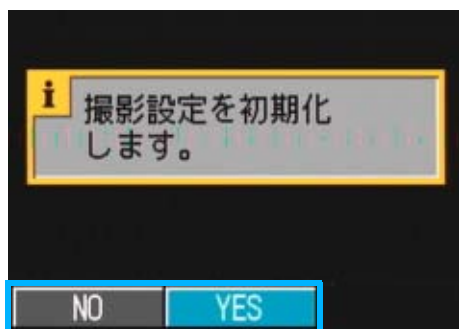
初期値に戻すには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを📷（撮影モード）に合わせる

2. MENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

3. 必要に応じて◀▶ボタンを押し、画面を切り替える

4. [撮影設定初期化] を選び、OK または▶ボタンを押す

5. ▶ボタンを押して［YES］を選ぶ

6. OKボタンを押す

初期化中のメッセージが表示され、完了するとモードの画面に戻ります。

メモ

撮影メニューでの設定は、インターバル撮影、オートブラケットの設定を除いて、電源をオフにしても保持されます。

Section4
静止画/動画/音声を再生/削除する

撮影した静止画や動画は、液晶モニターで表示して確認したり,不要なものは削除したりすることができます。また、記録した音声は再生してスピーカーから聞くことができます。

メモ

液晶モニターで長い時間静止画や動画を表示する場合には、電源に AC アダプター（別売り）を使用することをお勧めします。

直前に撮った１枚を見る（クイックレビュー）

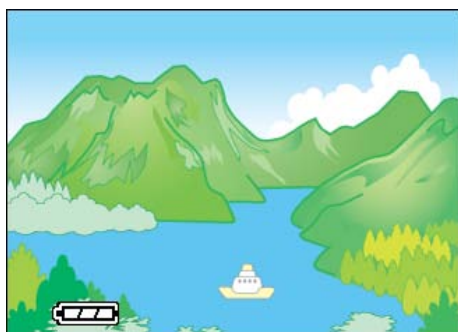
撮影直後に、「いま撮った静止画を確認したい」というときには、撮影モードのまますぐに表示できます。この機能をクイックレビューと呼びます。

動画の場合には、最初の１フレームを静止画像で表示します。

直前に撮った静止画を表示するには、次のように操作します。

4

1. 撮影モードのまま（クイックレビュー）ボタンを押す

液晶モニターに最後に撮影した静止画が表示されます。

撮影状態に戻すには、もう一度（クイックレビュー）ボタンを押します。

メモ

- いったん電源をオフにすると、（クイックレビュー）ボタンを押しても、撮影した静止画は表示されません。
- クイックレビュー中にシャッターボタンを押すと撮影画面に戻ります。
- 文字モードで撮影した静止画をクイックレビューで表示すると、実際に記録された静止画より若干画質が低い状態で表示されることがあります。
- 文字モードで日付入れ撮影を行ったときは、再生モードでのみ日付の表示ができます。

静止画を拡大表示する

（クイックレビュー）ボタンで表示した静止画は、（拡大表示）ボタンを押すと、最大3.4倍まで拡大表示できます。

静止画を拡大表示して見るには、次のように操作します。

1. （拡大表示）ボタンを押す

静止画が拡大表示されます。液晶モニターには、静止画の一部分が表示されています。

拡大する	ボタン
縮小する	ボタン
表示部分を移動する	▲▼◀▶ ボタン

元の表示に戻すには、（サムネイル）ボタンで倍率を等倍に戻して（クイックレビュー）ボタンを押します。

メモ

動画は拡大表示できません。

静止画や動画を削除する

（クイックレビュー）ボタンで表示した静止画や動画は、🗑（削除）ボタンを押すと、削除することができます。

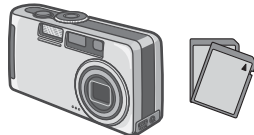
表示されている静止画や動画を削除するには、次のように操作します。

1. **クイックレビューの状態で 🗑（削除）ボタンを押す**

2. **▶ボタンを押して、[削除] を選ぶ**

3. **OKボタンを押す**

処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、撮影画面に戻ります。

参照

静止画や動画を選択して削除するには→P.87

撮影した静止画や動画を見る

撮影した静止画や動画は、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに記録されています。内蔵メモリーまたは SD メモリーカード内の静止画や動画は、液晶モニターに表示して見ることができます。

メモ

SD メモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーから再生され、SD メモリーカードをセットしているときには SD メモリーカードから再生されます。

本体のみのとき	SD メモリーカードがセットされているとき
内臓メモリーから再生	SD メモリーカードから再生

メモリカードに記録された静止画を見る

静止画を見るには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせる**

最後に撮ったファイルが表示されます。

動画の場合には、最初の 1 フレームが静止画像で表示されます。

2. ◀▶ボタンで見たい静止画にする

▶ボタンを押すと、次のファイルを表示します。

◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示します。

◀▶ボタンを押し続けると、高速で移動できます。

参照

再生時に画面に表示される情報について→P.19

4

内蔵メモリーに記録された静止画を見る

内蔵メモリーに記録された静止画を見るには、次のように操作します。

1. SDメモリーカードがセットされているときには、電源をオフにして、SDメモリーカードを抜き、再び電源をオンにする

2. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

最後に撮ったファイルが表示されます。

動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

3. ◀▶ボタンで見たい静止画にする

▶ボタンを押すと、次のファイルを表示します。

◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示します。

◀▶ボタンを押し続けると、高速で移動できます。

動画を見る

動画を見るには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

最後に撮ったファイルが表示されます。

動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

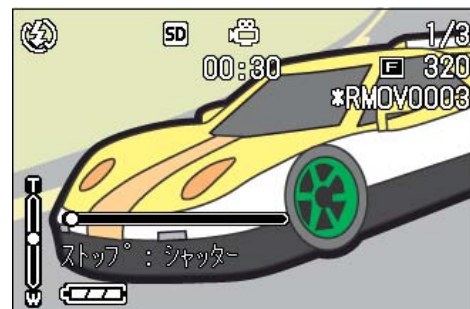
2. ◀▶ボタンで見たい動画にする

▶ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。

◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示できます。

3. シャッターボタンを押す

再生が始まります。

液晶モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中に [♠]（望遠）ボタンを押す
巻き戻し	再生中に [♣]（広角）ボタンを押す
一時停止 / 再生	シャッターボタンを押す
スロー再生	一時停止中に [♠]（望遠）ボタンを押し続ける
スロー戻し	一時停止中に [♣]（広角）ボタンを押し続ける
次のフレームの表示	一時停止中に [♠]（望遠）を押す
前のフレームの表示	一時停止中に [♣]（広角）を押す

動画の音量を調整する

音量を調整するには、次のように操作します。

1. ▲▼ボタンを押す

音量調整バーが表示されます。

2. ▲▼ ボタンを押して音量を調整する

9段階に調整できます。

以降、変更するまで、設定した音量になります。

用語説明

動画のフレーム

動画のフレームはコマともいいます。動画はたくさんのフレームで構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。

参照

再生時に画面に表示される情報について→P.19

音声を再生する

音声モードで記録した音声や、音声付きで撮影した静止画の音声を再生することができます。

音声を再生する

音声モードで記録した音声を再生するときには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせる

最後に撮ったファイルが表示されます。

動画の場合には、最初の 1 フレームが静止画像で表示されます。

2. ◀▶ ボタンで再生したい音声ファイル（スピーカーの絵の画面）にする

▶ ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。

◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示できます。

◀▶ ボタンを押し続けると、高速で移動できます。

3. シャッターボタンを押す

音声が再生されます。
レンズが出ている場合は、レンズを収納したあとに音声が再生されます。

早送り	再生中に [♠]（望遠）ボタンを押す
巻き戻し	再生中に [♠]（広角）ボタンを押す
一時停止 / 再生	シャッターボタンを押す

音声付き静止画の音声を再生する

音声付きで撮影された静止画の音声を再生するときには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせる

最後に撮ったファイルが表示されます。

動画の場合には、最初の 1 フレームが静止画像で表示されます。

2. ◀▶ ボタンで見たい音声付き静止画にする

▶ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。
◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示できます。
◀▶ボタンを押し続けると、高速で移動できます。

3. シャッターボタンを押す

音声が再生されます。
再生中はシャッターボタンまたは◀ボタンを押すと、
音声の再生を停止することができます。

音量を調整する

音量を調整するには、次のように操作します。

1. ▲▼ボタンを押す

音量調整バーが表示されます。

2. ▲▼ ボタンを押して音量を調整する

9段階に調整できます。
以降、変更するまで、設定した音量になります。

参照

・音声を記録するには→P.47
・音声付きの静止画を撮影するには→P.52

一覧にして見る（サムネイル表示）

液晶モニターの画面を6分割し、撮影した静止画や動画を一覧（サムネイル表示）にして見ることができます。

一覧から見たい静止画や動画を選び、通常の1枚表示にすることができます。

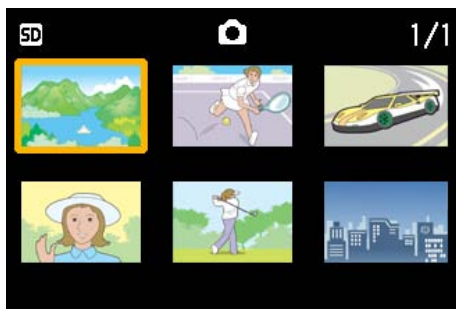
一覧表示から、静止画や動画を1枚表示するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

最後に撮ったファイルが表示されます。

動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

2. ▦（サムネイル表示）ボタンを押す

画面が6分割されて、静止画や動画（先頭のフレーム）が縮小して表示されます。

3. ▲▼◀▶ボタンを押して、1枚表示したい静止画や動画を選ぶ

4. 🔍（拡大表示）ボタンを押す

選択した静止画や動画が1枚表示されます。

メモ

サムネイル表示では、文字ファイル、音声ファイルは青色で表示されます。

参照

・一覧画面で静止画を選択して削除するには→P.88
・一覧画面で静止画を選択してプロテクト（削除からの保護）を設定するには→P.97
・一覧画面で静止画を選択してプリントサービスの設定をするには→P.100

用語説明

サムネイル表示

サムネイル表示とは縮小表示のことです。多くの画像を一覧にして表示する場合などによく使われる表示方法です。

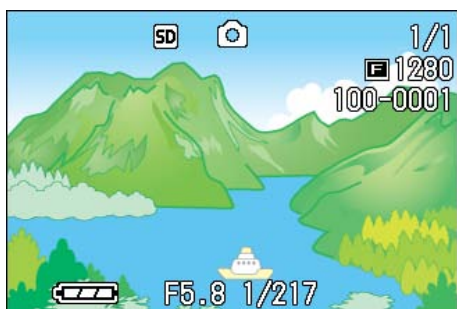
4

拡大して見る

撮影した静止画を表示している際、🔍（拡大表示）ボタンを押すと、静止画を最大3.4倍に拡大表示することができます。

静止画を拡大表示して見るには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

最後に撮ったファイルが表示されます。

2. 拡大表示したい静止画を表示する

3. 🔍（拡大表示）ボタンを押す

静止画が拡大表示されます。液晶モニターには、静止画の一部分が表示されています。

▲▼◀▶ボタンを押すと、表示される場所を動かせます。

元の表示に戻すには、OKボタンを押します。

メモ

動画は拡大表示できません。

参照

静止画を表示するには→P.79

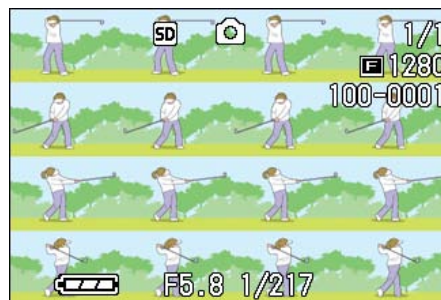
S連写／M連写した静止画を拡大して見る

S連写、M連写で撮影した静止画（16枚1組になった画像ファイル）を表示している際、16枚の中の1枚（コマ）を拡大表示することができます。拡大表示後は、1コマずつコマ送りすることもできます。

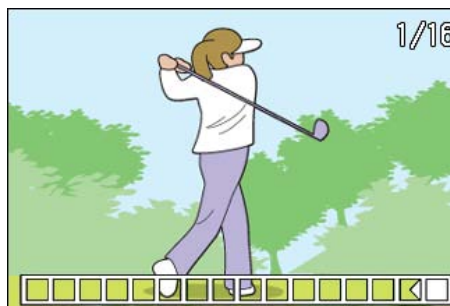
S連写、M連写で撮影した1コマを拡大表示して見るには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

最後に撮ったファイルが表示されます。

2. S連写またはM連写で撮影した静止画を表示する

3. 🔍（拡大表示）ボタンを押す

連写した先頭の1コマが拡大表示されます。

液晶モニターの下部にはコマ位置を示すバーが表示されます。

◀▶ボタンを押すと、コマを移動することができます。16枚の表示に戻すには、OKボタンを押します。

メモ

DISP ボタンを押すたびに、液晶モニター下部のバーの表示、グリッドガイド表示、表示なしを切り替えることができます。

参照

S連写、M連写で撮影するには→P.40

自動的に順に表示する（スライドショー）

撮影した静止画や動画、音声を、順番に液晶モニターに表示することができます。この機能をスライドショーと呼びます。

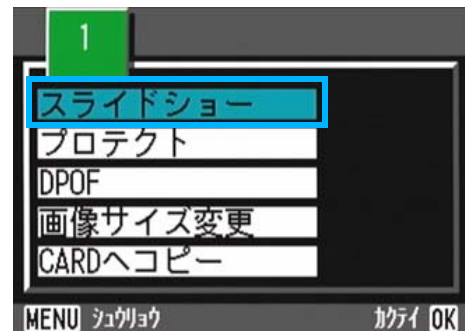
スライドショーで見るには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる**

最後に撮ったファイルが表示されます。

2. **MENUボタンを押す**

再生メニューが表示されます。

3. **［スライドショー］が選択されていることを確認し、OKボタンを押す**

スライドショーが開始され、ファイルが順に再生されます。

途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。

中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。

メモ

- 静止画は、3秒ごとに表示されます。
- 動画は、1フレームだけではなく、撮影した内容がすべて表示されます。
- 音声ファイルも再生されます。

テレビの画面で見る

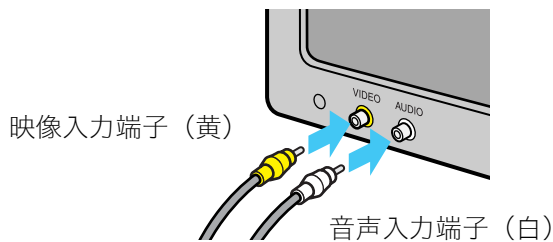
撮影した静止画や動画を、テレビの画面に表示して見ることができます。

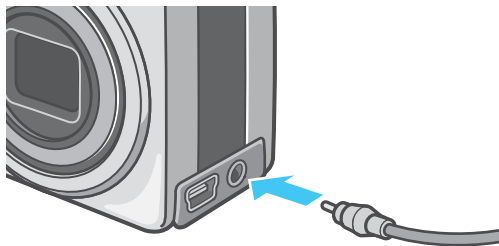
テレビの画面には液晶モニターと同じ内容が表示されます。

テレビの画面に表示するには、カメラに付属している AV ケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。

静止画や動画をテレビで見るには、次のように操作します。

1. テレビのビデオ入力端子にAVケーブルをしっかり接続する

このとき AV ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

2. カメラの電源がオフになっていることを確認する

3. ビデオ出力端子に AV ケーブルをしっかり接続する

4. テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

詳しくはテレビの説明書を参照してください。

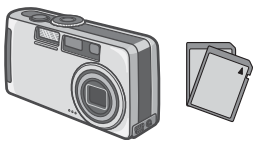
5. カメラのモードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせる

6. カメラの電源ボタンを押して電源をオンにする

メモ

- ビデオの入力端子に AV ケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器での再生方式はNTSC方式（日本などで使用されている）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている）の場合には、カメラの SETUP メニューで PAL 方式に設定してから接続してください。
- AVケーブルで本機を接続している間は、液晶モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。

不要な静止画/動画/音声を削除する

撮影に失敗した静止画や動画、音声は、簡単に削除することができます。

削除方法には、次の3種類があります。

- 1枚を削除する
- すべてを一度に削除する
- 複数を選択して一度に削除する

プロテクトが設定されている静止画や動画、音声は削除されません。

メモ

SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーにある静止画または動画、音声が削除され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の静止画または動画、音声が削除されます。

本体のみのとき	SD メモリーカードがセットされているとき
内臓メモリーから削除	SD メモリーカードから削除

静止画1枚を削除する

静止画（または動画、音声）を削除するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

   最後に撮ったファイルが表示されます。

2. 削除したい静止画（または動画、音声）を表示する

3. 🗑（削除）ボタンを押す

4. ▶ボタンを押して、［1ファイル削除］を選ぶ

5. OKボタンを押す

   処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、再生画面に戻ります。

参照

- （クイックレビュー）ボタンで表示した静止画を削除するには→P.78
- 静止画（または動画）を表示するには→P.79
- 音声を再生するには→P.81
- 静止画（または動画、音声）をプロテクトするには→P.96

すべてを一度に削除する

すべての静止画や動画、音声を削除するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

   最後に撮ったファイルが表示されます。

2. 🗑（削除）ボタンを押す

3. ▶ボタンを押して、［全削除］を選び、OKボタンを押す

   削除の確認画面が表示されます。

4

4. ▶ボタンを押して［YES］を選ぶ

5. OKボタンを押す

処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、再生画面に戻ります。

参照

- 静止画（または動画）を表示するには→P.79
- 音声を再生するには→P.81
- 静止画（または動画、音声）をプロテクトするには→P.96

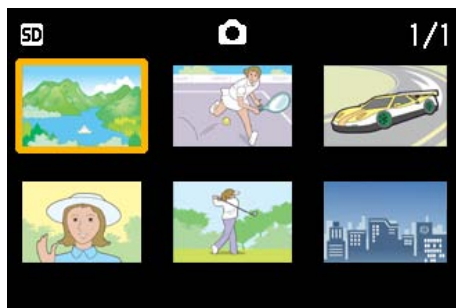
複数を一度に削除する

選択した静止画や動画、音声を一度に削除するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

最後に撮ったファイルが表示されます。

2. ▦（サムネイル表示）ボタンを押す

画面が６分割されて、ファイルが縮小して表示されます。

3. ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したい静止画や動画、音声を選ぶ

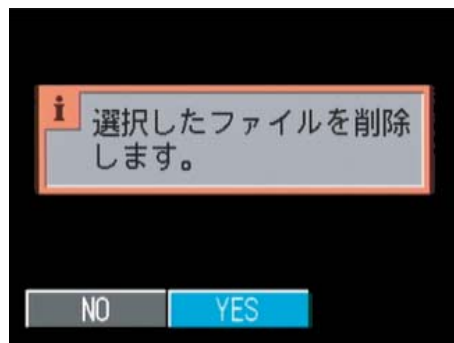
4. 🗑（削除）ボタンを押す

静止画（または動画、音声）の左上にゴミ箱のマークが表示されます。）

5. 手順3と4を繰り返して、削除したい静止画や動画、音声をすべて選択する

間違えて選択したときには、その静止画や動画、音声で🗑（削除）ボタンを再度押すと選択を解除できます。

6. OKボタンを押す

削除の確認画面が表示されます。

7. ▶ボタンを押して［YES］を選ぶ

8. OKボタンを押す

処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

参照

サムネイル表示の詳細について→P.83

Section5
ダイレクトプリントで印刷する

メモ

PictBridgeは登録商標です。

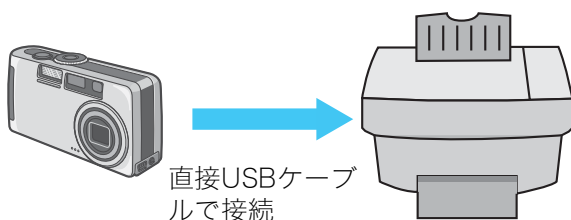
ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接USBケーブルで接続して、カメラ内の画像をプリンターから印刷する機能です。撮影した画像を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。

注意

動画（.AVI）は、印刷できません。音声付き静止画（.JPGと.WAV）の場合には、静止画（.JPG）のみ印刷されます。

メモ

・本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格であるPictBridgeを採用しています。
・ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターがPictBridgeに対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。
・ご使用になるプリンターによっては、静止画（.JPG）だけでなく、文字（.TIF）も印刷できます。詳しくは、ご使用のプリンターの説明書をご覧ください。

画像をプリンタへ送って印刷する

PictBridge対応プリンタへ、カメラから画像を送り、印刷することができます。

SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリー内の画像が印刷され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の画像が印刷されます。

ダイレクトプリントによる印刷方法には、次の３種類があります。

・１枚の画像を印刷する（→P.91）
・カメラ内のすべての画像を印刷する（→P.92）
・複数の画像を選択して印刷する（→P.93）

また、複数の画像を印刷する場合には、印刷枚数を指定して、１枚の用紙に同じ画像を複数枚印刷できます。

注意

印刷が完了するまで、USBケーブルを外さないでください。

メモ

送信中に「プリンターエラー」のメッセージが表示された場合には、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。

カメラとプリンタを接続する

付属の専用USBケーブルを使って、カメラとプリンタを接続します。

1. カメラの電源がオフになっていることを確認する
2. プリンタの電源がオフになっていることを確認する

   プリンタには用紙をセットして、印刷できる状態にしておきます。
3. 付属の専用USBケーブルの一方をプリンターのUSBポートに接続する
4. 付属の専用USBケーブルのもう一方をカメラのUSB端子に接続する
5. プリンタの電源をオンにする

   カメラの電源が自動的に入ります。

メモ

カメラとプリンタの接続を外すときには、カメラとプリンタの電源がオフになっていることを確認し、USBケーブルをカメラとプリンタから外してください。

1枚の画像を印刷する

1. プリンタが印刷できる状態であることを確認する

   「接続待ち」画面が表示されます。
2. ADJ.ボタンを押す

   「接続中」画面が表示されます。プリンターとカメラが接続されると、ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。
   プリンターによっては、ADJ.ボタンを押さなくても自動的に「接続中」画面になるものがあります。
   表示される画像は、最後に撮影した画像です。
3. ◀▶ボタンで、印刷したい画像を表示する
4. ADJ.ボタンを押す
5. ▶ボタンを押して、[1ファイル]を選ぶ

6. OKボタンを押す

   ダイレクトプリントのメニューが表示されます。
7. ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

選択できる項目は次の6種類です。

項目名	働き
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1枚に何コマ印刷するかを設定します。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。 日付の書式は、SETUPモードの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データをプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。

メモ

- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 選択できる項目がない場合は▶ボタンを押しても詳細項目は表示されません。また、項目そのものがプリンター側にない場合は表示されません。
- 詳細項目で「プリンター指定」を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

8. OKボタンを押す

ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

9. OKボタンを押す

画像がプリンターに送られ、「送信中」画面が表示されます。

送信を中断したい場合には、MENUボタンを押してください。

送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

5

すべての画像を印刷する

1. プリンターが印刷できる状態であることを確認する

「接続待ち」画面が表示されます。

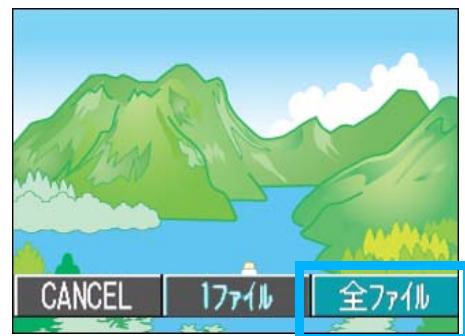
2. ADJ.ボタンを押す

「接続中」画面が表示されます。プリンターとカメラが接続されると、ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

プリンターによっては、ADJ.ボタンを押さなくても自動的に「接続中」画面になるものがあります。

表示される画像は、最後に撮影した画像です。

3. ADJ.ボタンを押す

4. ▶ボタンを押して、[全ファイル]を選ぶ

5. OKボタンを押す

ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

6. ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

選択できる項目は次の6種類です。

項目名	働き
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1 枚に何コマ印刷するかを設定します。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。 日付の書式は、SETUP モードの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データをプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。

メモ

- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 選択できる項目がない場合は▶ボタンを押しても詳細項目は表示されません。また、項目そのものがプリンター側にない場合は表示されません。
- 詳細項目で「プリンター指定」を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

7. OKボタンを押す

ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

8. 手順6と7を繰り返して、変更したい項目の値を変更する

9. OKボタンを押す

画像がプリンターに送られ、「送信中」画面が表示されます。

送信を中断したい場合には、MENUボタンを押してください。

用紙 1 枚分の画像を送り終わるごとに、プリンターで印刷が開始されます。

すべての画像の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

複数の画像を印刷する

1. プリンターが印刷できる状態であることを確認する

「接続待ち」画面が表示されます。

2. ADJ.ボタンを押す

「接続中」画面が表示されます。プリンターとカメラが接続されると、ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

プリンターによっては、ADJ.ボタンを押さなくても自動的に「接続中」画面になるものがあります。

表示される画像は、最後に撮影した画像です。

3. ▦（サムネイル表示）ボタンを押す

画面が 6 分割されて、画像が縮小して表示されます。

4. ▲▼◀▶ボタンを押して、印刷したい画像を選ぶ

5. OKボタンを押す

画像の右上にプリンターのマークが表示されます。

6. ▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定する

▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7. ◀▶ ボタンを押して印刷したい画像を選ぶ

8. ▲▼ ボタンを押して印刷枚数を選ぶ

9. 手順7.、8.を繰り返して、印刷したい画像をすべて選択して、印刷枚数を指定する

10. MENUボタンを押す

ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

11. ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

選択できる項目は次の6つです。

項目名	働き
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1 枚に何コマ印刷するかを設定します。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。 日付の書式は、**SETUP** モードの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データをプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。

メモ

- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 選択できる項目がない場合は▶ボタンを押しても詳細項目は表示されません。また、項目そのものがプリンター側にない場合は表示されません。
- 詳細項目で「プリンター指定」を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

12. OKボタンを押す

ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

13. 手順12と13を繰り返して、変更したい項目の値を変更する

14. OKボタンを押す

画像がプリンターに送られ、「送信中」画面が表示されます。

送信を中断したい場合には、MENUボタンを押してください。

用紙１枚分の画像を送り終わるごとに、プリンターで印刷が開始されます。

すべての画像の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

Section6
その他の機能について

撮影した静止画や動画などを誤って削除してしまわないように保護（プロテクト）したり、内蔵メモリーから SD メモリーカードへコピーしたり、静止画をプリントサービス用に設定するなど、さまざまな管理機能があります。

ここでは、これらの管理機能について説明します。

削除できないように設定する（プロテクト）

記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。

プロテクトを設定するには、次の３種類の方法があります。

- １枚（1ファイル）をプロテクトする
- すべてを一度にプロテクトする
- 複数を選択して一度にプロテクトする

注意

プロテクトしたファイルは、削除することはできませんが、フォーマットを行った場合には、プロテクト設定の有無にかかわらず、すべて消去されます。

表示しているファイルをプロテクトする

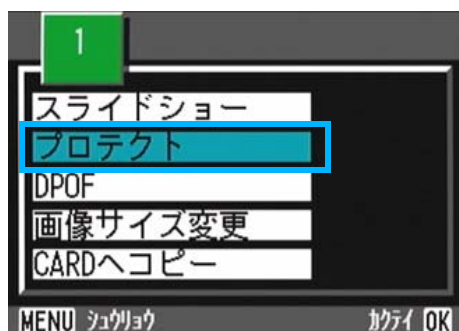
ファイルにプロテクトを設定するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる

   最後に撮ったファイルが表示されます。

2. プロテクトしたいファイルを表示する
3. MENUボタンを押す

   再生メニューが表示されます。

4. ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、OKボタンを押す

5. ▶ボタンを押して、[1ファイル]を選ぶ

6. OKボタンを押す

   プロテクトが設定され、画面の左上にプロテクト設定を示すマークが表示されます。

メモ

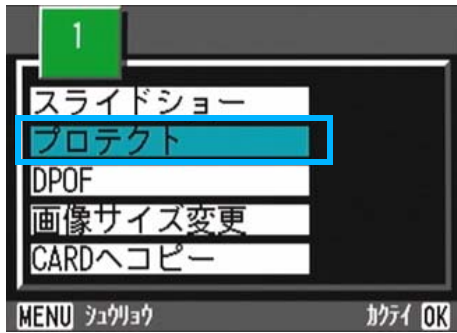
1ファイルずつプロテクトを解除するには、プロテクトの設定と同じように操作します。

すべてのファイルをプロテクトする

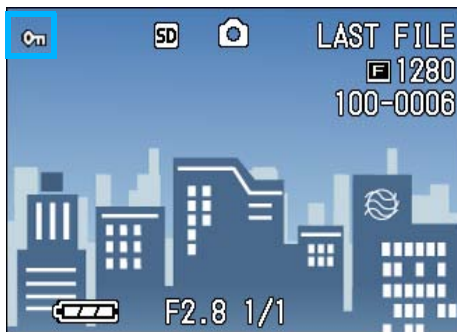
すべてのファイルにプロテクトを設定するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる
2. MENUボタンを押す

   再生メニューが表示されます。

3. ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、OKボタンを押す

4. ▶ボタンを押して、[全ファイル]を選ぶ

5. [選択]が選ばれていることを確認して、OKボタンを押す

プロテクトが設定され、画面の左上にプロテクト設定を示すマークが表示されます。

メモ

- すべてのファイルのプロテクトを解除するには、プロテクトの設定の手順で[解除]を選択します。
- すべてにプロテクトが設定されている場合だけでなく、複数のファイルに設定されているプロテクトを一度に解除することもできます。

複数のファイルを一度にプロテクトする

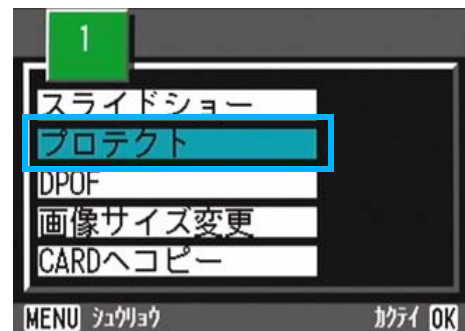
選択したファイルに対して、一度にプロテクトの設定を行うには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶(再生モード)に合わせる
2. (サムネイル表示)ボタンを押す

画面が6分割されて、ファイルのサムネイルが表示されます。

3. ▲▼◀▶ボタンを押して、プロテクトしたい1枚目のファイルを選ぶ
4. MENUボタンを押す

再生メニューが表示されます。

5. ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、OKボタンを押す

6. ▲▼◀▶ボタンを押して、次にプロテクトの設定をしたいファイルを選び、OKボタンを押す

ファイルの右上にプロテクト設定のマークが表示されます。

7. 手順6を繰り返して、プロテクトの設定をしたいファイルをすべて選択する

6

間違えた場合は、そのファイルでOKボタンを再度押すと選択が解除できます。

8. MENUボタンを押す

処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ

複数のファイルのプロテクトを解除するには、上記の手順で、解除したいファイルを選択して実行します。

参照

サムネイル表示の詳細について→P.83

内蔵メモリーの内容をカードへコピーする（CARDへコピー）

内蔵メモリーに記録したファイルを一括してSDメモリーカードにコピーすることができます。

内蔵メモリー内のファイルをSDメモリーカードにコピーするには、次のように操作します。

1. 電源ボタンを押して、電源をオフにする
2. SDメモリーカードをセットする
3. 電源をオンにする
4. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる
5. MENUボタンを押す

再生メニューが表示されます。

6. ▼ボタンを押して、［CARDへコピー］を選ぶ

7. OKボタンを押す

処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。

メモ

・コピー先のSDメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合には［YES］を選んでOKボタンを押してください。コピーを取り消す場合には［NO］を選んでOKボタンを押してください。

・SDメモリーカードから内蔵メモリーへは、コピーできません。

参照

SDメモリーカードをセットするには→P.17

プリントサービスを利用する（DPOF：ディーポフ）

SD メモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお持ちいただくと、プリントすることができます。

プリントサービスを利用するには、プリントに必要な情報を設定する必要があります。その設定をDPOF（ディーポフ）設定と呼びます。

DPOF の設定をするには、次の３種類の方法があります。

・１枚（1ファイル）に設定する

・すべての静止画に設定する

・複数を選択して一度に設定する

DPOF 設定を行うと、１静止画につき１枚印刷するという情報が設定されます。

ただし、複数の画像を選択して一度に設定する場合には、印刷枚数を指定できます。

表示している静止画にDPOF設定する

静止画１枚に対して DPOF 設定をするには、次のように操作します。

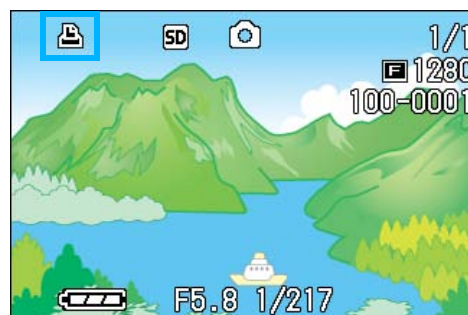
1. モードダイヤルを▶（再生モード）に合わせる
2. 設定したい静止画を表示する
3. MENUボタンを押す

   再生メニューが表示されます。

4. ▼ボタンを押して、［DPOF］を選び、OKボタンを押す

5. ▶ボタンを押して、[1ファイル] を選ぶ

6. OKボタンを押す

   DPOF設定が行われ、画面の左上にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ

1枚ずつDPOF設定を解除するには、設定と同じように操作します。

6

すべての静止画にDPOF設定する

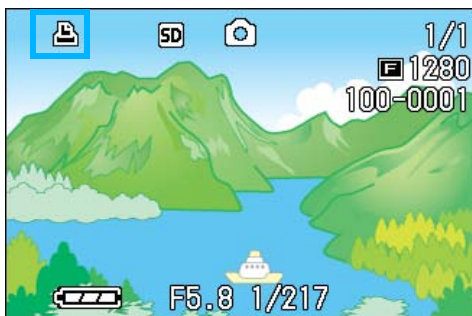
すべての静止画に対してDPOF設定をするには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶(再生モード)に合わせる
2. MENUボタンを押す

再生メニューが表示されます。

3. ▼ボタンを押して、[DPOF]を選び、OKボタンを押す

4. ▶ボタンを押して、[全ファイル]を選ぶ

5. [選択]が選ばれていることを確認して、OKボタンを押す

DPOF設定が行われ、画面の左上にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ

- すべての静止画のDPOF設定を解除するには、設定の手順5で[解除]を選択します。
- すべてにDPOF設定されている場合だけでなく、複数の静止画のDPOF設定を一度に解除することもできます。

複数の静止画にDPOF設定する

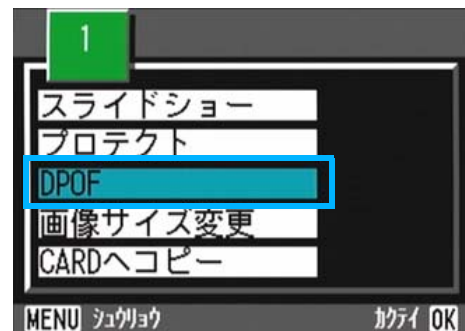
選択した静止画に対して、DPOF設定を行うには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを▶(再生モード)に合わせる
2. ▦(サムネイル表示)ボタンを押す

画面が6分割されて、静止画が縮小して表示されます。

3. ▲▼◀▶ボタンを押して、DPOF設定したい1枚目の静止画を選ぶ
4. MENUボタンを押す

再生メニューが表示されます。

5. ▼ボタンを押して、[DPOF]を選び、OKボタンを押す

6. ▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定する

▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7. ◀▶ボタンを押して、次にDPOF設定をしたい静止画を選ぶ

8. ▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定する

▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

9. 手順7～8を繰り返して、DPOF設定をしたい静止画をすべて選択する

間違えて選択したときには、その静止画で OK ボタンを再度押すと選択が解除できます。

10. MENUボタンを押す

処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

6

画像サイズ縮小する（画像サイズ変更）

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

選択できる画像サイズは、Normal モードの 640 × 480、1280 × 960 の 2 種類です。

注意

- 一度変更した画像は、元のサイズには戻せません。
- 画像サイズ変更ができるのは、静止画および音声付きの静止画です。動画は画像サイズ変更できません。

メモ

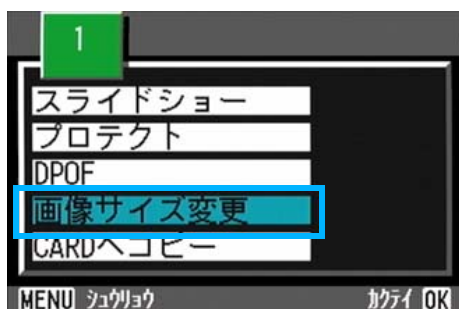
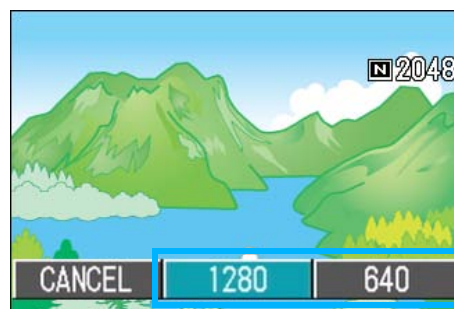
- 可能な画像サイズ変更は、次の種類です。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
F2048/N2048	N1280	N640
F1280/N1280		N640

画像サイズを変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを ▶ (再生モード) に合わせる
2. MENU ボタンを押す

   再生メニューが表示されます。

3. ▼ボタンを押して、[画像サイズ変更] を選び、OK ボタンを押す

4. ▶ボタンを押して、[1280] または [640] を選ぶ

5. OK ボタンを押す

   画像サイズ変更が行われ、画像サイズ変更によって作成された静止画が表示されます。

参照

撮影時の画像サイズを変更するには→P.64

Section7
カメラの設定を変更する

ここでは、カメラの設定を変更する操作について説明します。

SDメモリーカードを使えるようにする（CARD フォーマット）

「使用できないCARDです。」等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンなど他の機器でフォーマットしてしまった場合には、SDメモリーカードをフォーマットしてから使用する必要があります。

注意

画像の記録されているカードをフォーマットすると、内容がすべて消えてしまいます。

参照

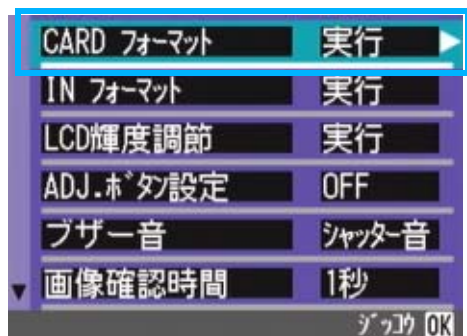
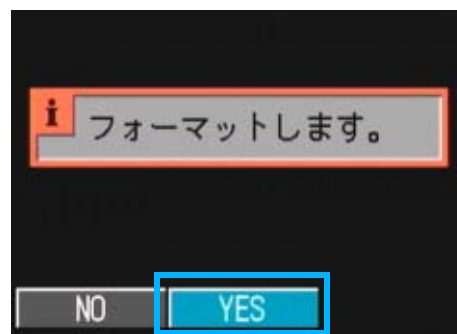
内蔵メモリーのフォーマットについて→P.105

フォーマットするには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SETUP** に合わせる

   SETUP画面が表示されます。

2. ［CARDフォーマット］を選び、OKボタンを押す

   フォーマットの確認画面が表示されます。

3. ▶ボタンを押して［YES］を選び、OKボタンを押す

フォーマットが行われ、完了するとSETUP画面に戻ります。

メモリカードが、入っていない場合には、メッセージが表示されます。

いったん電源をオフにしてから、SDメモリーカードをセットして、再度フォーマットの操作を行ってください。

誤って画像を消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、撮影や画像の削除、フォーマットができなくなります。

解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除もフォーマットもできるようになります。

用語説明

フォーマット

カードを画像データが書き込めるような状態にする処理のことです。初期化ともいいます。

内蔵メモリーをフォーマットする（INフォーマット）

「内蔵メモリーをフォーマットしてください。」というエラーメッセージが表示された場合には、内蔵メモリーをフォーマットする必要があります。

注意

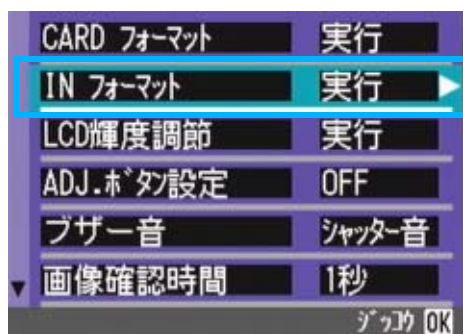
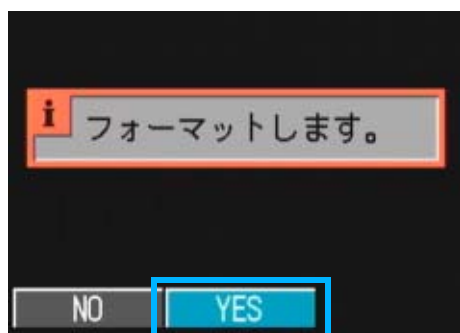
内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーに記録されている画像はすべて消去されます。消去したくない画像が含まれているときは、フォーマットする前に、リコー修理受付センターにご相談ください。

フォーマットをするには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを SETUP に合わせる**

   SETUP画面が表示されます。

2. **[IN フォーマット］を選び、OK ボタンを押す**

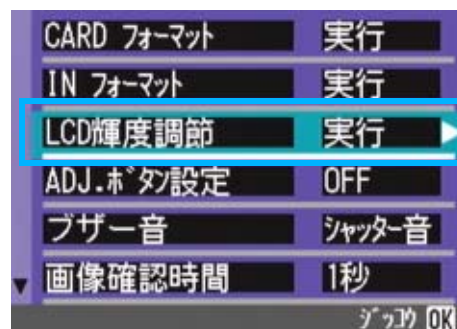
   フォーマットの確認画面が表示されます。

3. **▶ボタンを押して［YES］を選び、OKボタンを押す**

フォーマットが行われ、完了するとSETUP画面に戻ります。

液晶モニターの明るさを調節する（LCD輝度調節）

液晶モニターの明るさを調節するには、次のように操作します。

1. **モードダイヤルを SETUP（SETUPモード）に合わせる**

   SETUP画面が表示されます。

2. **▼ ボタンを押して、［LCD 輝度調整］を選ぶ**

3. **OKボタンを押す**

   LCD輝度調節バーが表示されます。

4. **▲▼ボタンを押して、明るさを調節する**

   側に変更すると、暗くなります。側に変更すると、明るくなり ます。バーの後ろに表示されている画面の明るさが、設定値にしたがっ て変化します。

5. **設定したい明るさになったら、OKボタンを押す**

   SETUP画面に戻ります。

以降、変更するまで、この設定で表示されます。

7

ADJ. ボタンに機能を設定する（ADJ.ボタン設定）

ADJ.ボタンは、1回押すごとに、露出補正→ホワイトバランスやISO感度の順に各機能の設定画面を表示します。

［ADJ.ボタン設定］では、ADJ.ボタンを4回目に押したときに働く機能を設定することができます。

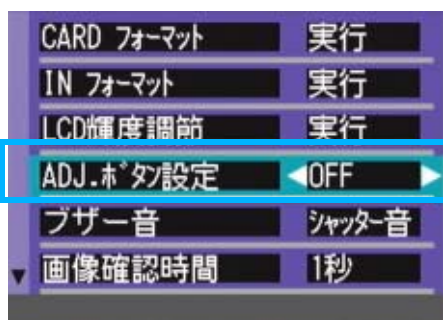
設定できる値

OFF* 購入時の設定
（画質・サイズ）
AF/MF（フォーカス）
SHARP（シャープネス）
（測光方式）

ADJ.ボタンに機能を設定するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SETUP**（SETUPモード）に合わせる

   SETUP画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して、［ADJ.ボタン設定］を選ぶ）

3. ◀▶ボタンを押して、設定値を選ぶ

   以降、変更するまで、この設定です。

メモ

［ADJ.ボタン設定］で機能を設定した場合には、マクロ撮影時に ADJ. ボタンで使うことのできる AF ターゲット移動機能（→ P.45）は、ADJ.ボタンを5回目に押したときに働きます。

参照

・ADJ.ボタンの使いかた→P.53

・画質モード / 画像サイズを選ぶには（画質・サイズ）→P.64

・手動でピントを合わせて撮影する（フォーカス）→P.67

・静止画の質感を変えるには（シャープネス）→P.70

・測光方式を変えるには（測光方式）→P.69

操作音の設定を変える（ブザー音）

カメラの操作中には、起動音、シャッター音、ブザー音の３種類の音が鳴ります。

起動音　：カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。

シャッター音　：シャッターボタンを押したときに鳴ります。

ブザー音　：撮影した画像は、内蔵メモリーやSDメモリーカードにすぐに記録されます。記録時に、「ピッ」というブザー音が確認のために鳴ります。

これらの操作音を鳴らさないように設定を変更することができます。

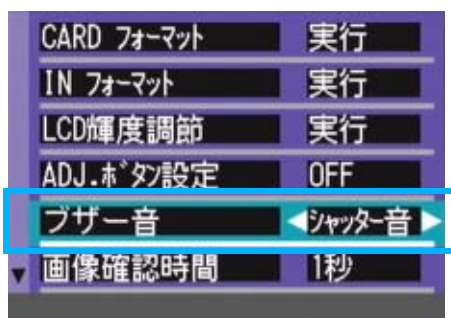
設定できる値

シャッター音
ON（すべて鳴らす）＊購入時の設定
OFF（すべて鳴らさない）

操作音の設定を変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SETUP**（SETUPモード）に合わせる

   SETUP画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して、［ブザー音］を選ぶ

3. ◀▶ボタンを押して、設定値を選ぶ

   以降、変更するまで、この設定です。

画像確認時間を変える（画像確認時間）

シャッターボタンを押した直後に、撮影した静止画が確認のために表示されます。

確認時間は、購入時には１秒に設定されていますが、設定を変更することができます。

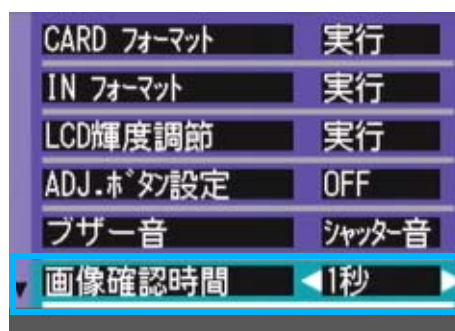
設定できる値

OFF（確認のための表示を行わない）
１秒＊購入時の設定
２秒
３秒

確認時間を変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SETUP**（SETUPモード）に合わせる

   SETUP画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して、[画像確認時間]を選ぶ

3. ◀▶ボタンを押して、設定値を選ぶ

   以降、変更するまで、この設定で撮影されます。

オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）

設定した時間内にカメラの操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。

購入時のオートパワーオフは１分に設定されていますが、この設定を変更することができます。

設定できる値

OFF（オートパワーオフ機能は働きません）
１分＊購入時の設定
５分
30 分

オートパワーの設定を変えるには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SETUP**（SETUPモード）に合わせる

SETUP画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して、[オートパワーオフ] を選ぶ

3. ◀▶ボタンを押して、設定値を選ぶ

以降、変更するまで、この設定です。

メモ

- オートパワーオフで電源がオフになったとき、引き続きカメラ を使用したい場合には、もう一度電源ボタンを押してオンにします。
- オートパワーオフは、パソコンと接続しているときには働きません。
- インターバル撮影をするときには、ここでの設定は無効になり、オートパワーオフは働きません。

ファイル名の設定を変える(CARD連続No.)

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録されます。

SD メモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの 連番にするか、しないかを設定できます。

設定できる値

ON（連番にする） 撮影した静止画に、R0010001.jpg ～ R9999999.jpg までの、「R」の後に 7 桁の通し番号が付いたファイル名が、自動的に付きます。 SD メモリーカードを別のカードに替えたときにも、前のカード からの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF（連番にしない）＊購入時の設定 新しいカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg ～ RIMG9999.jpg までのファイル名が付きます。 RIMG9999 を超えると、それ以上は記録できません。

ファイル名の設定を変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SETUP**（SETUP モード）に合わせる

SETUP画面が表示されます。

2. ▼ ボタンを押して、［CARD 連番 No.］を選ぶ

3. ◀▶ボタンを押して、設定値を選ぶ

以降、変更するまで、この設定で撮影されます。

メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合には、常に［CARD連番No.］の設定が［OFF ］の場合と同じにファイル名が付けられます。
- パソコンに転送する際に、パソコンの転送先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きを避けるために新しいファイル名に置き換えられて保存されます。
- Ricoh Gate La を通じてパソコンに転送した場合は、[CARD連続No.] をONにしていても、ファイル名は「RIMG****.jpg」（**** は番号）で保存されます。

用語説明

拡張子

ファイル名の後のピリオドに続く文字（「jpg」）は拡張子と呼ばれ、ファイルの種類を示します。「jpg」はJPEGファイルであることを示し ています。拡張子は必ずファイル名とピリオド「.」で区切られます。

JPEGファイル

「ジェイペグ」ファイルと読みます。画像データをファイルとして保存 するときのファイル形式の1つです。静止画を記録するときによく使われ、ファイルサイズが小さいことが特長です。

7

節電モードの設定を変える(節電モード)

節電モードにすると、液晶モニターの表示がオフになります。

(クイックレビュー) ボタン、MENUボタンを押すと液晶モニターの表示がオンになり、もう一 度押すとオフになります。

なお、(セルフタイマー) ボタン、(マクロ) ボタンを押しても、液晶モニターの表示のオン / オフは切り替わりません。

購入時には、節電モードにしない設定([OFF]) になっています。

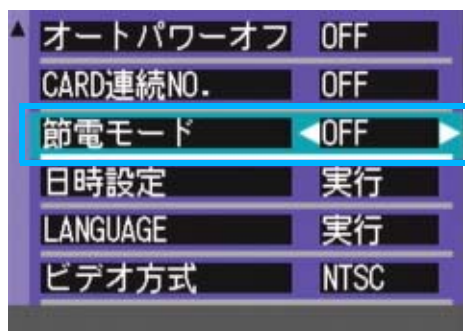
設定できる値

OFF(節電モードにしない)＊購入時の設定
ON(節電モードにする)

節電モードを変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを SETUP (SETUP モード) に合わせる

SETUP画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して、[節電モード]を選ぶ

3. ◀▶ボタンを押して、設定値を選ぶ

以降、変更するまで、この設定です。

メモ

- 節電モードがオンになっている状態で、電源をオンにしたり、モードダイヤルを切り替えると、節電モードであることを示す警告表示が約2秒間表示されます。
- (フラッシュ) ボタンを押すと、液晶モニターの表示がオンになり、フラッシュの設定を変更できます (→P.50)。シャッターボタン、OK ボタンを押すと、再び液晶モニターの表示がオフになります。

注意

節電モードにした場合、消費電力は少なくなりますが、次のような制限があります。

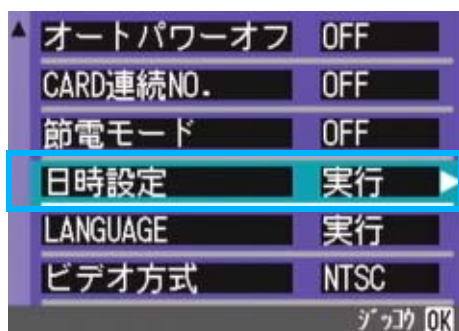
- 処理時間が遅くなることがあります。
- 撮影モードでのみ効果があります。再生モードでは動作しません。

日付時刻を設定する（日時設定）

静止画に日付や時刻を入れて撮影することができます。
ここでは、SETUP 画面からの日付時刻の設定方法を説明します。

1. モードダイヤルを SETUP に合わせる

液晶モニターに SETUP 画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して、［日時設定］を選び、OKボタンを押す

3. ▲▼◀▶ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

▲▼ ボタンを押し続けると、高速で数値を増減させることができます。

4. ［書式］で日時の書式を選ぶ

5. 画面の下部の表示を確認し、OKボタンを押す

日時が設定されて、SETUP画面に戻ります。

メモ

電池を取り出してから約 2 週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。

表示言語を変える(LANGUAGE)

液晶モニターに表示される言語を変更することができます。

設定できる値

JPN（日本語）＊購入時の設定
ENG（英語）
FRA（フランス語）
GER（ドイツ語）
ITA（イタリア語）
ESP（スペイン語）
簡体（中国語：簡体字）
繁体（中国語：繁体字）
韓国（韓国語）

表示言語を変えるには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SETUP**（SETUPモード）に合わせる

   SETUP画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して、[LANGUAGE]を選ぶ

   言語選択画面が表示されます。

3. ▲▼◀▶ボタンを押して、設定値を選ぶ

4. OKボタンを押す

   以降、変更するまで、この設定で表示されます。

テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）

付属のAVケーブルでテレビにカメラを接続して、テレビの画面で静止画や動画を見ることができます。

テレビなどの機器でのビデオ方式はNTSC方式（日本などで使用されている）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使　用されている）の場合には、PAL方式に設定してから接続します。

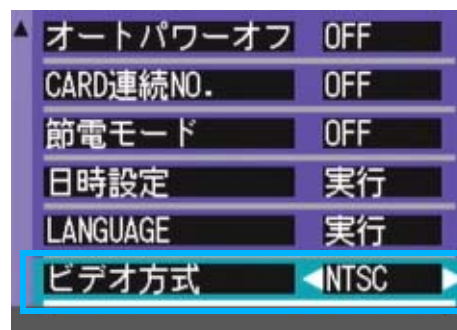
設定できる値

NTSC＊購入時の設定
PAL

再生方式を変更するには、次のように操作します。

1. モードダイヤルを **SETUP**（SETUPモード）に合わせる

   SETUP画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して、[ビデオ方式]を選ぶ

3. ◀▶ボタンを押して、設定値を選ぶ

   以降、変更するまで、この設定です。

メモ

AVケーブルをカメラに接続している間は、液晶モニターの表示が消えます。

参照

テレビの画面で静止画を見るには→P.86

Chapter 2
パソコンで画像（静止画/動画）を楽しむ（Windows編）

Section 1
ソフトをインストールする

ここでは、付属のソフトをパソコンに入れる（インストールする）方法について説明します。

注意

取り込みのためのソフトをパソコンに入れる前に、カメラをパソコンと接続しないでください。

もし、ソフトを入れる前にカメラとパソコンを接続して画面に［新しいハードウェアの追加ウィザード］画面が表示されてしまった場合には、［キャンセル］をクリックしてカメラとパソコンの接続を外してから、ソフトをパソコンに入れる操作を行ってください。

メモ

- これ以降の説明文中では、静止画と動画と音声をまとめて「ファイル」と呼んでいます。
- カメラから画像を取り込む場合には、確実に電源を供給できるACアダプター（別売り）を使用することをお勧めします。ここではACアダプターの使用を前提に説明しています。

付属のソフトでできること

カメラに付属している Caplio CD-ROM には、パソコンへカメラの画像を取り込み、パソコンで表示するために、次のソフトウェアが入っています。

Caplio Software

RICOH Gate La for Windows	画像を一括して取り込むためのソフトウェア
DU-10x	パソコンで画像を表示するためのソフトウェア
USB ドライバー	カメラとパソコンを接続するためのソフトウェア
WIA ドライバー	WindowsXP で画像を取り込むためのソフトウエア
Caplio レスキュー	パソコンソフトのトラブルシューティング（操作に困ったときのアドバイスを表示する）のためのソフトウェア
List Editor	カメラメモリストを作成するためのソフトウェア
Caplio Setting	送信リスト（通信のための設定）を作成するためのソフトウェア
Caplio Server	パソコンを Caplio 専用の FTP サーバーに設定するためのソフトウェア

その他のソフト

Acrobat Reader	説明書（PDF ファイル）を表示するためのソフトウェア
DirectX	動画を再生するためのソフトウェア
Ridoc Desk 2000 Lt	ビジネス文書を管理するためのソフトウェア
Caplio Transfer Software	画像を Ridoc に登録したり、カメラメモつきの画像をカメラメモの内容によって分類し、パソコンのフォルダに転送、保存したりするためのソフトウェア（※カメラメモは本カメラでは使用できません。）

メモ

List Editor、Caplio Setting、Caplio Serverは、他のCaplioカメラシリーズをお使いの場合に使用します。詳しくは、そのカメラの使用説明書を参照してください。

OSと使用ソフトの対応表

ご使用の OS によって、下記の表のように使用できるソフトが異なります。

	Windows XP	Windows 98/98SE/Me/2000
RICOH Gate La for Windows	○	○
DU-10x	○	○
USB ドライバー	○	○
WIA ドライバー	○	×
Caplio レスキュー	○	○
List Editor	○	○
Caplio Setting	○	○
Caplio Server	○	○
Acrobat Reader	○	○
Ridoc Desk 2000 Lt	○	○
Caplio Transfer Software	○	○

付属ソフトを使うために必要な環境

付属ソフトを使うためには、次の環境が必要です。
ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応 OS	Windows 98/98 Second Edition（日本語版）
	Windows 2000 Professional（日本語版）
	Windows Me（日本語版）
	Windows XP Home Edition（日本語版）/Professional（日本語版）
CPU	Pentium Ⅱ以上推奨
メモリー	Windows 98/98SE：32MB 以上（推奨 96MB 以上）
	Windows 2000：128MB 以上（推奨 256MB 以上）
	Windows Me：64MB 以上（推奨 96MB 以上）
	Windows XP：128MB 以上（推奨 256MB 以上）
インストール時のハードディスクの空き容量	Windows 98/98SE：10MB 以上
	Windows 2000：10MB 以上
	Windows Me：10MB 以上
	Windows XP：10MB 以上
ディスプレイの解像度	640 × 480 ドット以上（推奨 800 × 600 ドット以上）
ディスプレイの表示色	256 色以上（推奨 65000 色以上）
CD-ROM ドライブ	上記パソコン本体で使用可能な CD-ROM ドライブ
USB ポート	上記パソコン本体で使用可能な USB ポート

注意

- OS をアップグレードしたパソコンの場合，正常に USB 機能が動作しないことがありサポートできません。
- OSのシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能(PCI バスなど)を利用して後付されたUSB ポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用する事をお薦めします。

Caplio Transfer Softwareを使うために必要な環境

対応 OS	Windows 98/98 Second Edition（日本語版）
	Windows 2000 Professional（日本語版）
	Windows Me（日本語版）
	Windows XP Home Editon（日本語版）/Professional（日本語版）
パソコン	PC/AT 互換機
	ハードディスクの空き容量：10MB 以上
	CPU：266MHz 以上
	推奨メモリ：64MB 以上
USB ポート	上記パソコンで使用可能な USB ポート

注1：Caplio SoftwareがパソコンにインストールされていないCaplio Transfer Softwareをインストールできません。

注2：Caplio Transfer SoftwareのRidoc Desk 2000のプラグイン転送機能をご使用の場合、Ridoc Desk 2000 Ver.3.0.0.0 以降、もしくは Ridoc Desk 2000 Lt Ver.3.0.2.0 以降が PC にインストールされている必要があります。
Ridoc Desk 2000 Ltは、Caplio Software CD-ROMに収められています。

画像をパソコンに取り込むまでの操作の流れ

付属の Caplio CD-ROM に入っているソフトを使って、画像をパソコンに取り込むまでの流れを説明します。

パソコンのCD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットすると左の画面が表示されます。

※画面はWindows XPを例にしています。

CD-ROM内にある使用説明書を参照できます。

1 ソフトをインストールする

パソコンで画像を取り込むためには、まずCaplio Softwareをインストールします。

Windows 98/98SE/Me/2000 →P.118
Windows XP →P.120

2 必要に応じて

- Acrobat Reader
- DirectX
- Ridoc Desk 2000 Lt
- Caplio Transfer Software

をインストールする

Acrobat Reader →P.122
DirectX →P.122
Ridoc Desk 2000 Lt →P.123
Caplio Transfer Software →P.123

3 カメラとパソコンを接続する →P.126

4 画像をパソコンに取り込む →P.128

メモ

- ソフトを削除したいときには
  Windows 98/98SE/Me/2000 →P.119
  Windows XP →P.121
- SD メモリーカードから直接パソコンに画像を取り込むときには→P.131

インストールする

Windows 98/98SE/Me/2000 をご使用の場合

Windows 2000 の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。

1. カメラをパソコンと接続しない

もし、ソフトを入れる前にカメラとパソコンを接続して画面に［新しいハードウェアの追加ウィザード］画面が表示されてしまった場合には、［キャンセル］をクリックしてカメラとパソコンの接続を外してから、インストールの操作を行ってください。

2. パソコンを起動する

3. パソコンの CD-ROM ドライブに、付属のCD-ROMをセットする

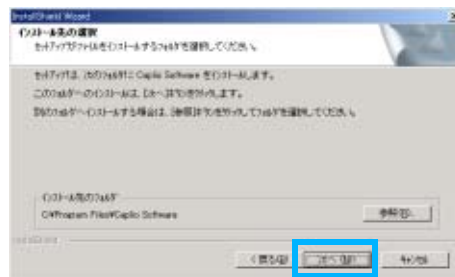
パソコンの画面に、自動的に次の画面が表示されます。

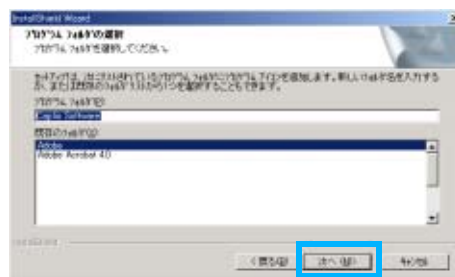
4. ［ソフトのインストール］をクリックする

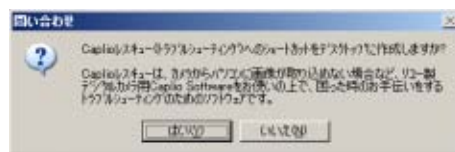
5. 使用言語を確認して［OK］ボタンをクリックする

［InstallShield ウィザード］へ［ようこそ］画面が表示されます。

6. ［次へ］ボタンをクリックする

［インストール先の選択］画面が表示されます。

7. インストール先を確認して［次へ］ボタンをクリックする

［プログラムフォルダの選択］画面が表示されます。

8. プログラムフォルダを確認して［次へ］ボタンをクリックする

Caplio レスキュー（トラブルシューティング）を起動するショートカットをデスクトップに作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

9. ［はい］または［いいえ］ボタンをクリックする

［はい］［いいえ］のどちらを選択しても、［スタート］メニューの［プログラム］-［Caplio Software］-Caplio レスキュー（トラブルシューティング）にプログラムが登録されます。

［InstallSheild ウィザードの完了］画面が表示されます。

10. [完了]ボタンをクリックする

インストールが終了します。

メモ

- 自動的に表示されない場合には、次のようにしてください。
  1. [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックして開き、CD-ROMドライブのアイコンをダブルクリックする
  2. 表示された CD-ROM ドライブのウィンドウ内にある AutoRun ファイル（AutoRun.exe）をダブルクリックする
- インストール後に、再起動が必要な場合があります。

ソフトを削除するには（Windows 98/98SE/Me/2000の場合）

インストールしたソフトを削除したいときには、次のように操作します（ソフトをパソコンから削除する操作を「アンインストール」といいます）。

Windows 2000 の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。

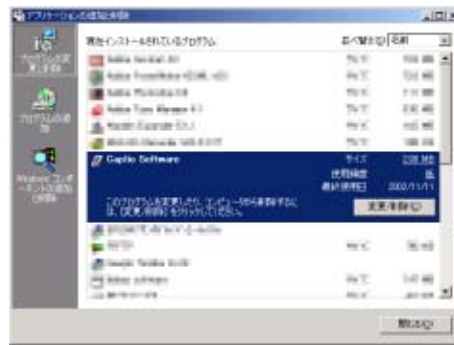
1. Windowsのタスクバーにある［スタート］をクリックする

［スタート］メニューが表示されます。

2. [設定] を選択し、[コントロールパネル］を選択する

コントロールパネルが表示されます。

3. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする

4. 「Caplio Software」を選択し、[追加と削除］をクリックする

5. 削除を確認するメッセージが表示されるので、［はい］をクリックする

6. 削除が開始され、完了するとメッセージが表示されるので [完了] ボタンをクリックする

場合によっては、この画面に再起動を促すメッセージが表示されます。そのときには再起動を選択してから［完了］をクリックし、再起動してください。

7. [OK] ボタンをクリックして [アプリケーションの追加と削除］ダイアログボックスを閉じる

8. [×] (閉じる) ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じる

Windows XPをご使用の場合

インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。

1. **カメラをパソコンと接続しない**

もし、ソフトを入れる前にカメラとパソコンを接続して画面に［新しいハードウェアの追加ウィザード］画面が表示されてしまった場合には、［キャンセル］をクリックしてカメラとパソコンの接続を外してから、インストールの操作を行ってください。

2. **パソコンを起動する**

3. **パソコンの CD-ROM ドライブに、付属のCD-ROMをセットする**

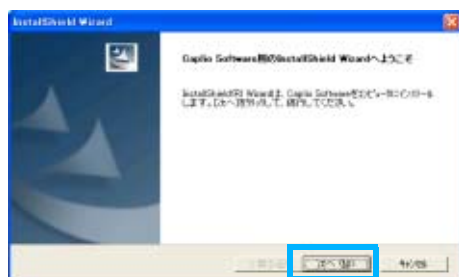
パソコンの画面に、自動的に次の画面が表示されます。

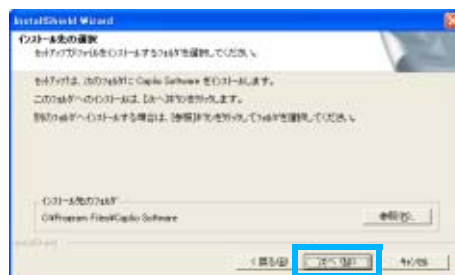
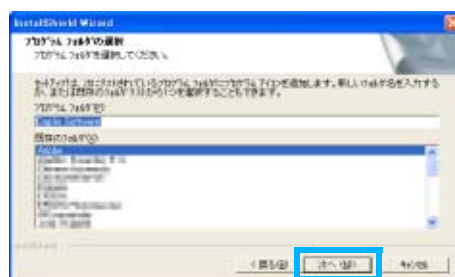
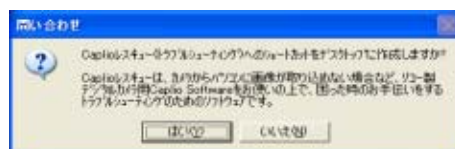
4. **［ソフトのインストール］をクリックする**

5. **使用言語を確認して［OK］ボタンをクリックする**

［InstallShield ウィザードへようこそ］画面が表示されます。

6. **［次へ］ボタンをクリックする**

［インストール先の選択］画面が表示されます。

7. **インストール先を確認して［次へ］ボタンをクリックする**

［コンポーネントの選択］画面が表示されます。

8. **インストールするソフトを確認して［次へ］ボタンをクリックする**

Caplio レスキュー（トラブルシューティング）を起動するショートカットをデスクトップに作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

9. **［はい］または［いいえ］ボタンをクリックする**

［はい］［いいえ］のどちらを選択しても、［スタート］メニューの［プログラム］-［Caplio Software］-Caplio レスキュー（トラブルシューティング）にプログラムが登録されます。

［InstallSheild ウィザードの完了］画面が表示されます。

10.[完了]ボタンをクリックする

インストールが終了します。

再起動を促すメッセージが表示された場合は、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選択して、[完了]をクリックするとパソコンが再起動します。

メモ

自動的に表示されない場合には、次のようにしてください。

1. タスクバーの［スタート］ボタンをクリックして、スタートメニューから［マイ コンピュータ］を選択する
2. 表示された[マイ コンピュータ]ウィンドウで CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックする
3. 表示された CD-ROM ドライブのウィンドウ内にある AutoRun ファイル（AutoRun.exe）をダブルクリックする

ソフトを削除するには（Windows XPの場合）

インストールしたソフトを削除したいときには、次のように操作します（ソフトをパソコンから削除する操作を「アンインストール」といいます）。

アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。

1. Windowsのタスクバーにある［スタート］をクリックする

［スタート］メニューが表示されます。

2. ［スタート］メニューから［コントロールパネル］を選択する

コントロールパネルが表示されます。

3. ［プログラムの追加と削除］アイコンをクリックする

4. 「Caplio Software」を選択し、［変更と削除］をクリックする

5. 削除を確認するメッセージが表示されるので、[OK] をクリックする

6. 削除が開始され、完了するとメッセージが表示されるので［完了］ボタンをクリックする

場合によっては、この画面に再起動を促すメッセージが表示されます。そのときには再起動を選択してから［完了］をクリックし、再起動してください。

7. [OK] ボタンをクリックして［プログラムの追加と削除］ダイアログボックスを閉じ、[×]（閉じる）ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じる

アンインストール後は、一度パソコンを再起動してください。

その他のソフトのインストール

付属の CD-ROM から Caplio Software 以外に、次のソフトがインストールできます。

- Acrobat Reader
- DirectX
- Ridoc Desk 2000 Lt
- Caplio Transfer Software

インストールは、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態では行わないでください。

Acrobat Readerをインストールする

Acrobat Readerは、使用説明書（PDFファイル）表示をするためのソフトウェアです。

Windows をご使用の場合には、Acrobat Reader をインストールすることができます。

なお、すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

Windows XP、Windows 2000 の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

1. パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio CD-ROMをセットする

パソコンの画面に、自動的に次の画面が表示されます。

2. [CDの中身を見る] をクリックする

CD-ROM 内のファイル一覧が表示されます。

3. [Acrobat] フォルダをダブルクリックする

4. [Japanese] フォルダをダブルクリックする

5. [ar505jpn] (ar505jpn.exe) をダブルクリックする

6. 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Acrobat Readerをインストールする

DirectXをインストールする

DirectX は、動画ファイルを再生するためのソフトです。

DirectX のバージョンが 7.1 より古いと動画再生ができませんので、新しいものをインストールしてください。

なお、Windows XPには、新しいものがインストールされていますので、改めてインストールする必要はありません。

Windows 2000の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

1. パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio CD-ROMをセットする

2. [CD の中身を見る] をクリックする

3. [DirectX] フォルダをダブルクリックする

4. 以下のファイルをダブルクリックする

Windows98/98SE/Me の場合	[Win98Me] フォルダ内の [DX81xxx.exe]
Windows2000 の場合	[Win2000] フォルダ内の [DX81NTxxx.exe]

Ridoc Desk 2000 Lt

ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。デジタルカメラで撮影した静止画だけでなく、スキャナから読み取った文書やアプリケーションで作成した文書、イメージファイルなど、さまざまな文書を管理することができます。異なるファイル形式のものを1つの文書にまとめて保管することも可能です。

Ridoc Desk 2000 Lt and Caplio Transfer Software are provided only as Japanese version. Other language is not supported.

参照

Ridoc Desk 2000 Lt の使用方法については、Ridoc Desk 2000 Lt と同時にインストールされる『はじめてガイド』(PDF ファイル)を参照してください。

Windows XP、Windows 2000 の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

1. パソコンを起動し、CD-ROM ドライブに、付属のCaplio CD-ROMをセットする

2. [CDの中身を見る]をクリックする

CD-ROM 内のファイル一覧が表示されます。

3. [Ridoc Desk]フォルダをダブルクリックする

4. [InstRidc](InstRidc.exe)をダブルクリックする

5. Ridoc Desk 2000 Ltのボタンをクリックする

6. 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Ridoc Desk 2000 Ltをインストールする

インストールが完了すると、自動的にWindowsが再起動します。

注意

カメラを接続してRidoc Desk 2000 Ltを開いたままでカメラの電源をオフ/オンした場合は、パソコンを再起動して再度接続してください。

Caplio Transfer Software

画像をRidocに登録したり、カメラメモつき画像をカメラメモの内容によって分類し、パソコンのフォルダに転送、保存したりするためのソフトウェアです。(※カメラメモは本カメラでは使用できません。)

参照

Caplio　Transfer Softwareの使用方法については使用方法については、CD-ROM 内の Readme ファイル(Readme.txt)を参照してください。

Windows XP、Windows 2000 の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

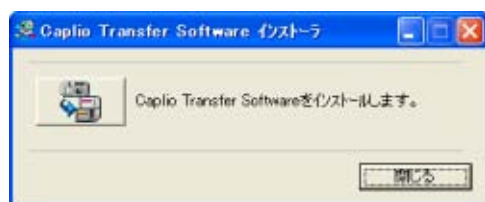
1. パソコンを起動し、CD-ROM ドライブに、付属のCaplio CD-ROMをセットする

2. [CD の中身を見る]をクリックする

CD-ROM 内のファイル一覧が表示されます。

3. [Caplio Transfer] フォルダをダブルクリックする

4. [InstTrns] (InstTrns.exe) をダブルクリックする

5. Caplio Transfer Softwareのボタンをクリックする

6. 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Caplio Transfer Softwareをインストールする

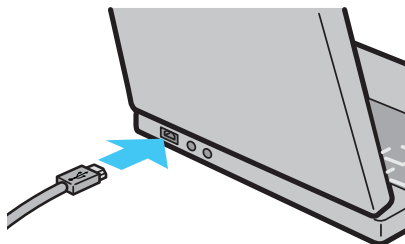
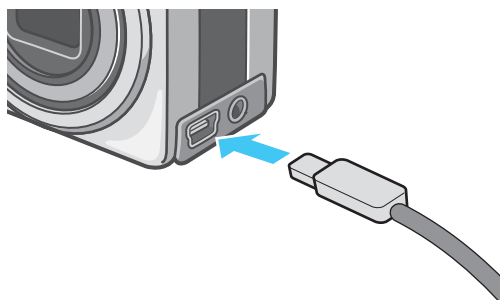
Section 2
画像をパソコンに取り込む

ここでは、静止画や動画などの画像をパソコンに取り込んで表示する方法について説明します。

カメラとパソコンを接続する

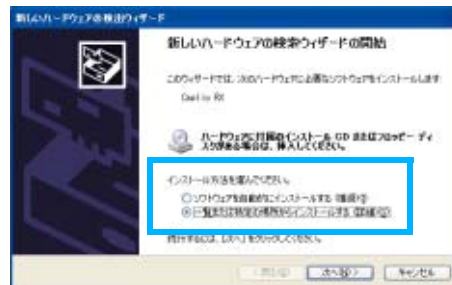
ソフトをパソコンに入れたら、カメラとパソコンを接続します。

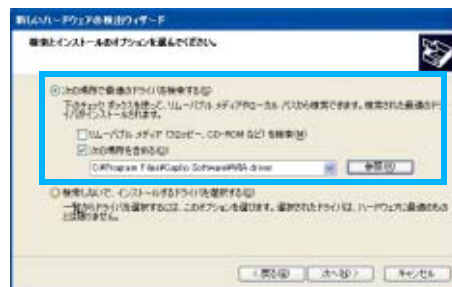
1. カメラの電源がオフになっていることを確認する

2. 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3. USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

カメラの電源がオンになります。

Windows XPの場合

初めてカメラとPCをUSBケーブルで接続すると[新しいハードウェアの検出ウィザード]画面が表示されます。

1. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択する

2. [次へ]を選択する

3. [次の場所で最適のドライバを検索する] - [次の場所を含める]を選択し、[参照]ボタンを押す

4. Caplio　Software をインストールした場所にある[WIA driver]フォルダ(基本はC:¥Program Files¥Caplio Software¥WIA driver)を選択し、[次へ]を選択する

WIA Driverがインストールされます。
[Caplio RX]画面が表示されます。

5. **[RICOH Gate La] を選択し、[この動作には常にこのプログラムを使う] にチェックを入れて、[OK] ボタンをクリックする**

・Windows XP の「スキャナとカメラのウィザード」機能を使ってカメラから画像を取り込みたい場合には、[Microsoft スキャナとカメラのウィザード] を選択してください。

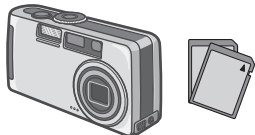
・[この動作には常にこのプログラムを使う] にチェックを付けなければ、取り込みの際に毎回 [Caplio RX] 画面が表示されて取り込みの方法（RICOH Gate La またはスキャナとカメラのウィザード）を選択できます。

メモ

・カメラとパソコンの接続をやめるには

1. カメラの電源ボタンを押して、電源をオフにする
2. USB ケーブルを外す

・カメラから画像を取り込む場合には、電源に AC アダプター（別売り）を使用することをお勧めします。

2

画像をパソコンに取り込む

カメラとパソコンの接続ができたら、画像を一括してパソコンに取り込むことができます。

画像取り込みは、RICOH Gate Laで行います。

メモ

SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーから取り込まれ、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカードから取り込まれます。

本体のみのとき	SD メモリーカードがセットされているとき
内蔵メモリーから取り込む	SD メモリーカードから取り込む

参照

記録時のファイル名を変更するには→P.109

Windows 98/98SE/Me/2000/XPの場合

RICOH Gate Laは［My Documents］フォルダの中に自動的に［Caplio］フォルダを作成します。取り込んだ画像は、撮影日付ごとのフォルダに入れて［Caplio］フォルダ内に保存されます。

1. カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する

カメラの電源がオンになり、RICOH Gate Laが起動して、RICOH Gate Laのウィンドウが表示されます。

自動的に画像の転送が開始されます。

メモ

- ファイル名が重ならないように連番で保存されます。
- カメラ側で付けられたファイル名は利用しません。
- 保存フォルダが変わっても、続けて連番になります。番号の初期化はできません。
- パソコンに転送する際に、パソコンの転送先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きを避けるために新しいファイル名に置き換えられて保存されます。
- Ricoh Gate Laを通じてパソコンに転送した場合は、[CARD連続No.]をONにしていても、ファイル名は「RIMG****.jpg」(****は番号）で保存されます。

取り込みが完了すると、DU-10xが起動し、取り込んだ画像を見ることができます。

もし、以下の画面が表示されたら、［RICOH Gate La］を選択し、［この動作には常にこのプログラムを使う］にチェックを入れて、[OK]ボタンをクリックしてください。

メモ

- RICOH Gate Laを終了する前に、カメラの電源をオフにしたり、USBケーブルを抜いたりすると、RICOH Gate Laのウィンドウは最小化してWindowsのタスクバー上にアイコンとして表示されます。アイコンをクリックすると、再びウィンドウが表示されます。
- もし、[MENU]ボタンをクリックして、[終了]を選択してRICOH Gate Laを終了させた後、再度RICOH Gate Laを起動させたい場合には、次のように操作してください。［スタート］メニューから［プログラム］→［Caplio Software］→［RICOH Gate La］を選択する
- 画像の取り込み先（保存先）フォルダは変更することができます。

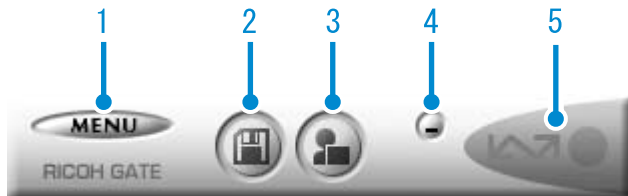
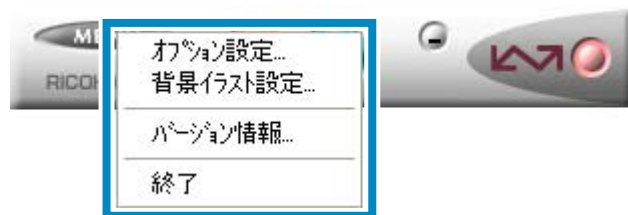
参照

- 保存先フォルダを変更するには→P.130
- RICOH Gate Laの起動について→P.129
- RICOH Gate Laの画面について→P.129

RICOH Gate Laの使いかた

RICOH Gate La のウィンドウでは、接続時自動保存や画像の取り込み先（保存先）など、さまざまな設定ができます。

RICOH Gate Laのウィンドウ

RICOH Gate La が起動すると、パソコンの画面上に次のような RICOH Gate La のウィンドウが表示されます。

1. ［MENUボタン］
   クリックすると次のメニューが表示されます。

［オプション設定］	：	画像の保存先や、保存後およびアプリケーションボタンを押したときに起動するアプリケーションを設定します。（→ P.146）
［背景イラスト設定］		RICOH Gate La のウィンドウの背景デザインを変更します。（→ P.147）
［バージョン情報］		RICOH Gate La のバージョンを表示します。
［終了］		RICOH Gate La を終了します。

2. ［保存ボタン］
   クリックするとカメラから画像を取り込みます。

注意

カメラの液晶モニターに、「接続待ち・・・ダイレクトプリントをおこなう時には ADJ. ボタンを押してください」と表示されている間は、［保存ボタン］を押さないでください。

3. ［アプリケーションボタン］
   オプション設定で登録されたアプリケーションを起動します。DU-10x があらかじめ登録されています。

4. ［最小化ボタン］

   ウィンドウを最小化して Windows のタスクバー上にアイコン表示します。アイコンをクリックすると、ウィンドウが表示されます。

5. ［インジケータ］

   カメラが USB ケーブルで接続されていると、インジケータが点灯します。このときインジケータにマウスポインタを合わせると、「カメラ接続中」と表示されます。接続されていないときには、インジケータはグレー表示され、マウスポインタを合わせても、「カメラ接続中」は表示されません。

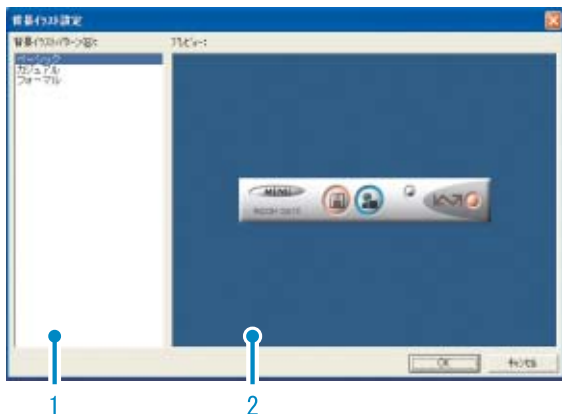
[オプション設定］の使いかた

RICOH Gate Laのウィンドウにあるボタンで表示したメニューから［オプション設定］を選ぶと、［オプション設定］ダイアログボックスが表示されます。

項目		説明	初期値
1.	［接続時自動保存を行う］	チェックマークを付けると、カメラとパソコンがUSBケーブルで接続されている場合、自動的に画像がパソコンに取り込まれ、保存されます。チェックマークを消すと、カメラをUSBケーブルで接続していても画像は自動的には取り込まれません。とりこみたいときには、［保存］ボタンをクリックします。	自動保存を行う
2.	［保存先フォルダ］	画像を保存するフォルダを指定します。あらかじめ［My Documents］フォルダ内の［Caplio］フォルダに設定されているので、変更したいときには、［参照］ボタンをクリックしてダイアログボックスを表示し、指定したいフォルダを選択します。	――――――
3.	［フォルダ作成］	フォルダの作成方法を指定します。 ［作成しない］ 取り込んだ画像を、すべて2.で指定されているフォルダ内に保存します。 ［撮影日毎］ フォルダ名を撮影日にしてフォルダを新規作成し、同じ日に撮影した画像を同じフォルダに保存します。 作成されるフォルダ名は、「撮影日付」になります。 例）2004年5月1日に撮影した場合：[20040501] フォルダ ［保存毎］ 保存毎にフォルダを新規作成して、保存毎に同じフォルダに画像を保存します。1日に複数回保存を行った場合には、そのたびに別のフォルダに保存されます。 作成されるフォルダ名は、「保存日付＋アンダーバー＋3桁の連番」になります。 例）2004年5月1日に2回保存した場合：[20040501_001］フォルダ、[20040501_002］フォルダ	撮影日毎
4.	［保存時、同じ画像は保存しない	[フォルダ作成]で[保存時、同じ画像は保存しない]にチェックが付いていない状態か、フォルダ作成で[作成しない]もしくは[撮影日毎]を選択したときだけ指定できます。 保存しようとしたフォルダに同じファイル名の画像があった場合には、保存しません。この機能を正しく働かせるには、カメラの時計情報を正しく設定する必要があります（→P.17）。	保存時、同じ画像は保存しない
5.	［アプリケーションソフト設定］	保存後にアプリケーションを起動したい場合に、アプリケーション名を指定します。あらかじめDU-10.exe（DU-10xのファイル名です）に設定されているので、変更したいときには、［参照］ボタンをクリックしてダイアログボックスを表示し、指定したいアプリケーションを選択します。	――――――
6.	［保存後、アプリケーションを起動する］	チェックマークを付けると、保存後にアプリケーションを起動します。 チェックマークを消すと、起動しません。	保存後、アプリケーションを起動する
7.	［カメラIPアドレス］ ※この機能は、Caplio Pro G3をご使用の場合のみ有効です。	他のCaplioシリーズカメラをお使いの場合に使用します。詳しくは、そのカメラの使用説明書を参照してください。	0.0.0.0

［背景イラスト設定］の使いかた

3種類のイラストパターンから、RICOH Gate Laのウィンドウの背景イラストを選択できます。

RICOH Gate Laのウィンドウにある[MENU]ボタンで表示したメニューから［背景イラスト設定］を選ぶと、［背景イラスト設定］ダイアログボックスが表示されます。

1. ［背景イラストパターン］
   3種類のイラストパターンから、使いたいパターンを選択します。

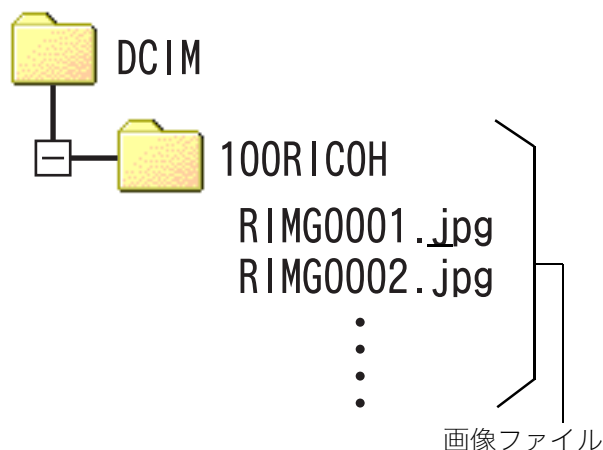
2. ［プレビュー］
   ［背景イラストパターン］で選択したパターンが表示され、確認できます。

SD メモリーカードから画像を取り込む

PC カードスロットやカードリーダーを使って、SDメモリーカードからパソコンへ画像を取り込むことができます。

SD メモリーカードを PC カードスロットやカードリーダーにセットする場合には、PC カードアダプタ FM-SD53（別売り）が使用できます。

SDメモリーカード内の画像

SD メモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。

メモ

カードリーダーが SD メモリーカード対応（そのままセットできる）であれば、PCカードアダプタは必要ありません。

用語説明

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読みとるための機器です。PC カードをセットするタイプの他に、SD メモリーカードがそのままセットできる各種のカードに対応したカードリーダーがあります。

Section3
画像をサムネイル表示する（DU-10xの使いかた）

パソコンに取り込んだ画像は、DU-10xを使って一覧表示したり、回転させて保存しなおすなどの編集ができます。

ここでは、DU-10xの使いかたについて説明します。

メモ

DU-10xは、Windows専用のソフトウェアです。

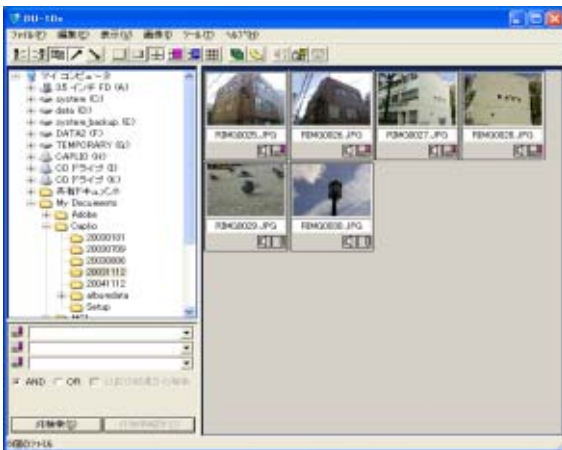
DU-10xの起動と終了

DU-10x を起動するには、次の２種類の方法があります。

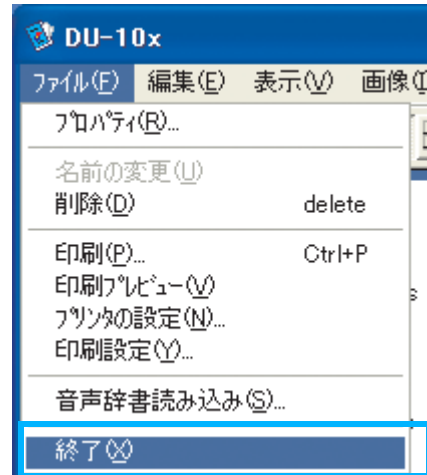
- RICOH Gate La から自動起動する
  RICOH Gate La のオプション設定にて、アプリケーションソフト設定にDU-10xが設定されており、保存後、アプリケーションソフトを起動する］にチェックが入った状態であれば、RICOH Gate La でカメラから画像ファイルを取り込んだ後に、DU-10x が自動起動します。

- Windows の［スタート］メニューから起動する
  スタート］メニューから［プログラム］→［Caplio Software］→［DU-10x］を選択すると起動できます。

DU-10xのウィンドウ

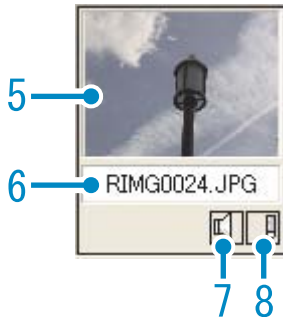
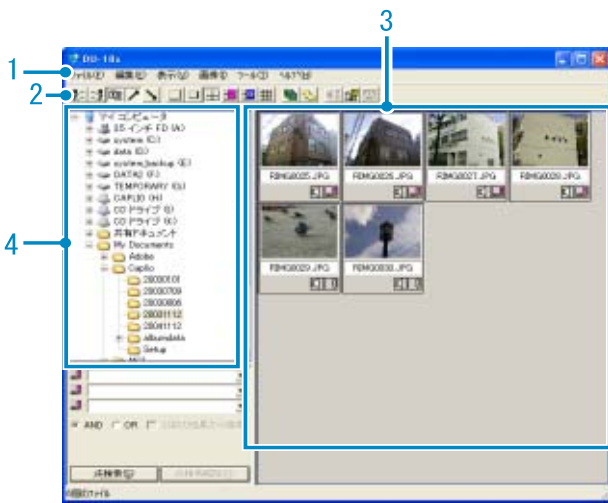
DU-10x が起動すると、次のようなウィンドウが表示されます。

ウィンドウには、開いているフォルダに保存された画像が一覧表示されます。このような画像を縮小して一覧表示する方法を、サムネイル表示と呼びます。

DU-10xを終了する

DU-10x を終了してウィンドウを消すには、メニューバーで［ファイル］を選択して［ファイル］メニューを表示し、［終了］を選択するか、ウィンドウの右上端にある［×］（閉じる）ボタンをクリックします。

メモ

自動的に起動しないように設定するには→P.129

サムネイル表示の見かた

DU-10x を起動すると、画像がサムネイル表示されます。

1. メニューバー
   画像の並べ替えや表示サイズの変更などができます。

2. ツールバー
   メニューで行える機能の中から使用頻度の高いものがアイコンで表示され、クリックだけで簡単に機能を使うことができます。

   a. 整列

   b. 表示サイズ

   c. オートスライドショー

   d. フォルダ以下全ての表示

   選択フォルダ以下のサブフォルダにある画像もすべてサムネイル表示することができます。

   e. 音声メモ一括変換

   他の Caplio シリーズカメラをお使いの場合に使用します。通常は、無効になっています。

   f. リストエディタ起動

   他の Caplio シリーズカメラをお使いの場合に使用します。通常は、無効になっています。

   g. プロアトラスで地図を表示

   他の Caplio シリーズカメラをお使いの場合に使用します。通常は、無効になっています。

3. サムネイル表示領域
   画像を縮小したものが一覧で表示されます。

4. フォルダ表示領域
   [マイ コンピュータ] 内のフォルダが階層で表示されます。ここで選択したフォルダ内の画像がサムネイル表示領域に表示されます。

5. 画像のサムネイル

6. ファイル名

7. 音声設定有無表示
   音声付きの画像は、スピーカーのマークが黄色で表示されます。
   スピーカーのマークをダブルクリックすると、音声を再生することができます。

8. メモ設定有無表示
   他の Caplio シリーズカメラをお使いの場合に使用します。通常は、無効になっています。

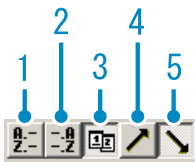
画像を並べ替える

サムネイル表示された画像は、日付順（降順）で並べられています。

この並び順を名前の順、ファイルの種類の順に変更することができます。

また、それぞれを昇順で並べるか降順で並べるかも選択できます。

画像を並べ替えるには、［表示］メニューの［整列］を使うか、ツールバーを使います。

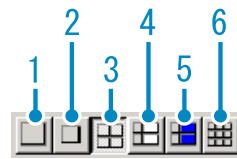
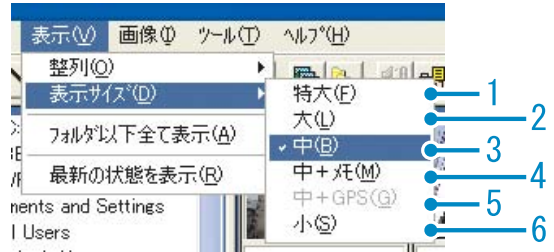
メニュー

ツールバー

1. 名前順
   ファイル名の順に並べ替えます。
2. ファイルの種類順
   ファイルの種類（拡張子のアルファベット順）に並べ替えます。
3. 日付順
   撮影日付順（編集した場合は更新日順）に並べ替えます。
4. 昇順/5.降順
   小さい方から大きい方へ並べるのが昇順で、その逆が降順です。アイウエオ順の場合には、アイウエオが昇順でオエウイアが降順になります。
   1,2,3 で並び順を選択し、昇順か降順を選びます。

メモ

ファイルの種類で並べた場合には、拡張子のアルファベット順で並べ替えられます。

表示サイズを変更する

表示サイズを変更するには、［表示］メニューの［表示サイズ］を使うか、ツールバーを使います。

画像の表示サイズは５種類あり、変更することができます。

1. 特大

2. 大

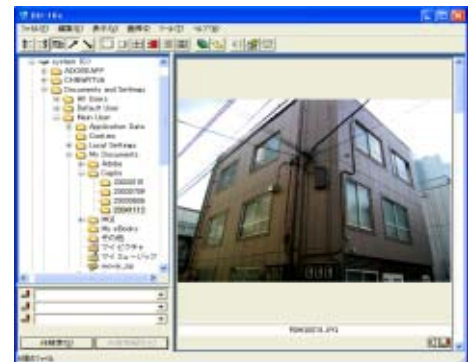
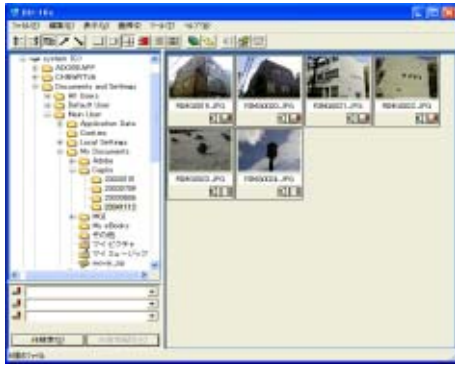
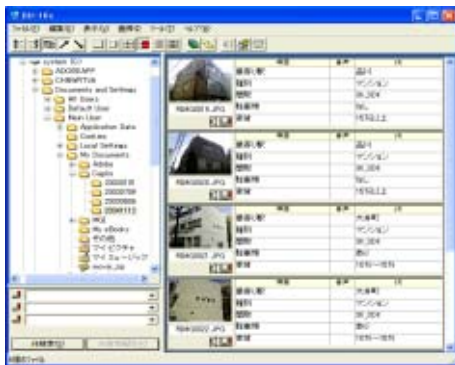
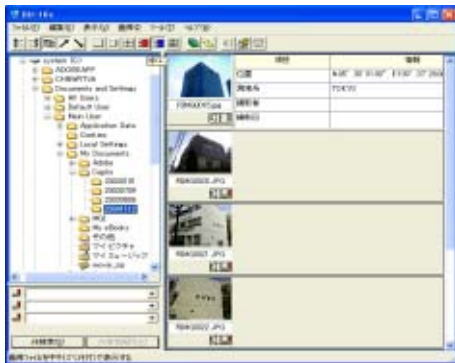
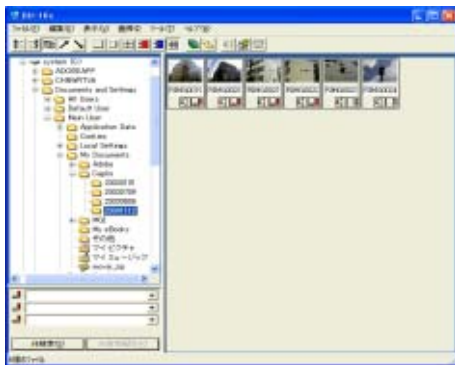
3. 中

4. 中＋
メモ

5. 中＋
GPS

6.小

メモ

「中＋メモ」、「中＋ GPS」の表示サイズは、他の Caplio シリーズカメラをお使いの場合に使用します。通常は、無効になっています。

スライドショーで見る

画像を自動的に次々に表示することができます。表示の方法には、スライドショー（選択した画像のみ表示）とオートスライドショー（すべての画像を表示）があります。

スライドショーで見るには

スライドショーでは、画像を選択して、その画像のみ次々に表示することができます。

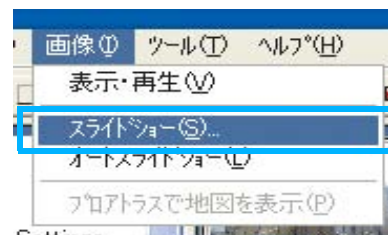
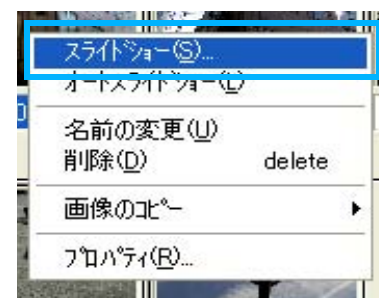
スライドショーを開始するには、次のように操作します。

1. スライドショーで見たい画像を選択する

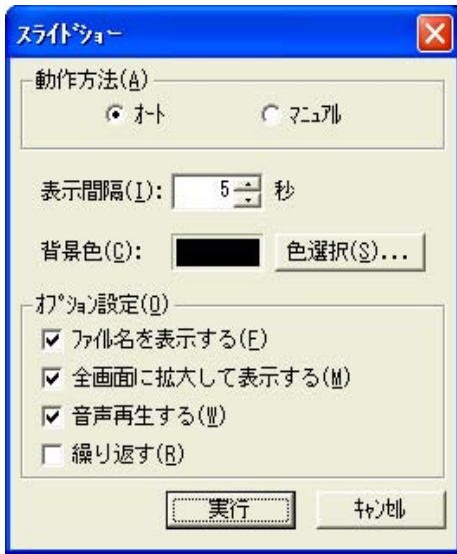
連続する複数画像を選択するときには、先頭の画像をクリックした後、[Shift] キーを押しながら最後の画像をクリックします。

離れた位置にある複数画像を選択するには、[Ctrl] キーを押しながらクリックします。

2. 次のいずれかの方法で［スライドショー］を選択する

- メニューバーで［画像］→［スライドショー］を選択する
- 選択したいずれかの画像上で、マウスの右ボタンをクリックしてショートカットメニューから［スライドショー］を選択する

メニュー

右クリックで表示したショートカットメニュー

3

3. ［スライドショー］ダイアログボックスが表示されるので、必要な設定を行う

4. ［実行］ボタンをクリックする

スライドショーが開始されます。

■スライドショーでの操作

スライドショーの種類	使用できるキー	働き
3.で［オート］を選択	［Esc］キー	スライドショーを中止します。
3.で［マニュアル］を選択	［Esc］キー	スライドショーを中止します。
	マウスの左ボタン ［スペース］キー ［Enter］キー ［→］キー	次の画像を表示します。
	［Backpace］キー ［←］キー	前の画像に戻ります。

オートスライドショーで見るには

オートスライドショーでは、サムネイル表示されているすべての画像が順番に表示されます。

オートスライドショーを開始するには、次のように操作します。

1. 次のいずれかの方法で［オートスライドショー］を選択する

・メニューバーで［画像］→［オートスライドショー］を選択する

・ツールバーのボタンをクリックする

・サムネイル表示されたいずれかの画像上で、マウスの右ボタンをクリックしてショートカットメニューから［オートスライドショー］を選択する

スライドショーが開始されます。

画像は［スライドショー］ダイアログボックスで設定されている表示間隔（秒数）で、自動的に切り替わります。

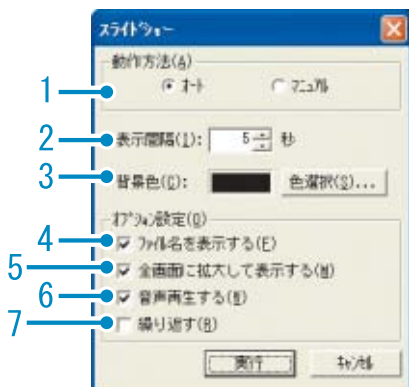
［Esc］キーで中止します。

メモ

・オートスライドショーの際に自動で画面を切り替えるには、［スライドショー］ダイアログボックスの［動作方法］で［オート］を選択しておきます。

・［動作方法］に［マニュアル］を選択した場合には、［Enter］キーを押すか画面上をクリックしてオートスライドショーの画面を切り替えます。

[スライドショー] ダイアログボックスの使いかた

[スライドショー] ダイアログボックスでは、スライドショーの表示設定ができます。

1. [動作方法]
   オートスライドショー(自動的に画面が切り替わる)かマニュアルスライドショー([Enter] キーを押すか、クリックで切り替える)かを選択します。
2. [表示間隔]
   オートスライドショーのときの画像の表示時間を秒数で指定します。
3. [背景色]
   画像の背景の色を選択できます。[色選択] ボタンをクリックして、表示されたダイアログボックスで色を選びます。
4. [ファイル名を表示する]
   チェックマークを付けると、画像の下にファイル名を表示します。
5. [全画面に拡大して表示する]
   チェックマークを付けると、画像を画面いっぱいに表示します。
6. [音声再生する]
   チェックマークを付けると、音声の付いている画像の場合、音声も再生します。
7. [繰り返す]
   チェックマークを付けると、[Esc] キーを押して中止しない限り、画像を繰り返し表示し続けます。チェックマークを消すと、フォルダ内の画像をひととおり表示した後、スライドショーを終了します。

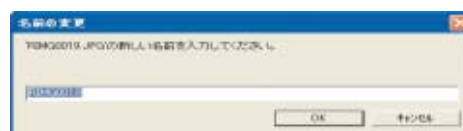
画像のファイル名を変更する

サムネイル表示された画像のファイル名を変更することができます。

ファイル名を変更するには

サムネイル表示された画像のファイル名を変更するには、次のように操作します。

1. ファイル名を変更したい画像を選択する
2. 選択した画像上で、マウスの右ボタンをクリックして、ショートカットメニューから [名前の変更] を選択する

3. [名前の変更] ダイアログボックスが表示されるので、新しい名前を入力する

4. [OK] ボタンをクリックする

画像サイズを縮小してコピーする

サムネイル表示された画像のサイズを縮小して、クリップボードにコピーすることができます。

縮小サイズは、等倍、1/2、1/3、1/4、1/8の中から選択できます。

画像をコピーして、他のWindowsアプリケーションで貼り付けたときに、画像サイズが大きすぎるという場合には、この機能で画像サイズを縮小してクリップボードにコピーし、貼り付けを行うと便利です。

画像を縮小してコピーするには

画像サイズを縮小してコピーするには、次のように操作します。

1. 縮小してコピーしたい画像を選択する
2. 選択した画像上で、マウスの右ボタンをクリックして、ショートカットメニューから［コピー］を選択する

3. 縮小率のメニューが表示されるので、使用したい縮小率を選択する
4. 他のWindowsアプリケーションにクリップボードの画像を貼りつける

   たとえば、Windowsのアクセサリにある「ペイント」を使用する場合は、「ペイント」の画像で[編集]メニューから[貼り付け]を選択します。

他の Caplio シリーズカメラの機能を有効にする

他の Caplio シリーズカメラをお使いの場合に使用できるGPS連携機能、カメラメモ機能の有効/無効を設定できます。

他の Caplio シリーズカメラで GPS 情報を付加した画像を DU-10x で扱う場合に、ご利用ください。

GPS 連携/カメラメモ機能を有効にするには

GPS 連携機能、カメラメモ機能を有効にするには、次のように操作します。

1. ［ツール］メニューの［オプション］を選ぶ

   ［オプション］ダイアログボックスが表示されます。
2. 有効にする機能にチェックマークを付ける
3. ［OK］ボタンをクリックする

カメラと各機能の対応について

各カメラと、GPS 連携/カメラメモ機能の対応は、次のようになります。

お使いのカメラ	GPS 連携機能	カメラメモ機能
Caplio RR30	×	×
Caplio 300G	×	×
Caplio G3/G3 Model M	×	×
Caplio G3 Model S	×	○
Caplio Pro G3	○	○
Caplio G4	×	×
Caplio G4wide	×	×
Caplio 400G wide	×	○
Caplio RX	×	×

○：対応機能があります。
×：機能がありません。

使用できるようになる機能

[GPS 連携機能を有効にする］にチェックマークを付けた場合に、使用できるようになる機能は、次のようになります。

・ツールバーの［］ボタン：[表示］メニューの［中＋GPS］を示します。

・ツールバーの［］ボタン：[表示］メニューの［プロアトラスで地図を表示］を示します。

メモ

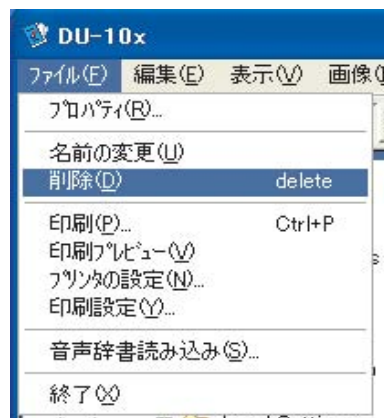
DU-10xで使用できるようになる各機能については、お使いのカメラに付属している使用説明書を参照してください。

画像を削除するには

画像を削除することができます。

画像を削除するには、次の３種類かの方法があります。

［ファイル］メニューを使う

1. サムネイル表示領域で削除したい画像をクリックする
2. [ファイル]メニューの[削除]を選ぶ

ショートカットメニューを使う

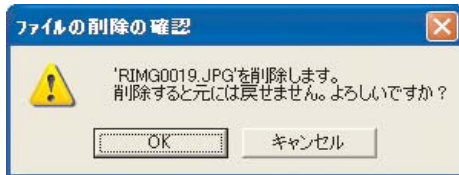
1. サムネイル表示領域の削除したい画像上で、マウスの右ボタンをクリックする

ショートカットメニューが表示されます。

2. ショートカットメニューから［削除］を選ぶ

キーボードを使う

1. サムネイル表示領域で削除したい画像をクリックする
2. パソコンのキーボードで［DELETE］キーを押す

   削除確認のメッセージが表示されます。
3. ［OK］ボタンをクリックする

画像の情報を見る

撮影日時や画像サイズなどの画像情報を表示することができます。

情報のダイアログボックス

画像情報を表示するには、次のいずれかの操作をします。

［ファイル］メニューを使う

1. サムネイル表示領域で情報を見たい画像をクリックする
2. ［ファイル］メニューの［プロパティ］を選ぶ

ショートカットメニューを使う

1. サムネイル表示領域の画像上で、マウスの右ボタンをクリックする

   ショートカットメニューが表示されます。
2. ショートカットメニューから［プロパティ］を選ぶ

ビューワー画面に表示する

ビューワー画面を使うと、画像をサムネイル表示でなく、大きく表示することができます。

ビューワー画面にするには、次のいずれかの操作をします。

- サムネイル表示で表示したい画像をダブルクリックする
- サムネイル表示領域で表示したい画像をクリックし、[画像] メニューの [表示・再生] を選ぶ

ビューワー画面の使いかた

ビューワー画面

1. メニューバー
2. ツールバー

上書き保存

画像を上書き保存します。なお、TIFFファイルの上書き保存はできません。

[左90度回転]

[右90度回転]

画像を左右に90度回転させることができます。撮影した画像の縦横を正しい向きになおすことができます。

[拡大表示]

[実寸表示]

[縮小表示]

[全体表示]

表示サイズを拡大/縮小できます。[拡大表示] を繰り返すことで、元サイズの16倍まで拡大できます。[縮小表示] を繰り返すことで、元サイズの1/16まで縮小できます。

メモ

ファイル名で保存するには

画像の複製を作ったり、回転で向きを変えた画像を別のファイルにしたいときには、新たに別のファイル名を付けて保存しておきます。

保存できるファイル形式は、TIFFのみです。

新しいファイル名で保存するには、次のように操作します。

1. ［ファイル］メニューの［名前を付けて保存］を選ぶ
   ［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

2. ［保存する場所］で新しいファイルの保存先を指定する
3. ［ファイル名］に新しいファイルの名前を入力する
4. ［保存］をクリックする

用語説明

TIFFファイル

「ティフ」ファイルと読みます。画像データをファイルとして保存するときのファイル形式の1つです。本機では、画像（静止画）をファイルサイズの小さいJPEG（ジェイペグ）ファイルとして保存します。TIFFファイルは、JPEGファイルよりファイルのサイズが大きくなりますが、何度も加工して保存しなおす場合に劣化を防ぐことができます。

画像を印刷する

サムネイル表示されている画像を印刷することができます。

10 種類の印刷タイプ（印刷のレイアウト）が選択できます。

印刷設定を行う

画像を印刷するには、まず印刷設定を行います。

3

1. [ファイル］メニューから［印刷設定］を選択する

[印刷設定]ダイアログボックスが表示されます。

2. [印刷タイプ］で印刷のレイアウトを選択する

3. 必要に応じて、他の設定を行う

設定内容については、次の「[印刷設定]ダイアログボックスの使いかた」を参照してください。

4. [OK］ボタンをクリックする

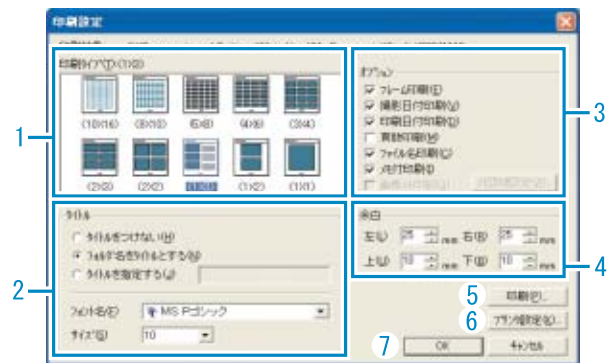
5. 設定が完了します。

メモ

・手順4で［印刷］ボタンをクリックすると、[印刷］ダイアログボックスが表示され、印刷を開始することができます。

・1 枚の画像を大きく印刷するには [印刷設定] の印刷タイプで1×1を選択してください。

・GPS情報は印刷されません。

[印刷設定] ダイアログボックスの使いかた

1. [印刷タイプ]
サムネイルを印刷するときのレイアウトを選択できます。

2. [タイトル]
用紙の一番上にタイトルを印刷できます。タイトルには、フォルダ名を使ったり、任意の文字列を指定することができます。

3. [オプション]
チェックマークを付けると、フレームを付けたり、撮影日付、印刷日付、ページ数、ファイル名などを一緒に印刷することができます。

4. [余白]
用紙の余白の幅を指定できます。

5. [印刷]
[印刷］ダイアログボックスを表示し、印刷ができます。

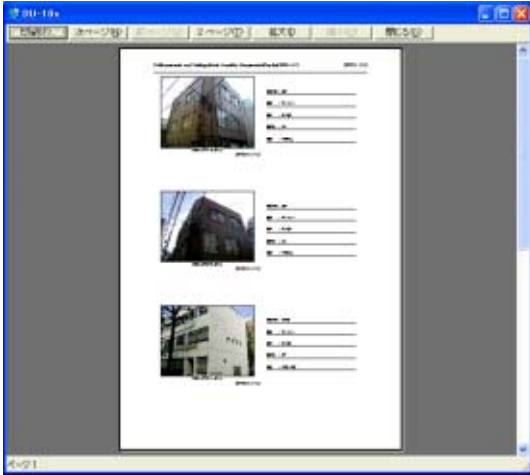
6. [プリンタ設定]
プリンタの設定ができます。

7. [OK]
印刷を行わずに印刷設定だけを行うことができます。

印刷時のレイアウトを確認する

印刷する前に、印刷時のレイアウト（印刷プレビュー）を確認することができます。

1. ［ファイル］メニューから［印刷プレビュー］を選択する

印刷プレビュー画面が表示されます。

画面上部のボタンは、次のような働きがあります。

［印刷］	：	［印刷］ダイアログボックスを表示し、印刷ができます。
［次ページ］	：	次のページを表示します。
［前ページ］	：	前のページを表示します。
［2 ページ］	：	画面に 2 ページずつ表示します。
［拡大］	：	拡大表示します。
［縮小］	：	縮小表示します。
［閉じる］	：	印刷プレビュー画面を閉じます。

プリンタの設定を行う

［ファイル］メニューの［プリンタの設定］を選択すると、プリンタの選択や用紙サイズ、給紙方法など、プリンタに関する設定ができます。

印刷を行う

印刷を行うには、次のように操作します。

1. 印刷したい画像をクリックして選択する

連続している画像を複数選択するときには、先頭の画像をクリックして、［Shift］キーを押しながら最後の画像をクリックします。

離れた位置にある画像を複数選択するときには、［Ctrl］キーを押しながら、画像を順にクリックします。

表示されているサムネイル画像をすべて印刷する場合には、ここでは何もしないで手順へ進みます。

2. ［ファイル］メニューから［印刷］を選択する

［印刷］ダイアログボックスが表示されます。

3. プリンタ名を確認し、必要に応じて［プロパティ］ボタンをクリックしてプリンタの設定を行う

4. 次のいずれかの操作を行う

- 選択した画像を印刷するときには、［印刷範囲］で［選択した部分］を選択し、［部数］を指定して、［OK］ボタンをクリックする
- すべての画像を印刷するときには、［部数］を指定して、［OK］ボタンをクリックする

Chapter 3
パソコンで画像（静止画/動画）を楽しむ（Macintosh編）

Section 1
ソフトをインストールする

ここでは、パソコンにソフトをインストールする方法について説明します。

メモ

- これ以降の説明文中では、静止画と動画と音声をまとめて「ファイル」と呼んでいます。
- カメラから画像を取り込む場合には、確実に電源を供給できるACアダプター（別売り）を使用することをお勧めします。ここではACアダプターの使用を前提に説明しています。

付属のソフトでできること

カメラに付属しているCaplio CD-ROMには、パソコンへカメラの画像を取り込み、パソコンで表示するために、次のソフトウェアが入っています。

RICOH Gate La for Macintosh	画像を取り込むためのソフトウェア（Macintosh用）
USBドライバー	カメラとパソコンを接続するためのソフトウェア
マウンター	画像を取り込むためのソフトウェア

OSと使用ソフトの対応表

ご使用のOSによって、下記の表のように使用できるソフトが異なります。

	Mac OS 8.6～9.2.2	Mac OS X 10.1.2～10.3
RICOH Gate La for Macintosh	○	×
USBドライバー	○	○
マウンター	○	○

メモ

- Mac OS X 10.1.2～10.3をご使用の場合には、Apple社製「iPhoto（アイフォト）」で画像の表示ができます。
- Mac OS X 10.1.2～10.1.5をご使用の方は、Caplioボリュームアイコンをドラッグして、iPhotoウィンドウにドロップしてください。「読み込み」ボタンでの直接取り込みはできません。
- Mac OS X 10.2～10.3をご使用の方は、iPhotoの「読み込み」ボタンで写真を直接転送することができます。
- 動画ファイルはiPhotoで表示することができません。「QuickTime」を使用してください。

付属ソフトを使うために必要な環境

付属ソフトを使うためには、次の環境が必要です。
ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

基本ソフトウェア	Mac OS 8.6 〜 9.2.2 / Mac OS X 10.1.2 〜 10.3	
Macintosh 本体	本体 USB ポートを標準装備している Apple 社製 Macintosh シリーズ	
内蔵メモリ	Mac OS 8.6 〜 9.2.2	96MB 以上 (推奨 128MB 以上)
	Mac OS X 10.1.2 〜 10.3	128MB 以上 (推奨 256MB 以上)
アプリケーション割り当てメモリ (Mac OS 8.6 〜 9.2.2 の場合)	圧縮ユーティリティーを使用せずに、アプリケーションメモリとして 16MB 以上（推奨 24MB 以上）	
ハードディスクの空き容量	Mac OS 8.6 〜 9.2.2	10MB 以上 (インストール時)
	Mac OS X 10.1.2 〜 10.3	100MB 以上 (インストール時)
	100MB 以上（動作時）	
ディスプレイの解像度	640 × 480 ドット以上（推奨 800 × 600 ドット以上）	
ディスプレイの表示色	256 色以上（推奨 32000 色以上）	
CD-ROM ドライブ	上記 Macintosh 本体で使用可能な CD-ROM ドライブ	
USB ポート	上記 Macintosh 本体で使用可能な USB ポート	

注意

・OSのシステム環境の変化などにより、正しく動作しないことがあります。
・拡張機能(PCI バスなど)を利用して後付されたUSB ポートへの接続はサポートできません。
・HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。

メモ

・動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用する事をお薦めします。
・Mac OS 8.6〜9.2.2 の場合、より大きなメモリー環境で利用するとともに、より多くのアプリケーションメモリを割り当ててください。
・ディスプレイの表示色は、256色以上表示できれば動作しますが、できるだけ32000色以上でお使いいただくことをお勧めします。

参照

SDカードを使ってパソコンに画像を取り込むときには→P.131

画像をパソコンに取り込むまでの操作の流れ

付属の Caplio CD-ROM に入っているソフトを使って、画像をパソコンに取り込むまでの流れを説明します。

Mac OS 8.6 ～ 9.2.2

Mac OS X 10.1.2 ～ 10.3

パソコンのCD-ROMドライブに、付属の CD-ROM をセットすると左の画面またはアイコンが表示されます。

1	ソフトをインストールする	Mac OS 8.6～9.2.2　→P.151 Mac OS X 10.1.2～10.2.6　→P.152
2	カメラとパソコンを接続する	→P.156
3	画像をパソコンに取り込む	→P.156

参照

- ソフトを削除したいときには→P.153
- SDメモリーカードから直接パソコンに画像を取り込むときには→P.131

インストール

Mac OS 8.6～9.2.2をご使用の場合

1. Macintoshの電源を入れる

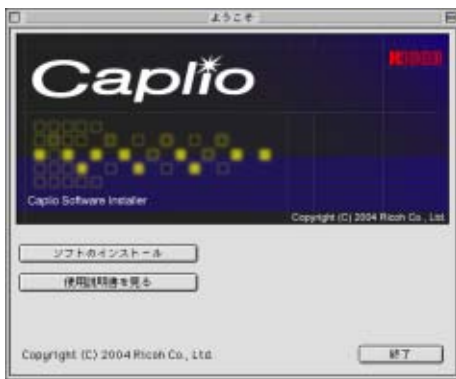
2. CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする

   CD-ROMアイコンがデスクトップに表示されます。

3. CD-ROMアイコンをダブルクリックし、[MacOS9] フォルダを開く

   [Caplio Installer] のアイコンが表示されます。

4. インストーラ（[Caplio Installer]）アイコンをダブルクリックする

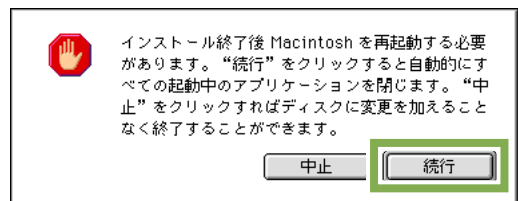
   インストーラが起動し、スタート画面が表示されます。

5. [ソフトのインストール] をクリックする

6. [OK] ボタンをクリックする

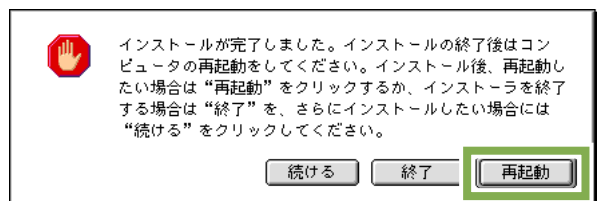
   インストール画面が表示されます。

7. [インストール] をクリックする

8. [続行] をクリックする

   インストールが行われ、インストール完了のメッセージが表示されます。

9. [再起動] ボタンをクリックする

   Macintoshが再起動します。

1

Mac OS X 10.1.2 ～ 10.3をご使用の場合

1. Macintoshの電源を入れる
2. CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする
3. CD-ROMアイコンをダブルクリックし、Mac OS Xフォルダを開く

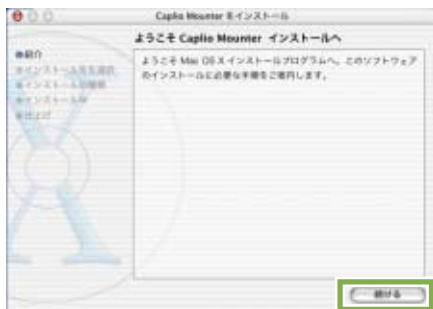
   [Caplio Mounter.pkg] のアイコンが表示されます。
4. マウンターアイコン（Caplio Mounter.pkg）をダブルクリックする

   インストーラが起動し、管理者パスワードを要求する画面が表示されます。
5. カギのアイコンをクリックする

   認証ウィンドウが表示されます。

6. 管理者の名前とパスワードを入力し、[OK] をクリックする

7. [続ける] をクリックする

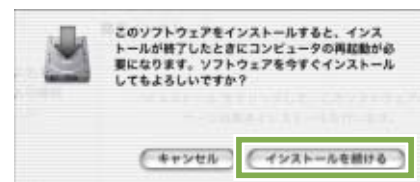
   ReadMeファイルが表示されます。

8. [続ける]をクリックする

   インストール先を選択する画面が表示されます。
9. インストールするボリュームをクリックし、[続ける] をクリックする

10. [インストール] をクリックする

    インストール終了後、Macintoshを再起動する必要があることを確認するメッセージが表示されます。

11. [インストールを続ける] をクリックする

    インストールが行われ、しばらくするとインストール完了のメッセージが表示されます。

12. [再起動] をクリックする

    Macintoshが再起動します。

ソフトを削除するには（Mac OS 8.6～9.2.2の場合）

インストールしたソフトをMacintoshから削除（アンインストール）する場合は、インストールしたファイルをゴミ箱にドラッグアンドドロップしてください。
インストールされているファイル名とインストール先フォルダは、次のとおりです。

ファイル名	インストール先フォルダ
RICOH Gate La	システムフォルダ：コントロールパネル
RICOH Gate La Prefs	システムフォルダ：初期設定
Caplio Mounter	システムフォルダ：機能拡張
Caplio Mounter Prefs	システムフォルダ：初期設定
Caplio USB Driver	システムフォルダ：機能拡張

ソフトを削除するには（Mac OS X 10.1.2 ～ 10.3の場合）

インストールしたソフトをMacintoshから削除（アンインストール）する場合は、次の手順に従ってください。

1. [Application]フォルダにある[Caplio Mounter]を起動する
2. [ファイル]メニューから[アンインストール]を選択する

   アンインストールが始まります。

または、ファイルを直接ゴミ箱にドラッグアンドドロップすることもできます。
インストールされているファイル名とインストール先フォルダは、次のとおりです。

ファイル名	インストール先フォルダ
Caplio Mounter	/Application
Caplio Mounter Prefs	ホームディレクトリの Library/Preferences
CaplioStartup*	/System/Library/Startupitems/CaplioStartup

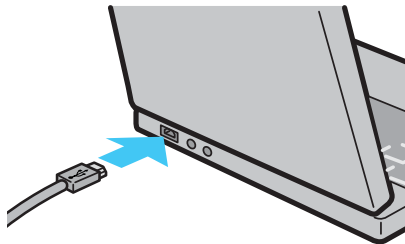
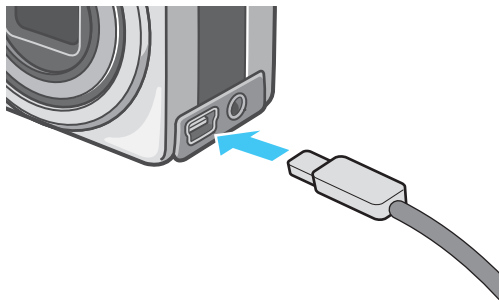
*Terminal プログラムを使用して 'sudo rm -rf /System/Library/Startupitems/CaplioStartup' を入力して削除します。

Section 2
画像をパソコンに取り込む

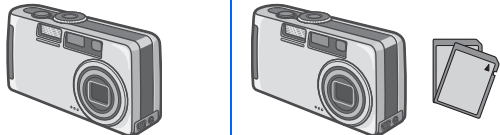
カメラとパソコンを接続する

ソフトをパソコンに入れたら、カメラとパソコンを接続します。

1. カメラの電源がオフになっていることを確認する

2. 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3. カメラの端子カバー開けて、USBケーブルをUSB端子に接続する

カメラの電源がオンになります。

メモ

- カメラとパソコンの接続をやめるには
  1. カメラの電源ボタンを押して、電源をオフにする
  2. USBケーブルを外す
- カメラから画像を取り込む場合には、電源にACアダプター（別売り）を使用することをお勧めします。

画像をパソコンに取り込む

カメラとパソコンの接続ができたら、画像をパソコンに取り込むことができます。

メモ

取り込み時には、次の記録先からパソコンに取り込まれます。

本体のみのとき	SD メモリーカードがセットされているとき
内臓メモリーから取り込む	SD メモリーカードから取り込む

参照

記録時のファイル名を変更するには→P.109

ご使用になっているパソコン環境によって、取り込み方法が下記の表のように異なります。参照ページの手順にしたがって取り込みを行ってください。

Mac OS 8.6 〜 9.2.2 の場合	RICOH Gate La を使用して取り込みます。	→ P.157
Mac OS X 10.1.2 〜 10.3 の場合	マウンターを使って取り込みます。	→ P.158

Mac OS 8.6～9.2.2の場合

Mac OS 8.6, Mac OS 9.1未満 の場合は、起動ディスク[Macintosh HD]のルートディレクトリに[Caplio]フォルダを作成します。

Mac OS 9.1 ～ 9.2.2 の場合は、起動ディスク[Macintosh HD]内の[書類]フォルダの中に自動的に[Caplio]フォルダを作成します。

1. **カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する**

カメラの電源がオンになり、RICOH Gate La が起動して、RICOH Gate La のウィンドウが表示されます。

自動的に画像の転送が開始されます。

2. **[ファイル] メニューを表示し、[終了] を選択する**

RICOH Gate Laが終了します。

■マウンターを使う場合

マウンターを使って画像を転送することもできます。

1. **カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する**

カメラの電源がオンになります。

SDメモリーカードがない場合は[Caplio]アイコンが表示され、カメラの内蔵メモリーに記録されている画像ファイルをご覧いただくことができます。

SDメモリーカードがある場合は[Caplio.SD]アイコンが表示され、カメラにセットされたSDメモリーカードに記録されている画像ファイルをご覧いただくことができます。

2. **表示されたアイコンをダブルクリックする**

通常のドライブと同じように扱うことができます。アイコンをダブルクリックすると、[DCIM] というフォルダが表示され、そのフォルダ内に [100RICOH] というフォルダが表示されます。[100RICOH] フォルダの中にカメラで撮影した画像ファイルがあります。

ファイルをドラッグアンドドロップし、ハードディスクにコピーしてご使用ください。

注意

マウンターを使う場合、SDメモリーカードへの書き込みはできません。

メモ

・カメラを接続しない状態で RICOH Gate La を起動したい場合には、システムフォルダ：コントロールパネルフォルダ内の[RICOH Gate La]アイコンをダブルクリックします。

・RICOH Gate Laで取り込んだ画像は、撮影日付ごとのフォルダに入れて[Caplio]フォルダ内に保存されます。マウンターでは任意の場所に取り込むことができます。

参照

保存先フォルダを変更するには→P.160

Mac OS X 10.1.2～10.3の場合

1. カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する

カメラの電源がオンになります。

SDメモリーカードがない場合は[Caplio]アイコンが表示され、カメラの内蔵メモリーに記録されている画像ファイルをご覧いただくことができます。

SDメモリーカードがある場合は[Caplio.SD]アイコンが表示され、カメラにセットされたSDメモリーカードに記録されている画像ファイルをご覧いただくことができます。

2. 表示されたアイコンをダブルクリックする

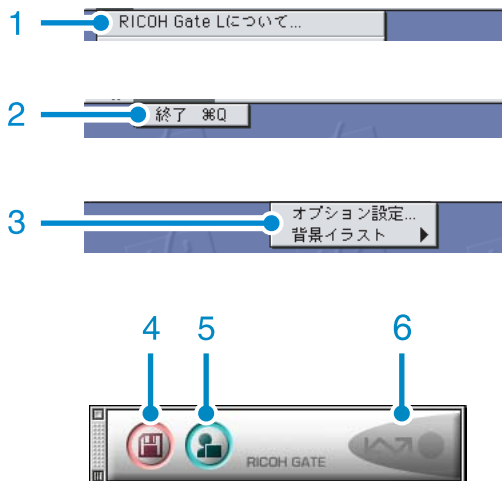
通常のドライブと同じように扱うことができます。アイコンをダブルクリックすると、[DCIM] というフォルダが表示され、そのフォルダ内に [100RICOH] というフォルダが表示されます。[100RICOH] フォルダの中にカメラで撮影した画像ファイルがあります。

ファイルをドラッグアンドドロップし、ハードディスクにコピーしてご使用ください。

RICOH Gate Laの使いかた

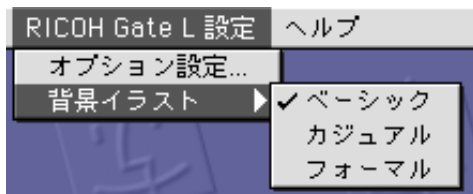
RICOH Gate La のウィンドウでは、接続時自動保存や画像の取り込み先（保存先）など、さまざまな設定ができます。

RICOH Gate Laのウィンドウ

RICOH Gate La が起動すると、画面上にRICOH Gate La のメニューバーと次のようなウィンドウが表示されます。

1. ［RICOH Gate Laについて］
RICOH Gate Laのバージョンを表示します。

2. ［終了］
RICOH Gate Laを終了します。

3. ［オプション設定］
画像の保存先や、保存後およびアプリケーションボタンを押したときに起動するアプリケーションを設定します。（→P.160）

［背景イラスト］
選択するとサブメニューが表示されるので、RICOH Gate Laのウィンドウの背景デザインを変更できます。

サブメニューの図

4. ［保存ボタン］
クリックするとカメラから画像を取り込みます。

5. ［アプリケーションボタン］
オプション設定で登録されたアプリケーションを起動します。

6. ［インジケータ］
カメラがUSBケーブルで接続されていると、インジケータが点灯します。

[オプション設定]の使いかた

[RICOH Gate La 設定]メニューから[オプション設定]を選ぶと、[オプション設定]ダイアログボックスが表示されます。

	項目	説明	初期値
1.	[接続時自動保存を行う]	チェックマークを付けると、カメラとパソコンが接続されたときに自動的に画像がパソコンに取り込まれ、保存されます。 チェックマークを消すと、カメラを接続しても画像は自動的には取り込まれません。取り込みたいときには、[保存]ボタンをクリックします。	自動的にファイルを転送する
2.	[選択]	画像を保存するフォルダを指定します。 Mac OS 8.6, Mac OS 9.1 未満 の場合は、起動ディスク [Macintosh HD] のルートディレクトリの [Caplio] フォルダに、Mac OS 9.1 〜 9.2.2 の場合は、起動ディスク [Macintosh HD] 内の [書類] フォルダの中の [Caplio] フォルダに設定されているので、変更したいときには、[選択] ボタンをクリックしてダイアログボックスを表示し、指定したいフォルダを選択します。	――――
3.	[フォルダ作成]	作成方法を指定します。 [作成しない] 取り込んだ画像を、すべて 2. で指定されているフォルダ内に保存します。 [撮影日] フォルダ名を撮影日にしてフォルダを新規作成し、同じ日に撮影した画像を同じフォルダに保存します。 作成されるフォルダ名は、「撮影日付」になります。 例) 2004 年 5 月 1 日に撮影した場合:[20040501] フォルダ [転送日＋転送回数] 保存毎にフォルダを新規作成し、保存毎に同じフォルダに画像を保存します。 例)2004 年 5 月 1 日に 2 回保存した場合: [20040501_001] フォルダ、[20040501_002] フォルダ	撮影日
4.	[保存時、同じ画像は保存しない	[フォルダ作成]で[転送時に自動的にフォルダを作成する]にチェックが付いていない状態か、フォルダ名に [撮影日] を選択したときだけ指定できます。 保存しようとしたフォルダに同じファイル名の画像があった場合には、保存しません。この機能を正しく働かせるには、カメラの時計情報を正しく設定する必要があります(→ P.17)。	同じ画像は保存しない
5.	[転送後にアプリケーションを起動する]	チェックマークを付けると、保存後にアプリケーションを起動します。 チェックマークを消すと、起動しません。	転送後にアプリケーションを起動しない
6.	[選択]	保存後にアプリケーションを起動したい場合に、アプリケーション名を指定します。[選択]ボタンをクリックしてダイアログボックスを表示し、指定したいアプリケーションを選択します。	――――

付録

A.主な仕様

カメラ本体

■総合

●ビデオ信号方式	：	NTSC 方式、PAL 方式
●電源電圧	：	単三アルカリ乾電池（1.5V）× 2 本 リチャージャブルバッテリー（3.7V）× 1 本 外部（AC アダプター）；3.8V
●外形寸法	：	111.6mm（幅）× 56.0mm（高さ）× 29.0mm（奥行き）（突起部含まず）
●質量	：	約 165g（電池 /SD メモリーカード / ストラップを除く）
●使用温度範囲	：	0 ℃～ 40 ℃
●使用湿度範囲	：	85% 以下
●保存温度範囲	：	-20 ℃～ 60 ℃

■カメラ部

●使用撮像素子	：	総画素数 334 万画素（有効画素数 324 万画素）
●レンズ	：	ズームレンズ　F3.1 ～ 5.8
・焦点距離	：	f:4.3 ～ 15.3mm（35mm 換算 28 ～ 100mm）
・最短撮影距離	：	約 1cm（マクロモード）
・マクロ撮影距離	：	約 1cm ～ ∞
・デジタルズーム	：	3.4 倍
●モニター表示部		
・画面サイズ	：	1.8 型
・種類	：	透過型アモルファスシリコン TFT 液晶
・画素数	：	約 8.5 万画素
●ホワイトバランス	：	AUTO/ 固定（屋外、曇天、白熱灯、蛍光灯、ワンプッシュ）
●露出調整		
・測光感度分布	：	マルチ測光（256 分割）、中央重点測光、スポット測光
・露出補正	：	マニュアル露出補正± 2.0EV（1/3EV ステップ）
・測光方式	：	TTL-CCD 測光方式
・フラッシュ AE	：	あり（日中シンクロ　あり）
・シャッター	：	静止画；8,4,2,1 ～ 1/2000 秒、　動画；1/30 ～ 1/2000 秒
・ISO 感度	：	AUTO、ISO64、ISO100、ISO200、ISO400、ISO800
●距離調節		
・AF 方式	：	通常撮影領域；外部パッシブ・CCD 方式、マクロ領域；CCD 方式
・AF 測距範囲	：	通常撮影領域；約 30cm ～∞、マクロ時；約 1cm ～∞
●内蔵フラッシュ		
・方式	：	フラッシュマティック
・撮影距離	：	約 0.2 ～ 3.0m(W)、約 0.14 ～ 2.5m(T)(ISO:800)
・動作モード	：	発光禁止 / オート / 赤目軽減 / 強制発光 / スローシンクロ

■画像データ録再部

●画素数（ピクセル）　：
- ・静止画　：　2048 × 1536、1280 × 960、640 × 480
- ・文字　：　2048 × 1536、1280 × 960
- ・動画　：　320 × 240、160 × 120

●ファイルフォーマット
- ・静止画　：　圧縮；JPEG（Exif Ver.2.21）
- ・文字　：　TIFF（MMR 方式 ITU-T.6）
- ・動画　：　AVI（Open DML Motion JPEG フォーマット準拠）
- ・音声　：　WAV（Exit Ver.2.21 μ law）

●カメラファイルシステム規格
：　DCF ※ DCF は JEITA で標準化された『Design rule for Camera File System』規格の略称です。

●圧縮方式　：　JPEG ベースライン方式準拠（静止画、動画）

●画像サイズ
- ・2048 × 1536　：　N；約 568KB/ 画面、F；約 1.12MB/ 画面
- ・1280 × 960　：　N；約 307KB/ 画面、F；約 614KB/ 画面
- ・1280 × 960　：　N；約 72KB/ 画面

■入出力端子

●電源入力　：　3.8V（AC アダプター）

●ビデオ出力　：　1.0 Vp-p（75Ω）

■デート保持時間　：　約 2 週間

■記録再生可能なメモリカードの種類

●メモリ種類　：　SD メモリーカード、マルチメディアカード

B.別売り品について

Caplio RX では、下記の別売り品が使用できます。

商品名	型名	備考
AC アダプター	AC-4a	家庭用コンセントから直接電源を供給するときに使用します。
PC カードアダプター	FM-SD53	SD メモリーカードをパソコンの PC カードスロットに直接セットするときに使用します。
リチャージャブルバッテリー	DB-43	本カメラで使用できる充電池です。
バッテリーチャージャー	BJ-2	リチャージャブルバッテリー専用の急速充電器です。
リチャージャブルバッテリーセット	BS-3	リチャージャブルバッテリー（DB-43）とバッテリーチャージャー（BJ-2）のセットです。

C. SDメモリーカードに記録できる枚数一覧

SDメモリーカードの容量別、画質/サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画質	画像サイズ	8MB	32MB	64MB
静止画	F	2048 × 1536	4	19	40
	N	2048 × 1536	8	37	77
	F	1280 × 960	8	37	75
	N	1280 × 960	14	67	138
	N	640 × 480	43	189	387
文字		2048 × 1536	14	67	138
		1280 × 960	43	189	387
動画		320 × 240	20 秒	90 秒	180 秒
		160 × 120	70 秒	320 秒	650 秒
音声			14 分 02 秒	64 分 38 秒	132 分 13 秒

メモ

残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。

D.海外でお使いのときは

ACアダプター(型名:AC-4a)について
・交流100V、50Hz/60Hzの地域でご使用になれます。 ・電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねのうえ、ご用意ください。

保証書について
・本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。 ・外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生等で現地のテレビを使用する場合
・映像入力端子付きのテレビ(またはモニター)で再生することができます。付属のAVケーブルをご使用ください。 ・本機では、テレビ方式はNTSCとPALに対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。 ・海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

E.使用上のご注意

- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させたり、ファインダーから直接太陽や強い光を見ないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 液晶モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 液晶モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- カメラを持ち運ぶときは、レンズや液晶モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。

メモ

結露の発生しやすい状態

・本機を急激な温度差のあるところに移動したとき
・湿気の多いとき
・暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

F.お手入れと保管について

■お手入れ

・レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
・レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
・海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
・万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
・シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
・液晶モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
・液晶モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されている溶剤を、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

■保管について

・次のような場所での保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。
高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
砂、ほこり、ちりの多い場所
振動の激しいところ
防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
強い磁場の発生するところ（モニター、トランス磁石のそばなど）
・電池をご使用の場合、長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

■お手入れ時のご注意

(1) 必ず電源をオフにしてください。
(2) バッテリーやACアダプターを取り外して、お手入れしてください。

G.お困りのときは

修理にお出しになる前に、もう一度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、リコー修理受付センターにお問い合わせください。

■電源について

症　状	原　因	処　置	参照頁
電源が入らない。	バッテリーがセットされていない。または消耗している。	バッテリーを正しくセットする。または充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。	P.12 P.13 P.14
	ACアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.14
	カメラが高温になったため、電源が自動的に切れている。	そのまま温度が下がるまで待ち、電源を再投入する。なお、急激に温度を下げることはしないでください。	ー
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.16 P.108
	バッテリーが消耗している。	アルカリ電池使用時は新品電池に交換する。リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、ACアダプターを使う。	P.12 P.13 P.14
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。 AC アダプター使用時には接続しなおす。	P.12 P.13 P.14
バッテリーを充電できない。	バッテリーの寿命。	新しいバッテリーに交換する。	P.13
バッテリーの消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	ー	ー
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	ー	ー

■撮影について

症　状	原　因	処　置	参照頁
シャッターボタンを押しても撮影できない。	バッテリーがセットされていない。または消耗している。	アルカリ電池使用時は新品電池に交換する。リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、ACアダプターを使う。	P.12 P.13 P.14
	電源が入っていない。または撮影モードになっていない。	電源を入れ、モードダイヤルを撮影モードに合わせる。	P.11
	シャッターボタンを押し切っていない。	シャッターボタンを押し切る。	P.35
	SD メモリーカードがフォーマットされていない。	フォーマットする。	P.104
	SD メモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.17 P.87
	SD メモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.17
	フラッシュが充電中。	フラッシュランプの点滅が終了するまで待つ。	P.50

■撮影について

症　状	原　因	処　置	参照頁
シャッターボタンを押しても撮影できない。	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.17
	SD メモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	–
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.107
液晶モニターに映らない。	電源が入っていない。または液晶モニターが暗い。	電源を入れる。または液晶モニターの明るさを調整する。	P.16 P.105
	AV ケーブルをさした状態になっている。	AV ケーブルを抜く。	P.86
	画面表示が「シンクロモニターモード」になっている。	DISP ボタンを押して表示を切り替える。	P.23
	節電モードになっている。	節電モードをオフにする。	P.110
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズが汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	–
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.37
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する	P.37 P.67
手ブレになる。	シャッターをきったときに、構えたカメラが動いた。	両ひじを身体につけて構える。 三脚を利用する。	
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO 感度を上げる。	
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	撮影モードが（連写）、（動画）になっている。	撮影モードを（静止画）に切り替える。	P.50
	フラッシュが（発光禁止）になっている。	ボタンで発光禁止を解除する。	P.50
	ホワイトバランスがオートモード以外になっている。	ホワイトバランスをオートモードにする。	P.56
	バッテリーが消耗している。	アルカリ電池使用時は新品電池に交換する。リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、必要に応じて AC アダプターを使う。	P.12 P.13 P.14
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が、望遠時で約 2.5m 以上、広角時で約3.0m以上離れている。	被写体に近づいて撮影する。	P.50
	黒っぽい被写体である	露出補正を行う（フラッシュの光量も露出補正値に連動します）。	P.54
画像が明るすぎる。	被写体までの距離が近すぎる。	ボタンで発光禁止にする。	P.50
	露出がオーバーしている。	露出補正を行う。長時間露光を解除する。	P.54 P.72
	液晶モニターの明るさがおかしい。	液晶モニターの明るさを調整する。	P.105
画像が暗すぎる。	暗いところを（発光禁止）で撮影している。	ボタンで発光禁止を解除する。	P.50
	露出が不足している。	露出補正を行う。長時間露光を設定する。	P.54
	液晶モニターの明るさがおかしい。	液晶モニターの明るさを調整する。	P.105

■撮影について

症　状	原　因	処　置	参照頁
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはオートモード以外のホワイトバランスを使用する。	P.56
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示の機能で、表示なしになっている。	DISP ボタンを押して表示を切り替える。	P.23
AF 動作中、液晶モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	−
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写したときに起こる現象。スミア現象という。	故障ではありません。	−
AF ターゲットの十字が移動できない	マクロモードになっていない。	あらかじめマクロモードに設定してから、ADJ.ボタンを3回（または4回）押す。	P.45

■再生 / 削除について

症　状	原　因	処　置	参照頁
再生できない。または再生画面が出ない。	▶（再生モード）になっていない。	モードダイヤルを ▶（再生モード）に合わせる。	P.79
	AV ケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.86
	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	−
SD メモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SD メモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていない SD メモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	P.17
	本機でフォーマットしていないSDメモリーカードを再生した。	本機でフォーマットし、記録したカードをセットする。	P.104
	正常に記録されていない SD メモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	P.17
	SD メモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	−
	使用中のSDメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	−
画面が消えた。	バッテリーが消耗している。	アルカリ電池使用時は新品電池に交換する。リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、必要に応じて AC アダプターを使う。	P.12 P.13 P.14
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.16
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.96
	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.17

■再生 / 削除について

症　状	原　因	処　置	参照頁
SD メモリーカードをフォーマットできない。	SD メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.17

■その他

症　状	原　因	処　置	参照頁
SD メモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.17
カメラのボタンを操作しても作動しない。	バッテリーが消耗している。	アルカリ電池使用時は新品電池に交換する。リチャージャブルバッテリー使用時は充電するか、必要に応じて AC アダプターを使う。	P.12 P.13 P.14
	カメラの誤動作。	一度電源を切り、電源を再投入して、モードダイヤルを （静止画）に切り替える。	P.11 P.16
		電池をセットしなおす。 AC アダプター使用時には接続しなおす。	P.12 P.13 P.14
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.111
設定した日付が消えてしまった。	バッテリーを抜いてしまった。	バッテリーを取り出した状態が約 2 週間以上続くと、日付がリセットされます。再度、設定し直してください。	P.111
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフがOFFになっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.108
ブザー音が鳴らない。	消音が設定されている。	ブザー音の設定を ON にする。	P.107
テレビに映らない。	ビデオ方式の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.112
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.86
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	−

■パソコンとの接続/ソフトウェアについて

症状 1　画像の取り込みができないときには・・・

対処方法1

Caplioレスキューを起動して、メッセージに従って操作してください（→P.178参照）。

対処方法2

カメラが正しくパソコンに認識されていない可能性が考えられます。

次のように操作してみてください。

●Windows 98/98SE/Meの場合には・・・

Step1：まず、次の操作をしてみてください。

① Caplio CD-ROMをパソコンにセットします。

② パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。

③ Windowsのタスクバーにある[スタート]をクリックして[スタート]メニューを表示します。

④ [設定]を選択し、[コントロールパネル]を選択します。

⑤ コントロールパネルが表示されるので、[システム]アイコンをダブルクリックします。

⑥ [システムのプロパティ]画面が表示されるので、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

⑦ [デバイスマネージャ]タブが表示されるので、[その他のデバイス]の左に表示された[+]をクリックします。

⑧ 下位に表示された項目に[Caplio RX]がないか確認します。もしあれば、[Caplio RX]をクリックして、[デバイスマネージャ]タブの下の方に表示されている[削除]ボタンをクリックします。

[Caplio RX]が削除されます。

⑨ [OK]ボタンをクリックして[システムのプロパティ]画面を閉じます。

⑩ コントロールパネルに戻るので、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

⑪ [アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されるので、[Caplio Software]を選択し、[追加と削除]ボタンをクリックします。

Caplio Softwareがアンインストールされます。

⑫ [OK]ボタンをクリックして[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面を閉じます。

⑬ [×]（閉じる）ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じます。

⑭ パソコンとカメラの電源を切ります。

⑮ 再度パソコンの電源を入れ、CD-ROMから、ソフトウェアの再インストールを行います。

※この時、カメラは接続しないでください。

⑯ カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。

パソコンがカメラを認識すると、[新しいハードウェア]の画面が起動し、カメラがパソコンに登録されます。

Step2：まだカメラが正しくパソコンに認識されない場合には、次の操作をしてみてください。

① Caplio CD-ROMをパソコンにセットします。

② パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。

③ Windowsのタスクバーにある[スタート]をクリックして[スタート]メニューを表示します。

④ [設定]を選択し、[コントロールパネル]を選択します。

⑤ コントロールパネルが表示されるので、[システム]アイコンをダブルクリックします。

⑥ [システムのプロパティ]画面が表示されるので、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

⑦ [デバイスマネージャ]タブが表示されるので、[ポート(COM/LPT)]の左に表示された[+]をクリックします。

⑧ [ポート(COM/LPT)]の下位に表示された[Ricoh Camera Port]に不明なデバイスのマーク（！）がついていないかどうか確認します。もしあれば、それを選択し、[デバイスマネージャ]タブの下の方に表示されている[削除]ボタンをクリックして削除します。

⑨ [ユニバーサルシリアルバスコントローラ]の左に表示された[+]をクリックします。

⑩ [ユニバーサルシリアルバスコントローラ]の下位に表示された[RICOH USB Virtual COM]に不明なデバイスのマーク（！）がついていないかどうか確認します。もしあれば、それを選択し、[デバイスマネージャ]タブの下の方に表示されている[削除]ボタンをクリックして削除します。

⑪ [OK]ボタンをクリックして[システムのプロパティ]画面を閉じます。

⑫ コントロールパネルに戻るので、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

⑬ [アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されるので、[Caplio Software]を選択し、[追加と削除]ボタンをクリックします。

Caplio Softwareがアンインストールされます。

⑭ [OK]ボタンをクリックして[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面を閉じます。

⑮ [×]（閉じる）ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じます。

⑯ パソコンとカメラの電源を切ります。

⑰ 再度パソコンの電源を入れ、CD-ROMから、ソフトウェアの再インストールを行います。

※この時、カメラは接続しないでください。

⑱ カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。

パソコンがカメラを認識すると、[新しいハードウェア]の画面が起動し、カメラがパソコンに登録されます。

●Windows 2000の場合には・・・

Step1：まず、次の操作をしてみてください。

① Caplio CD-ROMをパソコンにセットします。
② パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。
③ Windowsのタスクバーにある[スタート]をクリックして[スタート]メニューを表示します。
④ [設定]を選択し、[コントロールパネル]を選択します。
⑤ コントロールパネルが表示されるので、[システム]アイコンをダブルクリックします。
⑥ [システムのプロパティ]画面が表示されるので、[ハードウェア]タブをクリックします。
⑦ [ハードウェア]タブが表示されるので、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
⑧ [デバイスマネージャ]画面が表示されるので、[その他のデバイス]の左に表示された[+]をクリックします。
⑨ 下位に表示された項目に[Caplio RX]がないか確認します。もしあれば、[Caplio RX]をクリックして、[デバイスマネージャ]画面の下の方に表示されている[削除]ボタンをクリックします。
　[Caplio RX]が削除されます。
⑩ [OK]ボタンをクリックして[デバイスマネージャ]画面を閉じます。
⑪ [OK]ボタンをクリックして[システムのプロパティ]画面を閉じます。
⑫ コントロールパネルに戻るので、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
⑬ [アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されるので、[Caplio Software]を選択し、[追加と削除]ボタンをクリックします。
　Caplio Softwareのソフトがアンインストールされます。
⑭ [OK]ボタンをクリックして[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面を閉じます。
⑮ [×]（閉じる）ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じます。
⑯ パソコンとカメラの電源を切ります。
⑰ 再度パソコンの電源を入れ、CD-ROMから、ソフトウェアの再インストールを行います。
　※この時、カメラは接続しないでください。
⑱ カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。
　パソコンがカメラを認識すると、[新しいハードウェア]の画面が起動し、カメラがパソコンに登録されます。

Step2　まだカメラが正しくパソコンに認識されない場合には、次の操作をしてみてください。

① Caplio CD-ROMをパソコンにセットします。
② パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。
③ Windowsのタスクバーにある[スタート]をクリックして[スタート]メニューを表示します。
④ [設定]を選択し、[コントロールパネル]を選択します。
⑤ コントロールパネルが表示されるので、[システム]アイコンをダブルクリックします。
⑥ [システムのプロパティ]画面が表示されるので、[ハードウェア]タブをクリックします。
⑦ [ハードウェア]タブが表示されるので、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
⑧ [デバイスマネージャ]画面が表示されるので、[ポート(COM/LPT)]の左に表示された[+]をクリックします。

⑨ [ポート(COM/LPT)]の下位に表示された[Ricoh Camera Port]に不明なデバイスのマーク（！）がついていないかどうか確認します。もしあれば、それを選択し、[デバイスマネージャ]タブの下の方に表示されている[削除]ボタンをクリックして削除します。

⑩ [OK]ボタンをクリックして[システムのプロパティ]画面を閉じます。

⑪ コントロールパネルに戻るので、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

⑫ [アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されるので、[Caplio Software]を選択し、[追加と削除]ボタンをクリックします。

Caplio Softwareがアンインストールされます。

⑬ [OK]ボタンをクリックして[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面を閉じます。

⑭ [×]（閉じる）ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じます。

⑮ パソコンとカメラの電源を切ります。

⑯ 再度パソコンの電源を入れ、CD-ROMから、ソフトウェアの再インストールを行います。

※この時、カメラは接続しないでください。

⑰ カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。

パソコンがカメラを認識すると、[新しいハードウェア]の画面が起動し、カメラがパソコンに登録されます。

●Windows XPの場合には・・・

Step1：まず、次の操作をしてみてください。

① Caplio CD-ROMをパソコンにセットします。

② パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。

③ Windowsのタスクバーにある[スタート]をクリックして[スタート]メニューを表示します。

④ [コントロールパネル]を選択します。

⑤ コントロールパネルが表示されるので、[クラシック表示に切り替える]をクリックします。

表示が変わり[システム]アイコンが表示されます。

⑥ [システム]アイコンをダブルクリックします。

⑦ [システムのプロパティ]画面が表示されるので、[ハードウェア]タブをクリックします。

⑧ [ハードウェア]タブが表示されるので、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

⑨ [デバイスマネージャ]画面が表示されるので、[その他のデバイス]の左に表示された[+]をクリックします。

⑩ 下位に表示された項目に[Caplio RX]がないか確認します。もしあれば、[Caplio RX]を右クリックしてメニューを表示し、[ドライバの更新]を選択します。

⑪ [ハードウェアの更新ウィザード]が起動します。ここで事前にパソコンのCD-ROMドライブにCaplio SoftwareのCD-ROMをセットしておきます。

⑫ [ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)]が選択されていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。

⑬ [ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されたら[完了]ボタンをクリックします。

⑭ [×](閉じる)ボタンをクリックして[システムのプロパティ]画面を閉じます。

⑮ [OK]ボタンをクリックして[デバイスマネージャ]画面を閉じます。

⑯ [×](閉じる)ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じます。
⑰ パソコンとカメラの電源を切ります。
⑱ 再度パソコンの電源を入れ、CD-ROMから、ソフトウェアの再インストールを行います。
※この時、カメラは接続しないでください。
⑲ カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。
パソコンがカメラを認識すると、[新しいハードウェア]の画面が起動し、カメラがパソコンに登録されます。

Step2：まだカメラが正しくパソコンに認識されない場合には、次の操作をしてみてください。
① Caplio CD-ROMをパソコンにセットします。
② パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。
③ Windowsのタスクバーにある[スタート]をクリックして[スタート]メニューを表示します。
④ [コントロールパネル]を選択します。
⑤ コントロールパネルが表示されるので、[クラシック表示に切り替える]をクリックします。
表示が変わり[システム]アイコンが表示されます。
⑥ [システム]アイコンをダブルクリックします。
⑦ [システムのプロパティ]画面が表示されるので、[ハードウェア]タブをクリックします。
⑧ [ハードウェア]タブが表示されるので、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。
⑨ [デバイスマネージャ]画面が表示されるので、[イメージングデバイス]の左に表示された[+]をクリックします。
⑩ [イメージングデバイス]の下位に表示された[Caplio RX]に不明なデバイスのマーク(!)がついていないかどうか確認します。もしあれば、表示されたその不明なデバイスマークを右クリックしてメニューを表示し、[ドライバの更新]を選択します。
⑪ [ハードウェアの更新ウィザード]が起動します。ここで事前にパソコンのCD-ROMドライブにCaplio SoftwareのCD-ROMをセットしておきます。
⑫ [ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)]が選択されていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。
⑬ [ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されたら[完了]ボタンをクリックします。
⑭ [×](閉じる)ボタンをクリックして[デバイスマネージャ]画面を閉じます。
⑮ [OK]ボタンをクリックして[システムのプロパティ]画面を閉じます。
⑯ [×](閉じる)ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じます。
ドライバーが正しくインストールされ、カメラがパソコンに正しく認識されるようになります。

対処方法 3

Windows 98/98SE/Meの場合、COMポートの設定が誤っている可能性が考えられます。
次のように操作してみてください。
① パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。
② Windowsのタスクバーにある[スタート]をクリックして[スタート]メニューを表示します。
③ [設定]を選択し、[コントロールパネル]を選択します。
④ コントロールパネルが表示されるので、[システム]アイコンをダブルクリックします。

⑤ [システムのプロパティ] 画面が表示されるので、[デバイスマネージャ] タブをクリックします。

⑥ [デバイスマネージャ] タブが表示されるので、[ポート (COM/LPT)] の左に表示された [+] をクリックします。

⑦ [ポート (COM/LPT)] の下位に表示された [Ricoh Camera Port] をクリックして、[デバイスマネージャ] タブの下の方に表示されている [プロパティ] ボタンをクリックします。

⑧ [Ricoh Camera Portのプロパティ] 画面が表示されるので、[Port Select] タブをクリックします。

⑨ [Port Select] タブが表示されるので、[PortName] で使用していないCOM番号を選択します。

現在カメラが割り当てされているポート（COM番号）の後ろには「*」がついています。

USBドライバのインストール直後には、COM7が選択されているはずですので、COM8以降いずれかを選択してください。

⑩ [OK] ボタンをクリックして [Ricoh Camera Portのプロパティ] 画面を閉じます。

⑪ [OK] ボタンをクリックして [システムのプロパティ] 画面を閉じます。

⑫ [×]（閉じる）ボタンをクリックしてコントロールパネルを閉じます。

対処方法4

カメラをUSBハブを経由して、パソコンに接続している場合は、カメラが正常に認識されていない可能性が考えられます。

次のようにUSBポートを変更してみてください。

・ パソコン本体のUSBポートに直接つないでみます。

・ ルートHUBが複数あれば、もう一方のポートに変更してみます。

なお、USB以外のハブを使用している場合には、USBハブを使用して接続し直してみてください。

対処方法5

電池が消耗している可能性が考えられます。

電池が消耗しているか確認して、消耗している場合には、新しい電池と交換してください。(→P.11参照)

対処方法6

パソコンのハードディスクの空き容量が足りない可能性が考えられます。

Windowsの動作に必要な空き容量と、それに加えて画像ファイル取り込み先ドライブにカメラ側のSDメモリーカードと同じ容量以上の空き容量があることを確認してください。

症状2　RICOH Gate La のオプション設定で、［保存時、同じ画像は保存しない］にチェックを入れていても、同じ画像がパソコンに取り込まれてしまうときには・・・

対処方法

カメラの時計の設定が正しくない、もしくはカメラの時計情報がリセットされてしまっている可能性があります。

[保存時、同じ画像は保存しない] の機能を正しく働かせるには、カメラの時刻情報を正しく設定する必要があります。カメラの時計情報を正しく設定してください。（→P.111参照）

症状3　カメラから取り込んだファイルをパソコン上で削除してしまったので、同じファイルを再度カメラから取り込もうとしたが、取り込むことができなかった。こんなときには・・・

対処方法

RICOH Gate Laのオプション設定で、[保存時、同じ画像は保存しない]にチェックマークが付いていると、一度取り込んだファイルはパソコンに取り込まれません。RICOH Gate Laのオプション設定で[保存時、同じ画像は保存しない]のチェックマークを外してください。（→P.130参照）

症状4　動画が再生できないときには・・・

対処方法1

Caplio レスキューを起動して、メッセージに従って操作してください（→参照)。

対処方法2

DirectXがインストールされていない可能性が考えられます。(Windows 98/98SE/Me/2000の場合）Caplio CD-ROM から DirectX をインストールしてください。（インストール方法→P.122参照）

症状5　カメラをWindowsXPにUSB接続した時に「RICOH Gate La」を起動しないようにするには・・・

対処方法

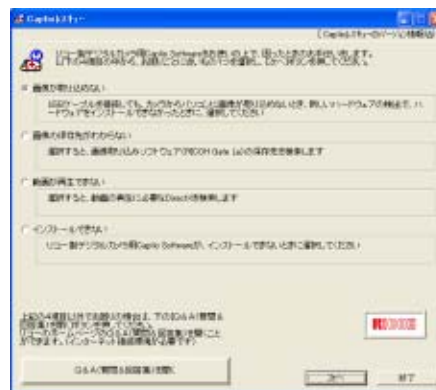
カメラとパソコンを USB 接続し、Windows タスクバーの「スタート」ボタンより「マイコンピュータ」を開きます。マイコンピュータの画面上のカメラのマークの上で右クリックし「プロパティ」をクリックして開きます。カメラのプロパティ画面を開き、「イベント」をクリックします。イベントページの「動作」の設定場所で「何もしない」または「実行するプログラムを選択する」をクリックし、[OK] をクリックしてください。「何もしない(T)」を選択すると、カメラをパソコンに接続したときに、何も動作が起きません。「実行するプログラムを選択する(P)」を選択すると、カメラをパソコンに接続したときに、画面が表示され、起動するプログラムを選択できます。

Caplio レスキューについて

パソコンにインストールされているトラブルシューティングソフト（Caplio レスキュー）をお試しください。

Caplio レスキューでは、画面のメッセージに従って操作すると、パソコンとの接続やソフトウェアに関するトラブルに対する対処方法が表示できます。

Caplio レスキューは、[ソフトのインストール] ボタンで付属ソフトのインストールを済ませていれば、パソコンにインストールされています。

インストール時にショートカットを作成した場合には、デスクトップ上にショートカットが表示されています。

Caplio レスキューを使うには

Caplio レスキューは、次のように操作して起動します。

起動方法1：Windowsの［スタート］メニューから起動する

① Windowsのタスクバーにある[スタート]をクリックして[スタート]メニューを表示します。

② [プログラム] を選択し、[Caplio Software] を選択します。

③ [Caplio レスキュー（トラブルシューティング）] を選択します。

起動方法2：デスクトップ上に作成したCaplio レスキューのショートカットをダブルクリックする

Caplioレスキュー(トラブルシューティング)

起動方法3：CD-ROM ドライブに付属の Caplio　CD-ROM をセットし、[Caplio レスキューの起動（トラブルシューティング)］をクリックする

H.エラーメッセージが表示されたら

液晶モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の方法で対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照頁
CARD を入れてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.17
日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.111
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。不要なファイルを削除するか、他のカードをご使用ください。	P.87
表示できないファイルです。	再生できないファイルを選択しました。	−
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.98
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.96
ライトプロテクトされています。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.17
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル（動画など）です。	−
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.87
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を 0 にしてください。	P.99
内蔵メモリーをフォーマットしてください。	内蔵メモリーをフォーマットする必要があります。	P.105
CARD をフォーマットしてください。	カードがフォーマットされていません。カードをフォーマットしてください。	P.104
使用できない CARD です。	再度フォーマットし直してください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.104
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	−
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	−
記録できません。	撮影可能枚数が 0 になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	−

I.アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保障期間内で無料修理いたしますので、リコー修理受付センターかお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、リコー修理受付センターにご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。

①使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障。

②使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障。

③火災、天災、地変等による故障。

④保管上の不備（高温多湿や防虫剤の入った場所での保管、電池等の液漏等、カビ発生等）による故障。

⑤浸（冠）水、飲物（ジュース、酒類等）かぶり、砂（泥）入り、ショック、落下等による故障。

3. 保証書に記載された保障期間経過後は、本製品に関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証書の添付のない場合や、販売店名、ご購入年月日の記入がない場合ならびに記載事項を訂正された場合には、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。
5. 保証期間内であっても、本製品について各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
6. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップ等の付属品類および本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
7. 無償修理期間中であると否とにかかわらず、本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および得べかりし利益の損失）等については補償いたしかねます。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。

＊以上の保証規定は無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

＊以上の保証規定は本製品に関する保証書にも同様の趣旨で記載されています。

9. 本製品の補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5年を目安に保有しております。
10. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下等で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの等は修理できない場合もあります。ご了承ください。

メモ

- 修理にお出しになる前に、バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合もございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
- 修理にお出しになる際は、故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理にお出しになる際は、修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯等をお勧めいたします。
- 修理にお出しになった場合、メモリカードおよび内蔵メモリー内のデータについては保証できません。

リコー修理受付センター

万一、本製品がご使用中に故障した場合は、下記のサービスメニューからお客様がご希望のサービス方法をお選びいただき、記載されているリコー修理受付センターまでお申し込みください。

＊ 本製品の保証書に記載された保証期間内は、無料修理となりますが、保証書裏面の保証規定第２項の記載に該当する場合は、保証の対象にはなりません。

＊ 各サービスメニューの対象は、製品本体のみとさせていただきます。

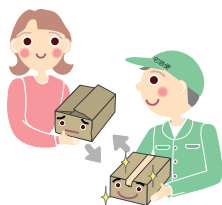
＊ 本サービスは、日本国内のみ有効です。

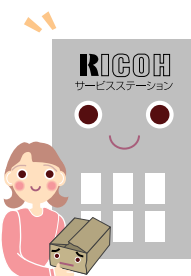
●たくはいサービス●

着払い宅配便にてお送りいただくサービスです。
リコー修理受付センターにお電話でお申込みいただきますと、その日のうちに梱包材料および送り先を印刷した着払い伝票をお送りします。お送りした材料で梱包し、最寄りの宅配便取扱店へお持ちください。
（期間）宅配便取扱店がお預かりしてから、弊社営業日で 10 日間ですが、修理完成後あらためてお届け日をご連絡させていただきます。
（料金）保証内（無料）修理の場合は料金はかかりません。保証外（有料）修理の場合には修理料金を配達の際に申し受けます。

●ひきとりサービス●

訪問・お預かりサービスです。
リコー修理受付センターにお電話でお申込みいただきますと、運送業者がお客様のご自宅（事務所）に訪問し、機械を梱包してお預りします。
（期間）宅配便取扱店がお預かりしてから、弊社営業日で 10 日間ですが、修理完成後あらためてお届け日をご連絡させていただきます。
（料金）初年度保証期間中でも有効ですが、引取り梱包料金 2,000 円を別途申し受けます。
初年度保証期間以後は規定料金に 2,000 円が加算となります。修理料金は配達の際に申し受けます。

●こうかんサービス●

同一機種との訪問・交換サービスです。
本サービスは機械を連続してご使用になっていて、修理のためにお預りできないお客様に最適です。リコー修理受付センターにお電話でお申込みいただきますと、お使いの機種と同一機種を運送業者が持参し、交換致します。
※本サービスは初年度保証期間終了後有効となります。
（期間）お申込み日から弊社営業日で３日以内に交換いたします。
（料金）故障内容で決めさせていただいた規定料金に引取梱包料金2,000円と交換料金 5,000 円が加算となります。料金は配達の際申し受けます。
※新たにご提供する機械については、新品ではないこと、および外観、色合い等が交換前の機械と同一でないことをあらかじめご了承願います。
※本サービスにより回収した機械のお客様へのご返却はいたしかねます。
※回収する機械のお客様のプライベート情報や、必要なデータ等が残ったままにならないように、十分ご注意願います。
※限定販売品や名入れ・刻印等を施した製品は対象外とさせていただきます。

●もちこみサービス●

サービスステーションへ御持参いただくサービスです
お買い上げのご販売店、「全国サービス拠点一覧」（http://www.r-ts.co.jp/kyoten/index.html）一覧に記載されている最寄りのサービスステーション、またはカメラサービスセンターのいずれかにお持ちいただいた場合でも修理の受付をいたします。修理期間、料金はお持ちいただいた際におたずねください。

時間帯指定サービス

たくはいサービス、ひきとりサービス、こうかんサービスの各サービスで、修理完成品の配達日の時間帯指定ができます。時間帯は10:00～20:00までの間で、時間帯区切りは2時間です。

①10：00～12：00　②12：00～14：00　③14：00～16：00
④16：00～18：00　⑤18：00～20：00

＊リコー修理受付センターへご連絡の際、お申し込みください。

1. 修理に際し、メモリー等記憶装置内のデータの保存については保証いたしかねますのでご了承ください。
2. 修理におだしになる前に、バッテリーのチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いします。
3. 修理個所によっては規定以上の日数がかかる場合がございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
4. 修理ご依頼の際は、故障内容と故障個所をできるだけ詳しくお申し出ください。
5. 「リコー修理受付センター」は上記取扱商品の故障に関する修理方法、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。

修理以外の製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せ、ご相談はリコーお客様相談室までお願い申し上げます。

■デジタルカメラ相談窓口

製品に関する要望、その他お困りの点についてのご相談

リコーお客様相談室

フリーダイヤル:0120-000475　　　FAX:0120-479417

受付時間：９：00～17：00（月～金）

土曜・日曜・祝日は勝手ながら休ませていただきます。

インターネットでもご相談をお受けしています。

http://www.ricoh.co.jp/SOUDAN/index.html

■デジタルカメラ修理受付窓口

デジタルカメラ修理に関するお問い合わせ

全国サービス拠点一覧 (リコーテクノシステムズ株式会社)

http://www.r-ts.co.jp/kyoten/index.html

リコー修理受付センター（リコーロジスティックス株式会社）

(宅配便を利用した修理品の受付センター）

フリーダイヤル：0120-053956

受付時間：９：30～17：00（月～金）

土曜・日曜・祝日は勝手ながら休ませていただきます。

カメラサービスセンター

〒104-0061　東京都中央区銀座6-14-7（リコー三愛ビル別館）

電話03-3543-4187

受付時間：９：30～17：00（月～金）

土曜・日曜・祝日は勝手ながら休ませていただきます。

■リコーデジタルカメラの情報がインターネットでご覧頂けます。

http://www.ricoh.co.jp/dc/index.html

索引

記号・英数字

あ

か

さ

た

な

は